23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	スポーツと科学						
教員名	田原　麗衣						
科目№	120630010	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本科目では、運動・スポーツとくにそのパフォーマンスに着目し、自然科学的なアプローチをすることで、より理解を深めることを主たる目的とする。
スポーツパフォーマンスを構成する・支える要素は、「スキル・フィットネス・モチベーション」といわれ、日本でも古来から「心・技・体」といわれるように、世界共通である。また、近年注目されるようになってきた「戦術・戦略」などの要素がある。これらの要素をもとに、スポーツパフォーマンスを支える科学について授業を展開、検証する。
運動・スポーツを題材とし、それぞれの要素を科学的に検証し、要素還元論的な考察をする過程を通して、合目的的に活動するための教養を高めてもらいたい。

〔到達目標〕

①スポーツ・運動に関する科学的根拠を理解でき、スポーツ関連諸科学の学問内容や方法が理解できる。
②自己やスポーツ・運動を客観的に把握・分析し、論理的に説明できる。さらに、様々な知識、原理原則等を活用できるようになる。
上記を到達目標とし、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）の実現を目指す。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス： シラバスの内容、授業の進め方、評価基準等について把握する。	シラバスからあらかじめ授業内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準について確認する。	60
第２回	スポーツパフォーマンスを構成する要素： スポーツパフォーマンスを構成する要素や体力トレーニングの理論について把握する。	【予習】スポーツパフォーマンスに影響を及ぼしている要素を考えてみる。 【復習】自身の体力向上のためのトレーニング計画を立ててみる。	60
第３回	スポーツと体力科学： ピリオダイゼーション（期分け）とトレーニングプログラミングについて把握する。	【予習】トレーニング計画を立てる上で注意するべき事項について考えておく。 【復習】スポーツにおけるピリオダイゼーション(期分け)について、各期の課題を説明できるようにする。	60
第４回	スポーツと体力科学： 各機能を高めるためのトレーニング方法についての理論や方法を理解する。	【予習】現在（過去）行っている練習で高められる機能には、どのような要素があるか考えてみる。 【復習】目的に応じたトレーニングの方法を説明できるようにする。	60
第５回	スポーツと体力科学： ウォーミングアップやクールダウンの意義や正しい方法を理解する。	【予習】ウォーミングアップやクールダウンの意義を考えてみる。 【復習】自分が行うウォーミングアップやクールダウンの計画を立ててみる。	60
第６回	スポーツと技術の科学： 運動やスポーツにおける技術の定義や技術における動作の局面構造と運動協調について把握する。	【予習】運動・スポーツにおける技術的な上手さ（巧さ）とはどのような状態を指すか考えておく。 【復習】技術における動作の局面構造を説明できるようにする。	60
第７回	スポーツと技術の科学： スポーツの技術に関する能力段階と技術トレーニングについて理解する。	【予習】運動学習の段階について調べておく。 【復習】技術に関する能力段階に応じた、技術トレーニングについて計画を立ててみる。	60
第８回	スポーツと心理学： メンタルトレーニングの基礎理論とアセスメントについて把握する。	【予習】スポーツにおいて用いられているメンタルトレーニングについて調べておく。 【復習】自身のメンタルアセスメントを元に、自身の状況を分析してみる。	60
第９回	スポーツと心理学： スポーツにおけるリラクセーションや様々なメンタルトレーニングプログラムについて把握する。	【予習】メンタルトレーニングプログラムについて調べておく。 【復習】授業で扱ったリラクセーション法やメンタルトレーニングプログラムを実践してみる。	60
第１０回	コンディショニングの科学： スポーツにおけるコンディショニングについて把握する。	【予習】最大限のパフォーマンス発揮のために必要な要素について考えておく。 【復習】自身の重要な場面（スポーツに限らなくても良い）に向けたコンディショニングについて考えてみる。	60
第１１回	スポーツと戦術・戦略の科学： スポーツにおける戦術・戦略、作戦について基本的な理論を把握する。	【予習】スポーツにおいて、戦術・戦略がどのように活用されているか調べてみる。 【復習】戦術・戦略や作戦について具体的に説明できるようにする。	60
第１２回	スポーツと戦術・戦略の科学： スポーツにおけるゲーム分析やデータの活用について把握する。	【予習】スポーツにおけるゲーム分析やデータの活用について、具体例を調べておく。 【復習】より有効にデータを活用し、戦術・戦略を立てる方法を考えてみる。	60
第１３回	スポーツとデータの活用と展開：スポーツにおけるデータの活用と展開について考察する。	【予習】データを活用している身近な例を考えておく。 【復習】今後のスポーツにおけるデータの活用と展開について考察する。	60
第１４回	講義のまとめ： これまでに行った学修内容をまとめ、学修内容を確認する。(到達度確認テストを実施する場合もある)	【予習】これまでの回で学んだ内容を確認しておく。 【復習】レポート作成を通して自身の理解度を確認し、理解度が足りない点は復習する。	90

〔授業の方法〕

各回のテーマに則した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いて講義形式で授業を展開する。必要に応じて測定機器を使用した演習形式の授業、グループによるディスカッション・発表という形式の授業も行う。
授業内課題レポートを課すので、そのレポートを利用して受講生とのコミュニケーションを図り、出来る限り双方向の授業を展開する。

ただし、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

課題提出状況 60%、平常点（授業への参加状況を含む）40%　により総合的に評価する。
履修者数などの状況によっては最終週に到達度確認テストを実施する場合がある。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度にもとづいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識や先修科目は特に必要としない。
関連科目として、健康・スポーツ科目の「健康と科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツ演習 A」、「健康・スポーツ演習 B」の実技科目がある。

〔テキスト〕

特になし。必要な資料は授業内に配布・掲示する。

〔参考書〕

参考書は授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後に、実施場所にて受け付ける。
その他の質問・相談方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	スポーツと文化						
教員名	稲葉　佳奈子						
科目№	120640010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本科目は、スポーツの文化的特質や固有の意義に着目する。スポーツ文化の成立と発展プロセス、スポーツの多様なあり方、スポーツが直面する課題を具体的事例から示し、歴史や社会的背景と関連させて概説する。
講義および各回のテーマに関する考察を通じて文化的側面から運動・スポーツへの理解を深め、視野を広げることを目指す。

〔到達目標〕

DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。
① スポーツが固有にもつ意義について、具体的現象と社会的背景との関連から理解することができる。
② スポーツの文化的特質について、学問的知識にもとづいて論理的に考察および表現することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の概要、成績評価の方法、必要な予備知識等についての説明	シラバスの内容を確認する。	60
第２回	スポーツとは何か	配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。	60
第３回	近代スポーツの成立と発展	配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。	60
第４回	「ルール」がもつ意味	配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。	60
第５回	スポーツとオリンピズム	配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。	60
第６回	スポーツとメディア	配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。	60
第７回	スポーツの商業化	配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。	60
第８回	スポーツとドーピング	配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。	60
第９回	日本のスポーツ文化	配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。	60
第１０回	スポーツと社会問題	配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。	60
第１１回	スポーツとテクノロジー	配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。	60
第１２回	これからのスポーツ文化	配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。	60
第１３回	到達度の確認	到達度が足りないと自覚された箇所を重点的に復習する。	60
第１４回	フィードバックとまとめ	学修内容を総合的にふりかえる。	60

〔授業の方法〕

○ この授業はオンラインで実施する。
○ PowerPoint 等のスライド資料を提示して講義する。
○ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
○ 各回の授業内容に即した課題を指示する。

〔成績評価の方法〕

授業時に取り組む課題（30%）、到達度確認課題（70%）をもとに総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
○ 学問的知識と具体的現象との関わりが適切に理解できているか。
○ 授業内容の理解をふまえた論理的な考察・表現ができているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として講義科目「スポーツと科学」、「健康と科学」、「スポーツと社会」、演習科目「健康・スポーツ演習 A」、「健康・スポーツ演習 B」がある。

〔テキスト〕

特になし。必要な資料等は Course Power を通じて配布する。

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	スポーツと社会						
教員名	岡田　光弘						
科目№	120650010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本科目は、運動・スポーツと社会との関わりについて理解を深めることを主な目的とする。
運動・スポーツ、および社会構造について、概念的な理解を深めることで、運動・スポーツを実践し、享受し、支えることの社会的な意義を理解し、自らその環境を活用するための教養を高めることを目指す。

〔到達目標〕

①スポーツの社会的側面について理解でき、関連する諸科学分野の学問内容や方法を理解できる。
②スポーツに関する政治・経済などの社会の仕組みと動きを理解し、その活用について考えることができる。
上記２点を到達目標とし、DP2（教養の修得）、DC3（課題の発見と解決）の実現を目指す。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスを読み、あらかじめ授業内容や全体像、進め方、評価基準等について確認する。	60
第２回	スポーツについて概念的に把握する。	スポーツ・ゲーム・プレイについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例について、講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。	60
第３回	社会学について、概念的に把握する。	全体社会や社会構造について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例について、講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。	60
第４回	質的な社会学について、概念的に把握する。	社会の中のスポーツ実践について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。	60
第５回	近代スポーツの成立と発展について、概念的・歴史的に把握する。	近代スポーツの成立と発展について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。	60
第６回	メディア化するスポーツについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。	メディア化するスポーツについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。	60
第７回	消費文化としてのスポーツについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。	消費文化としてのスポーツについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。	60
第８回	スポーツと政治・権力について、概念的に把握し、若干の例示を行う。	スポーツと政治・権力について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。	60
第９回	スポーツとジェンダーについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。	スポーツとジェンダーについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。	60
第１０回	スポーツする身体について、概念的に把握し、若干の例示を行う。	スポーツする身体について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。	60
第１１回	スポーツと教育について、概念的に把握し、若干の例示を行う。	スポーツと教育について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。	60
第１２回	スポーツと地域社会について、概念的に把握し、若干の例示を行う。	スポーツと地域社会について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。	60
第１３回	職業としてのスポーツや視聴者としての消費について、概念的に把握し、若干の例示を行う。	職業としてのスポーツや視聴者としての消費について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。	60
第１４回	まとめの講義	これまでの学修を総合的にふり返る。	60

〔授業の方法〕

・オンデマンドでの視聴に基づいて進行する。
・各回のテーマに即した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いながら講義形式で授業を進める。
・毎回授業内でレポートを課する。
・授業の進捗によって、予習内容について報告（プレゼンテーション）を求めるなど、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

「学期末試験」「期末レポート」は実施しない。
各回のレポート（受講状況を含む）60%、
最終回まとめのレポート 40%をもとに、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
また、次の点に着目し、その達成度により評価する。
・毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。
・キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、健康・スポーツ科目の「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツ演習 A」、「健康・スポーツ演習 B」の演習科目がある。

〔テキスト〕
改訂版『よくわかる　スポーツ文化論』、井上俊・菊幸一編著、ミネルヴァ書房、2500 円

〔参考書〕
『現代メディアスポーツ論』、橋本純一編、世界思想社、2300 円

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Portal でのやりとりに加えて、火曜日の出講時（２時限語.３時限後）に、体育館の講師室にて受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	健康と科学						
教員名	境　広志						
科目№	120660010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本科目では、健康の維持・増進や疾病の予防を目的とした運動やスポーツを安全かつ効果的に実施するために必要な知識と理論についてを学ぶ。具体的なテーマは、骨格筋や神経、呼吸・循環器系、ホメオスタシス、栄養・エネルギー、トレーニングの理論、生活習慣病、運動処方、応急手当てなどである。

〔到達目標〕

① 科学的根拠に基づいた運動・スポーツの実践の必要性を認識し、社会での取り組みを理解し、それらを自己の健康実現と結びつけて考えることができる。
② 健康の維持・増進や疾病の予防を目的とした運動やスポーツを安全かつ効果的に実践するための方法を科学的に説明できる。
上記２点を到達目標とし、DP2(教養の修得)、DP2(課題の発見と解決)の実現を目指す。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・ 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、評価基準の説明 ・ 講義内容に関するクイズの実施	【予習・復習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60
第２回	運動器のしくみ～骨格筋～ ・ 関節のしくみ ・ 筋収縮の様式 ・ 筋の構造 ・ 筋収縮のメカニズムとエネルギー ・ 筋線維のタイプ	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60
第３回	運動器のしくみ～神経系～ ・ 運動単位 ・ 運動のコントロール ・ 小脳による調整 ・ 力の種類とトレーニング	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60
第４回	運動と心肺機能～呼吸器系～ ・ 呼吸の調節 ・ ガス交換 ・ 酸素借と酸素負債 ・ 運動強度と最大酸素摂取量 ・ トレーニングによる呼吸機能の向上	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60
第５回	運動と心肺機能～循環器系～ ・ 心臓の拍動 ・ 心拍動の調節 ・ 4 つのポンプ機能 ・ 運動と血圧・血流配分	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60
第６回	運動とホメオスタシス～体液～ ・ 身体の内部環境 ・ 体液量と組成 ・ 水分量の調節と腎臓 ・ 運動とホメオスタシス ・ 脱水	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60
第７回	運動とホメオスタシス～体温～ ・ 体液の pH の調節 ・ 体温のホメオスタシス ・ 熱の産生と放散 ・ 体温調節 ・ 運動と体温調節 ・ 熱障害	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60
第８回	運動と栄養素 ・ 食品の栄養素 ・ 栄養素の働きと運動 ・ 糖質と脂質の利用 ・ グリコーゲンの補給 ・ タンパク質の働き	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60
第９回	トレーニングと栄養 ・ ミネラル・ビタミン・水 ・ 食事摂取基準 ・ エネルギー消費量 ・ 食事への展開 ・ グリコーゲン・ローディング	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60
第１０回	トレーニングの理論～全身持久力～ ・ トレーニングとは ・ トレーニングの原理・原則 ・ 全身持久力のトレーニング(カルボーネン法) ・ 高地トレーニング	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60
第１１回	トレーニングの理論～筋力トレーニング～ ・ 筋力のトレーニング ・ スキルのトレーニング	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60

	・　ウォームアップとクールダウン ・　トレーニングと休息		
第１２回	運動と生活習慣病 ・　運動の種類と生理的変化 ・　運動と肥満 ・　運動と糖尿病 ・　運動と脂質代謝 ・　運動と高血圧 ・　運動と骨粗鬆症	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60
第１３回	健康の維持・増進～運動処方～ ・　運動処方とは、トレーニングの原理 ・　メディカルチェック、 ・　運動処方の構成要素 ・　運動プログラムの進め方 ・　課題レポートについて	【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。	60
第１４回	全体のまとめと期末レポートの紹介 ・　全体のまとめ ・　期末レポートの紹介	【予習】作成した期末レポートをふりかえる。 【復習】他の受講生の期末レポートについてふりかえる。	120

〔授業の方法〕

基本的にはオンデマンド形式で行う。事前にコースパワーにてレジュメを配布する。また、必要に応じて DVD 教材を用いる。毎回コースパワーにふりかえりを提出する。

〔成績評価の方法〕

以下の基準で総合的に評価する。
・授業への参加・取組状況など(ふりかえりを含む)：40%
・期末レポート：60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・　毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。
・　キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目として、健康・スポーツ科目の「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」がある。また、法学部生は、学部開講の「健康政策論」を併せて履修することが望ましい。

〔テキスト〕

テキストは特にない。必要資料等は授業内に配布する。授業内で下記の視聴覚資料(DVD)を使用する。
『目で見る運動生理学・第 2 版』　全 6 巻 (医学映像教育センター)※この視聴覚資料は成蹊大学図書館にて閲覧が可能である。

〔参考書〕

参考書は授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代社会と哲学						
教員名	関口　浩						
科目№	120710310	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

今世紀の始まりの頃から、サステナビリティ、持続可能性ということが、主に企業経営のあり方の問題として盛んに論ぜられ、今に至っている。その際、企業が単に利益をあげることのみを目指すのではなく、さまざまな社会的責任をも果たしてゆくべきだ、というような議論が行われてきた。この講義では、サステナビリティということを、そういう企業経営といった範囲にとどまらず、より広い領域にひろげて考えていきたいと思う。究極的には、われわれすべて、人類全体の問題として考えていきたいと思う。地球全体の気候変動や環境汚染の問題は、まさに今後の人類の存続がかかった問題であるが、そういうことを哲学的に考えていきたいと計画している。

〔到達目標〕

現代という時代のいちばん深いところを洞察しようとする根本的な思索について、それを単に知識として学習するのではなく、むしろ履修者各自が自分自身の精神のなかでそうした＜事柄＞を共に経験してもらいたい。さらに、履修者各々もまた、自分自身でそのような＜事柄＞を思索できるようになってもらいたいと思います。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	サステナビリティ議論の歴史。 ローマ・クラブ『成長の限界』から SDGs へ。	復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。	６０分
第２回	サステナビリティの現状。 危機を技術的に克服する努力。サーキュラー・エコノミーについて。	復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。またこれまでの２回の授業を通じて問題となっていたサステナビリティの問題を、より身近な事柄としてあらためて考えること。	６０分
第３回	技術文明の本質について歴史的考察。 17 世紀の科学革命――ガリレイとデカルト。自然の支配。全面的合理化の過程（マックス・ヴェーバー）。	復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。	６０分
第４回	技術文明への疑問。 科学への疑問――アインシュタインとオッペンハイマー。脱成長論者の批判――有限の地球環境と無限の成長との矛盾を指摘。	復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。	６０分
第５回	知性への疑問。 旧約聖書に記された「バベルの塔」の逸話のように、古代より人間の知性の行き過ぎを咎める教訓が数多くある。知性に関するそうした古代の英知について検討する。	復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。	６０分
第６回	神による人間知性の限界付け。 キリスト教神学におけるヒューマニズムに対する批判。アウグスティヌスの自由意志論、ルターの原罪論。	復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。 キリスト教神学に関して不明な点は各々が資料を調べて理解すること。	６０分
第７回	自然による人間知性の限界付け。 ルソーの「自然へ帰れ」。ストア学派の「自然に従え」。老荘思想の自然観。東洋倫理としての〈知足〉。	復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。	６０分
第８回	芸術について。合理化する思考とは別なる思考。 脱成長論者の芸術論。ハイデガーの技術論中の芸術論。	復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。	６０分
第９回	さらに別なる思考を求めて。不合理性の現実。 カント「幻視者の夢」。ユングの「共時性」。	復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。	６０分
第１０回	理性の狡知（ヘーゲル）について。 科学者や脱成長論者の警告にもかかわらず、経済成長は止まらないし、科学の進歩も止まらない。全面的合理化の過程は、いかにしても、止まらない。なぜ止まらないのか。	予習として、すでに配布したアインシュタインとオッペンハイマーの資料を再度熟読すること。 復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。	６０分
第１１回	自然の支配の次に来るもの、人間存在自体が合理化されること。 死への欲動（フロイト）は理性的な冷静さ。ストレス社会の現実。	復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。	６０分
第１２回	少子化の問題。少子化の現状と対策。 オルナ・ドーナト『母親になって後悔してる』。	予習として、前回配布のテキストをもう一度読んでくること。 復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。	６０分
第１３回	近代化以前の社会におけるサステナビリティ。 江戸時代から続く農民と職人との生活について民俗学の調査を参照しつつ理解を深める。	復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。	６０分
第１４回	今学期の講義全体について再確認。	予習として、今学期の講義全体を回想すること。	６０分

〔授業の方法〕

絵画や写真、映画などヴィジュアルな資料も必要に応じて使っていきたいと思っています。

〔成績評価の方法〕

課題についてのレポート提出。
課題とされた事柄について各受講者が自分自身でどれほど哲学的に思索できたかを評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
いかなる予備知識も求めません。
関連科目は「哲学の基礎」。

〔テキスト〕

とくに定めません。（毎回、資料を配布する）

〔参考書〕

授業時間中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

質問等は授業前･授業後に受け付けます。
またメールでの質問にも応えます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代社会と倫理学						
教員名	佐藤　雅男						
科目№	120710410	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

〔テーマ〕必須
混乱状況からの出発
〔概要〕
近・現代の日本の思想家や文学者の言葉を、倫理学の視角から取り上げて、その意味を考えてみよう。
例えば近代日本を先導した福沢諭吉は,『文明論之概略』「緒言」で，日本人は，異常な過度期を生き抜かざるを得ない理由で，自らの過去の経験によって，新たに学び知った文明を照らすことが出来るという意味のことを述べた。　そこには、眼前の否定的な混乱状況を、逆に、「今の一世を過ぐれば，決して再び得べからざる」ような「好機」と見なす楽観的な精神構造の一種がある。
こうした事柄は、現代社会にも具体的に存続し、私達はそうした混乱の渦中で、自己の生活経験を論理的に整序する必要がある。そこに根本的に問題になるのが、人間性の意味であり、倫理学の根源は、「如何に生きるべきか」である。近・現代の日本を先導した人物達の倫理思想を学びながら、現代社会を生きる人間の問題を考えてみたい。(DP2-DP5)

〔到達目標〕

〔到達目標〕必須
・日本の近・現代を先導した思想家の文章を読みながら、その意味を考えることで、今を生きる私達の指針を形成する。
・物事を多角的にとらえる発想を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業のガイダンス。 近代日本の特質。	授業のテーマと全体像をつかむ。	60
第２回	明治維新と文明開化。	歴史的な時代背景と国際情勢をつかむ。	60
第３回	啓蒙思想－福沢諭吉。	「独立の気力」という言葉について考える。	60
第４回	自由民権思想－中江兆民。	「東洋のルソー」と言われた人物像をつかむ。	60
第５回	キリスト教－内村鑑三。	「無教会主義」の意味をつかむ。	60
第６回	国民道徳－教育勅語。	中味の再検討をする。	60
第７回	東洋の美－岡倉天心。	「自我の顕現」の意味をつかむ。	60
第８回	浪漫主義－北村透谷。	「内部生命」の意味をつかむ。	60
第９回	自然主義－田山花袋と島崎藤村。	私小説の意味をつかむ。	60
第１０回	夏目漱石の文明論。 下田歌子の歌と思想。	「内発的開化」の意味をつかむ。	60
第１１回	森鴎外の文明論。 与謝野晶子の歌と思想。	「利他的個人主義」や「貞操論」の意味をつかむ。	60
第１２回	西田幾多郎の哲学。	「純粋経験」の意味をつかむ。	60
第１３回	和辻哲郎の倫理学。 レポートの書き方	「間柄的存在」の意味をつかむ。	60
第１４回	小林秀雄の批評。 レポートの書き方。	「宿命の人間学」の意味をつかむ。	60

〔授業の方法〕

毎回の授業に、資料を配布する。それを基に授業を進める。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的参加（10%）。最終回の到達度の確認レポート（90%）で評価する。授業中に配布した資料を引用して、1200 字程度のレポートを書いてもらう。書き方に関しては、一回目の授業で概略を言うが、年末年始の頃の授業で、より詳しく説明する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

資料を配布する。

〔参考書〕

『述語集Ⅰ』『述語集Ⅱ』（中村雄二郎、岩波新書）
『日本の思想』（丸山真男、岩波新書）
『堕落論』（坂口安吾、新潮文庫）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	芸術への招待＜1＞						
教員名	西釋　英里香						
科目№	120710610	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本講義では、西洋芸術音楽（クラシック音楽）の 18 世紀から現代までの歴史を、交響曲をはじめとする代表的なオーケストラ曲をとりあげながら考察する。

〔到達目標〕

DP2-1（教養の修得）を実現するため、次の３点を到達目標とする。
●西洋音楽史の時代区分と、各時代の音楽様式の特徴について説明できる。
●西洋音楽史における代表的な作曲家とその作品について説明できる。
●音楽作品の形式（構成）について理解し、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入 西洋音楽史における時代区分をふまえたうえで、交響曲という音楽ジャンルの誕生について学ぶ。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第２回	ハイドンとモーツァルトの交響曲 ヨーゼフ・ハイドン（1732-1809）とヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756-91）の交響曲を鑑賞する。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第３回	ベートーヴェンの交響曲 ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770-1827）の交響曲を鑑賞する。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第４回	19 世紀前半の交響曲　その１ フランツ・シューベルト（1797-1828）とフェーリクス・メンデルスゾーン（1809-47）の交響曲を鑑賞する。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第５回	19 世紀前半の交響曲　その２ 前回に引き続きメンデルスゾーンと、ローベルト・シューマン（1810-56）の交響曲を鑑賞する。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第６回	19 世紀前半の交響曲　その３ エクトル・ベルリオーズ（1803-69）の交響曲を鑑賞する。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第７回	交響詩 19 世紀に誕生した交響詩というジャンルについて学ぶ。フランツ・リスト（1811-86）やリヒャルト・シュトラウス（1864-1949）の作品を鑑賞する。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第８回	ワーグナー リヒャルト・ワーグナー（1813-83）の歌劇を鑑賞するとともに、交響曲についての彼の考えを学ぶ。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第９回	19 世紀後半の交響曲・管弦楽曲　その１ ヨハネス・ブラームス（1833-97）とアントン・ブルックナー（1824-96）の交響曲を鑑賞する。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第１０回	19 世紀後半の交響曲・管弦楽曲　その２ アントニン・ドヴォルザーク（1841-1904）とピョートル・チャイコフスキー（1840-93）の交響曲などを鑑賞する。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第１１回	19 世紀後半の交響曲・管弦楽曲　その３ カミーユ・サン＝サーンス（1835-1921）の交響曲や、クロード・ドビュッシー（1862-1918）の管弦楽曲などを鑑賞する。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第１２回	マーラーの交響曲　その１ グスタフ・マーラー（1860-1911）の交響曲を鑑賞する。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第１３回	マーラーの交響曲　その２ ゲーテの『ファウスト』にまつわるマーラーの《交響曲第 8 番》を鑑賞するとともに、リストの《ファウスト交響曲》もあわせて学ぶ。	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVD や CD を鑑賞する。	60
第１４回	まとめ これまでの授業内容を総括する。	期末レポート作成に向けて、これまでの授業内容を復習する。	60

〔授業の方法〕

●「リアルタイムオンライン授業＋録画提供」の形式で授業を実施する。音楽作品のＣＤやＤＶＤも鑑賞する予定であるが、通信や録画の状況により音質が低下する危険性があることをご理解いただきたい。
●授業内容を理解しているかどうかを確認するきわめて簡単なテストを毎回実施する。
●学期末レポートでは、授業でとりあげた作曲家とその作品の一部を選んで、論じてもらう。
●授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

平常点（課題の提出状況）70%及び学期末レポートの成績 30%により評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
●授業でとりあげた作曲家とその作品について基礎的な知識を獲得し、明確に説明できる。
●西洋クラシック音楽について自分なりの興味を深め、自由に論じることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

楽譜を読めることが望ましいが、もちろん読めなくても履修可。
西洋クラシック音楽を中心に扱うことを了承されたい。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

電子メールで受け付けます。メールアドレスは講義時に告知します。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	芸術への招待＜2＞						
教員名	人見　伸子						
科目№	120710620	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

19～20 世紀初頭の西洋美術史には、それまでの伝統や価値観に新風をもたらす芸術家が次々に登場した。この授業では、そうした芸術家を 13 名取り上げ、彼らが挑戦した「伝統」とは何だったのか、彼らがもたらした「革新」が次の世代にどう伝えられたかという点に注目しながら、その芸術を検証していく。毎回提示されるキーワードに注目しながら、美術作品への関心と理解を深めてほしい。今年度の授業はオンラインで実施する予定である。

〔到達目標〕

① 西洋近代美術史の大きな流れをつかむとともに、背景となった同時代の社会を理解する。
② 開催中の展覧会を複数紹介するので、実際に美術館を訪れて、本物の作品に触れる機会をつくる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の概要・西洋近代美術の流れ ・19～20 世紀初頭の西洋近代美術の流れを概説する。	シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。	60 分
第２回	新古典主義のリーダー：ダヴィッド ・18 世紀末に始まったギリシア・ローマ芸術の復興は「新古典主義」と呼ばれるが、その中心画家であるダヴィッドを取り上げる。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第３回	フランス・ロマン主義の旗手：ドラクロワ ・ダヴィッドのライバルであり、ロマン主義絵画の旗手として活躍したドラクロワの芸術を検証する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第４回	ターナーとロマン主義風景画の黄金期 ・イギリス国内のみならず広くヨーロッパを旅行し、風景を描きつづけた画家ターナーの軌跡を追う。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第５回	クールベとレアリスム ・目の前の現実をありのままに描くレアリスム絵画、その実践に生涯をかけたクールベを検証する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第６回	モデルニテの画家マネ ・印象派の誕生に関わりながら、常に伝統絵画を意識していたマネの存在意義に注目する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第７回	ルノワールと印象派の誕生 ・印象派の中心画家のひとりとして、その誕生から関わったルノワールの芸術を振り返る。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第８回	ドガ：舞台芸術への関心 ・バレエなどの身体表現や舞台芸術に関心を持ちつづけた、印象派の画家ドガを取り上げる。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第９回	スーラと新印象主義 ・点描という新たな技法に、短い生涯をかけたスーラの芸術を検証する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第１０回	20 世紀絵画の父：セザンヌ ・印象派の仲間でありながら、20 世紀絵画への扉を開いたセザンヌの様式の変化に注目する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第１１回	ゴーギャン：西洋社会からの離脱 ・西洋文明から逃れるように南太平洋の島へと旅立ったゴーギャンの芸術を振り返る。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第１２回	もローと象徴主義絵画 ・20 世紀後半のパリにおいて、宗教画や神話画に新風を吹き込んだモローに注目する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第１３回	クリムトと世紀末芸術 ・19 世紀後半、大きく変貌したオーストリアの首都ウィーン、そこに登場した前衛芸術の中心画家クリムトを検証する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第１４回	マティスとフォーヴィスム ・20 世紀初頭に始まった新しい芸術運動のひとつフォーヴィスム、その中心画家マティスを取り上げる。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分

〔授業の方法〕

Course Power を利用して毎回の授業のレジュメを配信し、Zoom を利用したオンラインで授業を進める。授業終了後には内容に関するアンケートに回答。最新の展覧会情報を提供するので、実際の作品を鑑賞する機会を作り、報告レポートを提出してもらう。期末には課題レポートの提出が必要。

〔成績評価の方法〕

毎回のアンケートに基づく平常点（20%）、中間の報告レポート（30%）、期末の課題レポート（50%）を総合して評価する。
単位認定には、3 分の 2 以上の出席と 2 回のレポート提出が必須で条件である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

[増補新装　【カラー版】] 西洋美術史　高階秀爾監修　美術出版社　¥2,090

〔参考書〕

・西洋美術史ハンドブック　高階秀爾・三浦篤編　新書館
・新西洋美術史　千足伸行監修　西村書店
・まなざしのレッスン　2 西洋近現代絵画　三浦篤著　東京大学出版会

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

Course Power Q&A で受け付けます。

〔特記事項〕

特になし

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	芸術への招待＜3＞						
教員名	人見　伸子						
科目№	120710630	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

古くから美術作品の誕生には、実制作者としての芸術家のみならず、注文主あるいはパトロンが重要な役割を果たしてきた。ルネサンス期にはフィレンツェのメディチ家、ローマ教皇ユリウス 2 世などが芸術活動を奨励し、優れた芸術家たちを育ててきた。近代以降になると、王侯貴族や教会に代わって、財界人などの個人コレクターが自分の美意識に従って作品を蒐集し、ユニークなコレクションが輩出した。そして現代では、芸術活動に関心のある企業や地域社会の中に、そうした役割を担うものが育ちつつある。

この授業では、ルネサンス以降の世界の優れたコレクターとその収蔵品、美術館を紹介しながら、コレクション形成の過程を検証するとともに、企業の芸術支援や現代美術を活かした地域の活動についても考察する。美術館はコレクションを収蔵・展示するための単なる箱ではない。来館者に知的な刺激を与え、再び訪れたいと思わせる魅力的な美術館とはどうあるべきか、考えていくことにしよう。

〔到達目標〕

① 海外や日本の代表的な美術館について、その成り立ちや所蔵作品について基礎知識を学ぶ。
② 芸術と企業あるいは地域社会との関係を知り、アフター・コロナを見据えた今後のあるべき姿について考察する。
② 開催中の展覧会を訪れて、実際の作品に触れる機会をつくる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の概要 / 芸術家とパトロン ・芸術家を支えてきたパトロンやコレクター、美術館誕生の歴史を学ぶ。	シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。	60 分
第２回	ヴァティカン美術館 ・ローマ・カトリック教会の総本山があるヴァティカン市国では、歴代の教皇が所蔵した芸術品を数多く眼にすることができる。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第３回	アムステルダム国立美術館 ・オランダ最大の美術館を取り上げ、17 世紀に黄金期を迎えたオランダ絵画に焦点をあてる。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第４回	プラド美術館 ・スペインの首都マドリードを代表する美術館で、ベラスケスやゴヤ等の作品に注目したい。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第５回	ウィーン美術史美術館 ・歴代のハプスブルク家のコレクションを基礎に、19 世紀後半に開館した美術館を取り上げる。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第６回	テイト・ギャラリー ・テイト・ブリテンのイギリス美術、およびテイト・モダンの現代美術に注目して、両館の特徴について学ぶ。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第７回	オルセー美術館 ・旧駅舎を利用した美術館で、19～20 世紀初頭のフランス美術を概観してみよう。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第８回	フリーア美術館 ・ワシントン D.C. の中心に位置し、東洋美術の優れたコレクションで知られる。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第９回	ニューヨーク近代美術館 ・絵画彫刻のみならず、多様なジャンルの現代美術を収集展示する美術館について学ぶ。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第１０回	大原美術館 ・岡山県倉敷市にあり、西洋近代美術を日本に紹介する上で大きな役割を果たした老舗美術館。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第１１回	三菱一号館美術館 ・東京駅に近い丸の内オフィス街に位置し、西洋近代美術を中心に展覧会を積極的に企画している。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第１２回	大阪中之島美術館 ・水都・大阪のシンボルである中之島に 2022 年 2 月に開館、19 世紀後半から今日に至る国内外の多様な作品コレクションを概観する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第１３回	ホキ美術館 ・千葉市にあり、現代の日本人画家による写実絵画を専門に収集展示するユニークな美術館を取り上げる。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分
第１４回	国際芸術祭 ・世界各地あるいは日本全国で展開する芸術祭について、コロナ禍の現状と今後の方向性について考察する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60 分

〔授業の方法〕

Course Power を利用して毎回の授業のレジュメを配信し、オンラインで授業を進める。授業終了後には内容に関するアンケートに回答。最新の展覧会情報を提供するので、実際の作品を鑑賞する機会を作り、報告レポートを提出してもらう。期末には課題レポートの提出が必要。

〔成績評価の方法〕

毎回のアンケートに基づく平常点（20%）、中間の報告レポート（30%）、期末の課題レポート（50%）を総合して評価する。
単位認定には、3 分の 2 以上の出席と 2 回のレポート提出が必須で条件である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

授業時に随時、紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

Course Power Q&A で受け付けます。

〔特記事項〕

特になし

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	カルチュラル・スタディーズ＜1＞						
教員名	清水　均						
科目№	120710710	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

「カルチュラル・スタディーズ＝文化研究」はその根底に「文化を特定の歴史や社会状況における構築物としてとらえる問題意識」を持つ（本橋哲也『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店 2002 年 2 月）。即ち、「文化」というものを静態的なもの（あるいは権威的なもの）として捉えるのではなく、時代や人間の営みのダイナミズムの中で生成する動態的なものとして捉えるということである。それゆえ、私たちは「文化」を特定の作品（名作）や高尚な趣味（エリートによる高級文化）に限定するのではなく、人々の「生活様式の総体＝私たちが日々暮らしている生活のあり方そのもの」として捉える考え方が必要とされる。

かつては「サブカルチャー」とみなされ、文字通り「サブ」扱いされていた（ポジティブにもネガティブにも）アニメやマンガといった文化領域が、メインカルチャーあるいはポップカルチャーとして「日本を代表する文化」という扱い方をされるようになって久しい。「文化」は私たちにとって何らかの価値や意味があるとされるが、特に、私たちの日々の営みと地続きに存在する「サブカルチャー/ポップカルチャー」は、意識的にも無意識的にも、あるいは好きでも嫌いでも、私たちの生活様式や生活感情そのものに価値や意味をもたらすものであるといえ、私たちは嫌でもその強い影響下にあるといえる。

その一方で、そうした文化環境にあって「文学」は「活字離れ」という一括りの元でその地盤沈下がたびたび指摘されるが、では、現代の「文学」は「サブカルチャー/ポップカルチャー」から疎外された存在（＝無関係）でいられるのであろうか?

本講座では、「サブカルチャー/ポップカルチャー」を中心とする現代の文化状況を「カルチュラル・スタディーズ」の視点から俯瞰すると同時に、そうした文化状況における「文学」の立ち位置を、主に村上春樹において検証することとする。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）並びに DP3（課題の発見と解決）を実現するために以下の点を到達目標とする。
①日本の現在の文化環境についての概要を知ることによって、現代人である私たちが、今どのような世界に存在しているのかを把握できる。
②現代社会が戦後、特に高度経済成長期とバブル期を経てどのように形成されてきたかについて、主に「文化」の視点によってその歴史観を説明することができる。
③私たちが生きる現代にあって、自らが他者や社会とどのように関わりながら生きていけるのかということのヒントを得ることができる。
④

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第 1 回	序、授業ガイダンス及びイントロダクション （1）授業ガイダンス ：授業内容、授業の進め方、成績評価等、この授業の概要を説明する。 （2）イントロダクション－1 ・カルチュラル・スタディーズ：文化を研究するとは	（予習） ・授業概要、授業計画について、事前にシラバスを確認しておく。 ※更には、授業で使用する資料等を記載した、より詳細な「授業計画」を「第 1 回」の授業開始前に提示するので内容を確認しておく。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～90 分
第 2 回	序、授業ガイダンス及びイントロダクション （3）イントロダクション－2 ＊前提知識 1：高度経済成長とその終焉	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～90 分
第 3 回	Ⅰ、高度経済成長の終焉前後－「個人主義」の拡張 （1）CM 表現の時代性 ①キャッチコピーの変遷 ②テレビ CM の表現	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～90 分
第 4 回	Ⅰ、高度経済成長の終焉前後－「個人主義」の拡張 （2）流行歌（ポピュラー音楽）の歌詞と時代性 ①戦後～1960 年代における流行歌の変遷概観 ②高度経済成長期前後におけるフォークソングの歌詞の変容	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～90 分
第 5 回	Ⅰ、高度経済成長の終焉前後－「個人主義」の拡張 （3）「個」という価値観の強化－文化的ツールの革新、マンガ表現・文学の時代性 ①ウォークマンの登場 ②マンガ『タッチ』に見る＜異化作用＞ ③村上春樹『風の歌を聴け』	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～90 分
第 6 回	Ⅱ、バブルの崩壊前後－「自己の存在性」への問い ＊前提知識 2：バブルとその崩壊	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～90 分
第 7 回	Ⅱ、バブルの崩壊前後－「自己の存在性」への問い （1）バブル期の村上春樹	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～90 分

第８回	Ⅱ、バブルの崩壊前後－「自己の存在性」への問い （2）女性作家（吉本ばなな・山田詠美）の時代性	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～90 分
第９回	Ⅱ、バブルの崩壊前後－「自己の存在性」への問い （3）1990 年代の「言葉」の諸相 ①「詩的（人生訓的）フレーズ」の流行 ②J-POP の歌詞－浜崎あゆみ、Mr.Children	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～90 分
第１０回	Ⅲ、2000 年代以降－「共生」「共同体」の形成 （1）前段階としての『新世紀エヴァンゲリオン』（引き籠もり系）	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～120 分
第１１回	Ⅲ、2000 年代以降－「共生」「共同体」の形成 （2）前段階としての『デスノート』（決断主義系） （3）「家族共同体」の見直しと劇場版『クレヨンしんちゃん・モーレツオトナ帝国の逆襲』	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～120 分
第１２回	Ⅳ、現代文化の諸相 （1）「システム」の問題性 ①村上春樹『1Q84』、伊坂幸太郎『モダンタイムス』	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～120 分
第１３回	Ⅳ、現代文化の諸相 ② 『魔法少女まどか☆マギカ』と『PSYCHO-PASS』	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～120 分
第１４回	Ⅳ、現代文化の諸相 （2）描かれる「今」 ・アニメと J-POP の「今」を探る	（予習） ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 （復習） ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめ、「到達度確認レポート①」のテンプレートに記録しておく。	60 分～120 分

〔授業の方法〕

この授業は、オンラインで実施する。具体的には、毎回リアルタイムで授業を実施しつつ、その授業の模様を録画、配信するので、それを一定期間内に視聴してもらうことを基本形とする。受講生には可能であればリアルタイムで実施する授業へ参加してもらいたいが、それを必須とするものではなく、また、受講の形が成績評価に影響することはない。
尚、オンラインでの授業に参加するための URL 等の情報は授業開始の前までに Course Power に掲示しておく。
・授業で使用する資料等は事前に Course Power に掲示しておく

〔成績評価の方法〕

平常点のみで評価する。
○内容：「到達度確認レポート①」に対して 50%
　　：「到達度確認レポート②」に対して 50%
※尚、授業時に毎回提出するコメントペーパーに関しては、最終的に上記 2 つのレポートを評価した上で、提出状況と記述内容によって「±α」として扱う。
○それぞれの課題内容は以下の通りである。
- 「到達度確認レポート①」：各回の授業内容のまとめを記述する。（復習）
- 「到達度確認レポート②」：課題内容は授業の中で提示する。（応用）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
以下の点に着目して、その達成度に応じて評価する。
①「到達度確認レポート①」：各回の授業内容を把握し、理解と考察が良くできている。
②「到達度確認レポート②」：課題内容を適切に理解した上で「作品」等の分析と考察が行き届いている。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特に必要な予備知識等はない。

〔テキスト〕

特に指定するものはない。授業は随時プリント資料を Course Power に掲示する。

〔参考書〕

適切であると思われるものについては授業時に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

CoursePower の「質問」機能を利用するとともに、コメントペーパーに書かれた質問に対しては上記「課題等へのフィードバック方法」に記したように CoursePower 及び授業時に答える。また、授業終了後やメールでも受け付ける。 ※メールアドレス：s10393@cc.seikei.ac.jp
〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	カルチュラル・スタディーズ＜2＞
教員名	和田　早苗

科目№	120710720	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

衣生活に関することがらを、外面的な部分から内面的な部分まで様々な角度から追究し、人や民族、歴史にかかわる文化としてとらえていく。
本講義では、まず人間にとって衣服とは何であり、なぜ人は装うのかを考える。次に、衣服の役割・機能面について理解を深めた上で衣服の歴史（服飾史）を、形態の変遷としてだけでなく、時代背景や生活感情との関わりを考えながら概観する。また、現象としての流行やファッション産業などにも触れる。
なお、授業の進捗により、内容や順序を変更する場合もある。

〔到達目標〕

DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】、DP4【表現力、発信力】、DP5【多様な人々との協働】を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①文化的な側面から衣服をとらえて説明することができる。
②衣服と人との関わりについて自分なりに考えを述べることができる。
③衣生活に関する事象についての意見を共有し、他者の意見から様々な考え方、見方について学び、自分の考えを深めることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス(授業の内容、授業の進め方、受講上の注意点) 衣服とは何か	【予習】シラバスを読み、講義内容の全体像を把握する。 【復習】衣服についての自分の考えを整理する。	60
第２回	人はなぜ服を着るのか	【予習】第 1 回目の授業内容をふまえて、人にとって衣服とは何か、自分の考えを持つ。 【復習】文学作品の中の服飾描写の例を確認する。	60
第３回	衣服の役割、衣服の機能	【予習】衣服にはどのような役割があるのか、自分なりに考えておく。 【復習】今回取り上げた内容について、具体例を考える。日本の季節に応じた服装について理解を深める。	60
第４回	民族服	【予習】様々な気候に適した服とはそれぞれどのようなものか、考えをまとめておく。 【復習】民族服について理解を深める。	60
第５回	西洋服飾史（1）	【予習・復習】歴史の流れの中での衣服、着る人と服とのかかわりについて考えを整理する。	60
第６回	西洋服飾史（2）	【予習・復習】歴史の流れの中での衣服、着る人と服とのかかわりについて考えを整理する。	60
第７回	日本服飾史（1）	【予習・復習】歴史の流れの中での服飾、着る人と服とのかかわりについて考えを整理する。	60
第８回	日本服飾史（2）	【予習・復習】歴史の流れの中での服飾、着る人と服とのかかわりについて考えを整理する。	60
第９回	服飾と文様	【復習】着物の文様の構図や意味などについて理解を深める。	60
第１０回	ファッションと流行	【復習】流行という事象について自分の考えを整理する。	60
第１１回	第二次世界大戦後の日本の流行色・ファッションの変遷	【復習】ファッションと社会生活とのかかわりについて理解する。	60
第１２回	ファッション産業	【復習】今回取り上げた内容を身近な例に当てはめて説明できるようにする。	60
第１３回	様々なファッション	【復習】今回取り上げた内容と自分とのかかわりについて考える。	60
第１４回	季節感と服、着心地とは	【予習】前回までの内容を振り返る。着心地について考えをまとめておく。 【復習】これまでの学修内容を確認する。	90

〔授業の方法〕

この授業は、オンラインで実施する。方法としては Zoom によるリアルタイムオンライン授業＋録画提供の形をとり、録画の視聴期限は授業日から 9 日後までとする。
授業はスライドや視聴覚教材を使用しながら講義を中心に進め、その日の資料や講義内容に関する小レポートを毎回実施する。また、クリッカーを用いて意識調査を行うこともある。小レポートの記述内容の一部を次回授業で紹介することもあるため、課題の提出期限は授業から 1 週間（翌週の授業開始時刻まで）とする。

〔成績評価の方法〕

授業内の提出物（約 60%）、学期末試験（約 40%）、授業への取り組みなどに基づき総合的に評価を行う。
なお、学期末試験は対面にて実施する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・文化的な側面から衣服をとらえているか。
・衣服と人との関わりについて自分なりに説明することができているか。
・衣生活に関する事象について、他者の意見から様々な考え方、見方について学び、自分の考えを深めることができているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

CoursePower の質問にて受け付ける。

〔特記事項〕

・ICT 活用

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	カルチュラル・スタディーズ<3>						
教員名	狩野　愛						
科目№	120710730	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

カルチュラル・スタディーズは、「高級文化」（ハイ・カルチャー）ではなく、学術的に等閑視されてきたテレビ、広告、ポップミュージック、ファッション、アニメなど「大衆文化」（ポップ・カルチャー）や若者文化に着目し、日常生活における文化をめぐる諸問題や諸現象を、文化人類学、社会学など学際的なアプローチで考察することで発展してきた。本科目は、カルチュラル・スタディーズの歴史や研究方法、問題意識を理解する。各講義では、映像文化を中心に多様な文化の具体的事例を取り上げ、さまざまな文化現象、社会的イシューを分析していく。

〔到達目標〕

DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するために、次の 3 点を到達目標とする。
①カルチュラル・スタディーズのキー概念を理解できるようになること
②受講者が、映像など視覚文化や作品を社会関係に関連づけて理解し、各自の関心に応じて分析できるようになること
③レポート課題を通して、授業内容で学習した概念や理論を関連させて自分の考えを表現できるようになること

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分
第２回	カルチュラル・スタディーズのアプローチ	【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分
第３回	フェミニズムの視点で見る広告	【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分
第４回	映像に見るジェンダーとセクシュアリティ	【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分
第５回	ヤンキー文化とサブカルチャー1	【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分
第６回	ヤンキー文化とサブカルチャー2	【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分
第７回	ポップカルチャーと音楽	【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分
第８回	スポーツとナショナリズム	【予習】指示した論文・資料を読む 【復習】配布プリントと論文を再読する	60 分
第９回	ポピュラーカルチャーとグローバリズム	【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分
第１０回	ソーシャルメディアと文化 1	【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分
第１１回	ソーシャルメディアと文化 2	【予習】指示した論文・資料を読む 【復習】配布プリントと論文を再読する	60 分
第１２回	メディア・アクティヴィズム 1	【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分
第１３回	メディア・アクティヴィズム 2	【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分
第１４回	まとめ	【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する	60 分

〔授業の方法〕

・この授業は、オンラインで実施します。
・授業は主に講義形式で行います。
・講義内容に関連した映画作品／映像資料を適宜講義内で上映する予定ですが、講義内容の理解のために、状況に応じて自費で作品を鑑賞することがあります。

〔成績評価の方法〕

・授業ごとの小課題（40%）、期末試験（60%）による

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

田中東子、山本敦久、安藤丈将編『出来事から学ぶカルチュラル・スタディーズ』ナカニシヤ出版、2017 年
ジャウディン・サルダー、ボリン・ヴァン・ルーン『INTRODUCING カルチュラル・スタディーズ』作品社、2002 年
その他、授業内で随時指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

メールにて受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	カルチュラル・スタディーズ<4>						
教員名	北小路　隆志						
科目№	120710740	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

テーマは、映画の「分析的な見方」を学ぶことです。そのうえで、映画についての「批評」を、対象となる作品の独自性のみならず、できれば、それを発見する論者（＝皆さん）自身の独自性を発揮しながら執筆してもらいます。その狙いは以下の通りです。誰もが、多かれ少なかれ日常的に映画に接し、よほど難解で特殊な作品でもない限り、その内容を理解できているはずです。しかし、皆さんは本当に映画を《見ること》や《聴くこと》ができているでしょうか。たとえば、単にそこで展開される物語や主演俳優の容姿に一喜一憂したり、そこで提起される「主題」に共感したり、違和感を覚えたりしているだけではないでしょうか。映画は、長い時間をかけて「物語」を語るためのさまざまな技法を身につけ、それらを洗練させていく一方で、それを解体するような実験もあわせて推進してきています。そしてその「文法」は、「動画」が溢れかえる現在にあってもなおさまざまな視覚表現の規範となっているのです。この授業では、（物語の）「内容」に傾きがちなわたしたちの映画鑑賞のあり方に疑問を呈し、（物語の）「形式」（語り方や映画技法、技術的側面）に焦点を当てた（分析的な）鑑賞法について学びます。そして、そこでの「学び」を基盤に映画批評の執筆に挑戦してもらいます。

〔到達目標〕

DP2（教養の習得）を実現するため、
①現在もなお視聴覚表現の規範となっている映画の基本的な技法を学び、より分析的な映画（映像）鑑賞法（理論）を身につけることができる。
②上記の分析的な鑑賞法（理論）を、映画批評の執筆を通じて実践に移し、その作品独自の「演出」（＝魅了）を明らかにすることができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の概要や狙い、進め方について説明する。 ・参加者各自に、これまで抱いてきた映画観について発表を求め、検討する。	・シラバスの内容を読み込み、あらかじめ授業内容を把握する。 ・各自の映画観（これまでどのような映画を見てきたか、どんな映画が好きか、それはなぜか、など）をまとめておくこと。	60
第２回	フレームと「平面性」について① ・映画の基本的性格をめぐる考察として、その平面性とフレームによる限定について学ぶ。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。	90
第３回	フレームと「平面性」について② ・前回の授業内容の続きと応用。具体的な作品分析を通し、関連するさまざまな演出法やフレームの形態について学ぶ。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第４回	映画の「現実感」について ・なぜ映画は独自の「現実感」を備え、それがどのようなかたちで作品で言及されてきたか。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第５回	画面と画面外空間について① ・画面とは何か、画面外空間とは何か。画面外空間はいかにして創出されるのか。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第６回	画面と画面外空間について② ・絵画と映画のフレームの差異。 ・画面外空間を使った演出とその分析。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第７回	ショットの概念① ・空間から時間へ。 ・ショットの定義をめぐって。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第８回	ショットの概念② ・ショット・サイズによる分類法。クロースアップから遠景ショットまで。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第９回	ショットの概念③ ・ショットとカメラの動き、そして時間。 ・問題としてのショット・シークエンス。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第１０回	聴覚的表象としての映画① ・映画におけるサウンドの分類法。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第１１回	聴覚的表象としての映画② ・映画におけるサウンドの活用法、演出法の具体的な解説。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第１２回	モンタージュ（編集）の概念① ・モンタージュとは何か。それが映画にとっていかに重要で、また論争的であるか。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第１３回	モンタージュ（編集）の概念② ・モンタージュをめぐる２つのイデオロギーを通して、映画理論を整理する。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第１４回	「まとめ」 ・授業の振り返りと、期末レポート執筆に向けての説明や質疑。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90

〔授業の方法〕

この授業は、オンライン（オンデマンド型）で実施する。
講義や参考資料の読解を中心に進めつつ、適宜、関連する映画の（主として部分的な）上映も行う。もちろん、授業の一環としての上映であり、そもそも映画についての授業である以上、真剣な態度での鑑賞が必要で、受講者には積極的な態度での参加を求める。また、授業で言及された関連する映画の全編を、可能な範囲で自主的に鑑賞してもらいたい。
なお、各レポートの狙いは、以下の通りである。

課題レポート：授業の理解度や授業の臨むうえでの積極性などを確認するために、基本、

〔成績評価の方法〕

期末レポート（60%）。課題レポート（コメントカード）などの平常点（40%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

「映画理論講義」（J・オーモン他著、武田潔訳、勁草書房）。その他の参考資料が発生した場合も含め、授業内で使用する分については印刷して配布、もしくは CoursePower に掲載します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後にオンライン上か教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代のマスメディア						
教員名	小林　正幸						
科目№	120720710	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

テーマ：「よく生きる」ことからマスメディアについて考える
　わたしたちは好むと好まざるとにかかわらず、日々マスメディアによって発信される膨大な情報にさらされている。当たり前ですが、我々が「よく生きる」ためにマスメディアがあります。ですから「よく生きる」という地点から、現在のマスメディアの現実を理解する必要があります。
　その現実は、マスメディアに関する理論や概念からアプローチできます。当然急速に発展してきたソーシャルネットワークの現実についても同様です。
　我々はマスメディアが「よく生きる」ことに反していれば、どのような姿勢をもって臨むべきなのか。いま現実に生活をしている社会そのものに関心をもちながら、毎回の授業に臨んください。

〔到達目標〕

ＤＰ2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。
①マスメディアが果たしている役割を理解し、他人と知識交換をしながらきちんと説明できる。
②マスメディアの功罪と展望を説明できる。
③ソーシャルネットワークの展望について、的確に理解し、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・メディアとは何なのか、その本質について解説します。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の進め方などを確認する。	60
第２回	マスメディアとは何か ・マスメディアの定義、特徴を解説する。 ・自明とされるマスメディアに対する理解に軛を入れます。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第３回	・マスメディアの本質 この授業でのマスメディアの本質を位置付けます。マスメディアによって伝達される情報が事実ではないことを確認します。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第４回	・マスメディアは PR 機関 ここでは近代になってからのマスメディアが果たして来た役割が PR にあることを解説します。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第５回	・メディアリテラシー１ 教科書的なメディアリテラシーの考え方を解説し、そこに留まってはいけないことを考えます。大切なのは自身のリテラシーを重ねることです。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第６回	・メディアリテラシー２ 具体的な事例を取り上げて、メディアの記事や映像について、本講義のメディアリテラシーの考え方を適応して見ます。	【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。	90
第７回	・メディアリテラシー３ 具体的な事例を取り上げて、メディアの記事や映像について、本講義のメディアリテラシーの考え方を適応して見ます。これら事例の分析から、教養の重要性を確認します。	【予習】前々回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	120
第８回	・中間テスト（小テスト） これまでの講義における考え方、理論や概念を確認するための試験を行います。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第９回	・産業としてのマスメディア 経済の三主体「政府・家計・企業」という図式から導かれるマスメディアの位置付け、その政治的立場がどうあるべきか解説する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第１０回	企業戦略とマスメディア ・マスメディアを利用して商品宣伝を行ってきた企業戦略がどのように変化してきているかを考察する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第１１回	マスメディアと政治と民主主義 ・政治に及ぼすマスメディアの果たす役割を解説する。 ・民主主義に関する理論とその特徴を解説する。 ・マスメディアによって政治意識は変化するかどうかについての問題を考察する。 ・マスメディアと政治の良好な関係を探る。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第１２回	・マスコミュニケーション研究を概説する１ マスメディアの機能や役割については学術的蓄積がある。ここでは、具体的な例をあげ強力効果説から限定効果説への流れを歴史的に押さえておく。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第１３回	・マスコミュニケーション研究を概説する２ マスメディアの機能や役割については学術的蓄積がある。ここでは前回の講義を踏まえ、具体的な例をあげ新強力効果説について解説する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第１４回	総括として ・メディアと呪術性について これまでの授業をふり返り、マスメディアやインターネットでの炎上や社会問題について問題を提起する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60

〔授業の方法〕

基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。
随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。特にリアクションペーパーを提出してもらう。
授業は以下のような流れになる。
1　教員による講義
2　教員による次回講義のテーマや考えておくことを提示する。
→
3　講義の復習（ここが一番大切です。その理由は最初の講義で説明します）
4　次回のテーマについての自習
→
5　そのテーマに沿った教員による講義
　ただ講義は生き物ですから、皆さんの反応

〔成績評価の方法〕

随時行う課題への解答／コメントやリアクションペーパー（15%）、中間テスト（15%）、最終試験（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度によって評価する。
①基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。
②マスメディアの功罪を通して、現代社会を見通す深い理解力。
③試験において、講義が活かされている解答をしていること。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

小林正幸『メディアリテラシーの倫理学』風塵社

〔参考書〕

授業で適宜指示をする。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会心理学入門＜1＞						
教員名	岩谷　舟真						
科目№	120720810	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

社会心理学とはその名の通り、「社会」というマクロな現象から、個人の「心理」というマイクロな現象まで幅広く扱う。社会に関する現象としては、例えば日本社会とアメリカ社会の間にどのような違いがあり、それがどのように人々の心に影響するのかという文化心理学的な研究から、集団と集団の対立、集団の中での個人の行動に至るまで多岐にわたる。一方で、個人の心理に関する現象としては、例えば自己に対する歪んだ認知、他人に対するステレオタイプ・偏見、差別などが扱われる。本講義では社会と個人の相互作用に着目しつつ、社会心理学に関する諸研究について広く紹介することを目指す。

〔到達目標〕

（1）個人の認知（バイアス）、集団の中での個人の意思決定、対人的な相互作用などの社会心理学的な現象を検討するための科学的な手法について理解することができる（DP２）
（2）我々がどのようなバイアスを持っているかや、我々が他者から暗黙のうちにどのような影響を受けているのかについて理解することができる（DP２）
（3）社会現象（コロナ禍での人々の行動など）について社会心理学の考え方をもとに分析・理解し、その現象がどのようなメカニズムで生じているかについて理解したり仮説を立てたりすることができる（DP２・D

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	○イントロダクション ・本講義で扱う内容及び社会心理学で扱う現象について理解する ・社会心理学の方法論について理解する	【予習】 ・シラバスを読んで、本講義の概要について掴む 【復習】 ・自分のアイデアを確かめるための社会心理学的な方法論について理解する	60 分
第２回	○認知バイアスとその適応性 ・我々が持つバイアスについて理解する ・我々がなぜバイアスを持っているのか、バイアスはどのような点で役に立ちうるのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第３回	○偏見・ステレオタイプ ・我々が持つ偏見やステレオタイプについて理解する。 ・偏見を測定するための手法について理解する ・どのような状況で偏見を強く持たれるのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第４回	○他者に対する認知 ・我々が他者および自己の行動をどのように解釈するのかについて理解する。 ・他者の行動の認知におけるバイアスが、集団レベルでどのような現象をもたらすのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第５回	○自尊心・マインドセット ・自尊心とは何か、我々が自尊心を維持するためにどのような行動・及びバイアスを持つのかについて理解する。 ・我々の人間観（努力・才能についての素朴な理解）及び、その影響について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第６回	○態度と説得 ・我々が持つバイアス、及びそのバイアスを用いた説得方法について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第７回	○他者の存在の影響 ・同調や服従のように他者が我々にどのような影響をもたらすかについて理解する。 ・同調・服従は一方が一方へと影響を与える現象だが、人々の双方向的な相互作用が集団にもたらす現象についても理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第８回	○社会的アイデンティティとその影響 ・社会的アイデンティティとは何かについて理解する。 ・集団に属する自己という意識を持った時に我々がどのような行動をとるかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第９回	○認知の文化差 ・思考や認知についてどのような文化差があるかを理解する ・思考・認知を測定するための手法について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第１０回	○個人主義・集団主義 ・個人主義および集団主義とは何か、およびその影響について理解できる ・その他、心の文化差をもたらす社会生態学的要因を理解できる	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第１１回	○ネットワークと社会の流動性 ・社会ネットワークの構造についての概念について理解できる ・開かれた社会と閉ざされた社会の特徴および各社会で適応的な行動・心理について理解できる	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第１２回	○信頼の構造 ・信頼概念と安心概念の違いを理解する ・他者を信頼することが適応的な社会の特徴について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第１３回	○リーダーシップと社会階層 ・リーダーシップの類型について理解する ・社会階層による文化の違いについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分

第１４回	○メディアと文化 ・マスメディアなどのメディアが我々に与える影響について理解する。 ・フェイクニュースを信じやすい人の特徴について、心理学の観点から理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分

〔授業の方法〕

・授業はオンラインで行い、リアルタイムで出席できない者のためにオンデマンド教材も用意する。
・授業形式は PowerPoint を用いた講義形式を基本とする。
・社会心理学の手法および概念についての理解を深めるために、簡単な社会心理学実験への参加（体験）やアンケートへの回答を求めることがある。ただし、回答は強制せず、回答内容は評価に一切含めない。

〔成績評価の方法〕

・試験：（１００％）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
試験については、下記の観点から評価する予定である。
・社会心理学の方法論について理解しているか。
・社会心理学の諸概念を正しく理解しているか。
・社会現象を社会心理学の観点から解釈できているか。
平常点については下記の観点から評価する予定である。
・社会現象を社会心

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

授業で指示

〔テキスト〕

購入の必要なし：
『社会心理学　補訂版』、池田謙一・唐沢穣・工藤恵理子・村本由紀子、有斐閣、3,520 円

〔参考書〕

いずれも購入の必要なし：
『個人のなかの社会 ［展望　現代の社会心理学 1］』　浦光博・北村英哉編著、誠信書房、4840 円
『コミュニケーションと対人関係 ［展望　現代の社会心理学２］』、相川充・高井次郎編著、誠信書房、4400 円
『社会と個人のダイナミクス ［展望　現代の社会心理学３］』、唐沢穣・村本由紀子編著、誠信書房、4620 円

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

オンライン授業であるため、質問はメールで受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会心理学入門＜2＞						
教員名	岩谷　舟真						
科目№	120720820	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

社会心理学とはその名の通り、「社会」というマクロな現象から、個人の「心理」というマイクロな現象まで幅広く扱う。社会に関する現象としては、例えば日本社会とアメリカ社会の間にどのような違いがあり、それがどのように人々の心に影響するのかという文化心理学的な研究から、集団と集団の対立、集団の中での個人の行動に至るまで多岐にわたる。一方で、個人の心理に関する現象としては、例えば自己に対する歪んだ認知、他人に対するステレオタイプ・偏見、差別などが扱われる。本講義では社会と個人の相互作用に着目しつつ、社会心理学に関する諸研究について広く紹介することを目指す。
※前期に行われた「社会心理学入門／＜1＞ 」とほぼ同様の講義を行う予定であるため、「社会心理学入門／＜1＞ 」を履修した者は履修する必要がない。

〔到達目標〕

（1）個人の認知（バイアス）、集団の中での個人の意思決定、対人的な相互作用などの社会心理学的な現象を検討するための科学的な手法について理解することができる（DP２）
（2）我々がどのようなバイアスを持っているかや、我々が他者から暗黙のうちにどのような影響を受けているのかについて理解することができる（DP２）
（3）社会現象（コロナ禍での人々の行動など）について社会心理学の考え方をもとに分析・理解し、その現象がどのようなメカニズムで生じているかについて理解したり仮説を立てたりすることができる（DP２・D

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	○イントロダクション ・本講義で扱う内容及び社会心理学で扱う現象について理解する ・社会心理学の方法論について理解する	【予習】 ・シラバスを読んで、本講義の概要について掴む 【復習】 ・自分のアイデアを確かめるための社会心理学的な方法論について理解する	60 分
第２回	○認知バイアスとその適応性 ・我々が持つバイアスについて理解する ・我々がなぜバイアスを持っているのか、バイアスはどのような点で役に立ちうるのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第３回	○偏見・ステレオタイプ ・我々が持つ偏見やステレオタイプについて理解する。 ・偏見を測定するための手法について理解する ・どのような状況で偏見を強く持たれるのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第４回	○他者に対する認知 ・我々が他者および自己の行動をどのように解釈するのかについて理解する。 ・他者の行動の認知におけるバイアスが、集団レベルでどのような現象をもたらすのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第５回	○自尊心・マインドセット ・自尊心とは何か、我々が自尊心を維持するためにどのような行動・及びバイアスを持つのかについて理解する。 ・我々の人間観（努力・才能についての素朴な理解）及び、その影響について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第６回	○態度と説得 ・我々が持つバイアス、及びそのバイアスを用いた説得方法について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第７回	○他者の存在の影響 ・同調や服従のように他者が我々にどのような影響をもたらすかについて理解する。 ・同調・服従は一方が一方へと影響を与える現象だが、人々の双方向的な相互作用が集団にもたらす現象についても理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第８回	○社会的アイデンティティとその影響 ・社会的アイデンティティとは何かについて理解する。 ・集団に属する自己という意識を持った時に我々がどのような行動をとるかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第９回	○認知の文化差 ・思考や認知についてどのような文化差があるかを理解する ・思考・認知を測定するための手法について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第１０回	○個人主義・集団主義 ・個人主義および集団主義とは何か、およびその影響について理解できる ・その他、心の文化差をもたらす社会生態学的要因を理解できる	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第１１回	○ネットワークと社会の流動性 ・社会ネットワークの構造についての概念について理解できる ・開かれた社会と閉ざされた社会の特徴および各社会で適応的な行動・心理について理解できる	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第１２回	○信頼の構造 ・信頼概念と安心概念の違いを理解する ・他者を信頼することが適応的な社会の特徴について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分

第１３回	○リーダーシップと社会階層 ・リーダーシップの類型について理解する ・社会階層による文化の違いについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分
第１４回	○メディアと文化 ・マスメディアなどのメディアが我々に与える影響について理解する。 ・フェイクニュースを信じやすい人の特徴について、心理学の観点から理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60 分

〔授業の方法〕

・PowerPoint を用いて講義形式で授業を行うことを基本とするが、到達目標（４）を達成するために受講生同士のディスカッションを求めることがある。
・社会心理学の手法および概念についての理解を深めるために、簡単な社会心理学実験への参加（体験）やアンケートへの回答を求めることがある。ただし、回答は強制せず、回答内容は評価に一切含めない。
・授業について理解しているかを確認するために、授業の最後に授業内容についての感想や疑問を回収し、次回の授業の最初にその疑問への回答を行う。

〔成績評価の方法〕

・試験：（１００％）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
試験については、下記の観点から評価する予定である。
・社会心理学の方法論について理解しているか。
・社会心理学の諸概念を正しく理解しているか。
・社会現象を社会心理学の観点から解釈できているか。
平常点については下記の観点から評価する予定である。
・社会現象を社会心

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

授業で指示

〔テキスト〕

購入の必要なし：
『社会心理学　補訂版』、池田謙一・唐沢穣・工藤恵理子・村本由紀子、有斐閣、3,520 円

〔参考書〕

いずれも購入の必要なし：
『個人のなかの社会 ［展望　現代の社会心理学 1］』　浦光博・北村英哉編著、誠信書房、4840 円
『コミュニケーションと対人関係 ［展望　現代の社会心理学２］』、相川充・高井次郎編著、誠信書房、4400 円
『社会と個人のダイナミクス ［展望　現代の社会心理学３］』、唐沢穣・村本由紀子編著、誠信書房、4620 円

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	企業と社会<1>						
教員名	鈴村　美代子						
科目№	120720910	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

経営学が主に研究対象とする企業は、社会全体そして私たち個々人の生活に多大なる影響を及ぼしています。また、皆さんの多くは、卒業後に営利組織（企業）ないし非営利組織（官公庁など）に就職し、組織の一員として生活を送ることになります。そのため、本講義は私たちの日常と深い関わりを持っている企業がどのような存在で、どのような仕組みを持ち、どのように運営されているか、基本的な理解を身につけることを目標とします。経営学に関する幅広い概念や基礎知識を理解し習得することを通じて、企業の実際の活動内容や企業経営の現場で起きている諸問題を理解し、考える力を養成します。

〔到達目標〕

DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、次の点を目標とします。
①経営学の基礎知識を身につける。
②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・　授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・　日常のなかで企業を考える。	【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第２回	組織構造 ・　組織において仕事を円滑に進めるための組織設計について理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第３回	組織文化 ・　組織メンバーによって共有される考え方や行動様式について理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第４回	組織社会化 ・　新入社員が組織に適応していくプロセスについて理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第５回	モチベーション ・　組織メンバーへの動機づけについて理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第６回	リーダーシップ ・　組織の目標を達成するために行使される影響力について理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第７回	経営戦略 ・　組織環境を分析し、対応することについて理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第８回	全社戦略と協調戦略 ・　企業の事業範囲や活動領域の選定に関わる戦略について学ぶ。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第９回	競争戦略 ・　ライバル企業との競争に関する基本的な概念について理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第１０回	マーケティング ・　市場を創るという視点からマーケティングの基本的な概念について学ぶ。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第１１回	株式会社の仕組み ・　株式会社の基本的な特徴と仕組みについて理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第１２回	日本的経営の特徴 ・　かつて世界から注目された日本企業の特徴とその変化について理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第１３回	企業の社会的責任と社会貢献活動 ・　「企業は社会の公器」という考え方について考える。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第１４回	総括 ・　授業全体のまとめを行う。	【予習】これまでの配布資料を再読する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	90

〔授業の方法〕

※この授業は、オンラインで実施します。
※具体的な授業の運営方法は、第 1 回の授業および配布資料において説明しますので、履修を予定している方は必ず第 1 回の授業動画を視聴し、配布資料にも目を通して下さい。
講義形式で授業を行います。課題などを通じて、受講生の理解度を確認しながら授業を進めます。上で示された準備学習の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組んでください。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や課題への回答）40%、および学年末試験 60%により評価します。
なお、2023 年度の授業の実施状況によって、評価項目と割合（%）を変更する可能性があります。詳しくはガイダンスで説明しますので、履修を予定している方は第 1 回の授業に必ず参加してください。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上述した次の 2 点の目標が達成できていること。
①経営学の基礎知識を身につける。
②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識は特にありません。

〔テキスト〕

教科書は指定しません。

〔参考書〕

稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝（2010）『キャリアで語る経営組織』有斐閣アルマ
井上達彦・中川功一・川瀬真紀（2020）『経営戦略論』中央経済社
小山嚴也・出見世信之・谷口勇仁（2018）『問いからはじめる現代企業』有斐閣
※参考書を購入する必要はありません。その他の参考書に関しては、講義中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

特にありません。

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	企業と社会<2>						
教員名	鈴村　美代子						
科目№	120720920	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

経営学が主に研究対象とする企業は、社会全体そして私たち個々人の生活に多大なる影響を及ぼしています。また、皆さんの多くは、卒業後に営利組織（企業）ないし非営利組織（官公庁など）に就職し、組織の一員として生活を送ることになります。そのため、本講義は私たちの日常と深い関わりを持っている企業がどのような存在で、どのような仕組みを持ち、どのように運営されているか、基本的な理解を身につけることを目標とします。経営学に関する幅広い概念や基礎知識を理解し習得することを通じて、企業の実際の活動内容や企業経営の現場で起きている諸問題を理解し、考える力を養成します。

〔到達目標〕

DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、次の点を目標とします。
①経営学の基礎知識を身につける。
②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・　授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・　日常のなかで企業を考える。	【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第２回	組織構造 ・　組織において仕事を円滑に進めるための組織設計について理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第３回	組織文化 ・　組織メンバーによって共有される考え方や行動様式について理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第４回	組織社会化 ・　新入社員が組織に適応していくプロセスについて理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第５回	モチベーション ・　組織メンバーへの動機づけについて理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第６回	リーダーシップ ・　組織の目標を達成するために行使される影響力について理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第７回	経営戦略 ・　組織環境を分析し、対応することについて理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第８回	全社戦略と協調戦略 ・　企業の事業範囲や活動領域の選定に関わる戦略について学ぶ。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第９回	競争戦略 ・　ライバル企業との競争に関する基本的な概念について理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第１０回	マーケティング ・　市場を創るという視点からマーケティングの基本的な概念について学ぶ。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第１１回	株式会社の仕組み ・　株式会社の基本的な特徴と仕組みについて理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第１２回	日本的経営の特徴 ・　かつて世界から注目された日本企業の特徴とその変化について理解する。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第１３回	企業の社会的責任と社会貢献活動 ・　「企業は社会の公器」という考え方について考える。	【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	60
第１４回	総括 ・　授業全体のまとめを行う。	【予習】これまでの配布資料を再読する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。	90

〔授業の方法〕

※この授業は、オンラインで実施します。
※具体的な授業の運営方法は、第 1 回の授業および配布資料において説明しますので、履修を予定している方は必ず第 1 回の授業動画を視聴し、配布資料にも目を通して下さい。
講義形式で授業を行います。課題などを通じて、受講生の理解度を確認しながら授業を進めます。上で示された準備学習の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組んでください。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や課題への回答）40%、および学年末試験 60%により評価します。
なお、2023 年度の授業の実施状況によって、評価項目と割合（%）を変更する可能性があります。詳しくはガイダンスで説明しますので、履修を予定している方は第 1 回の授業に必ず参加してください。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上述した次の 2 点の目標が達成できていること。
①経営学の基礎知識を身につける。
②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識は特にありません。

〔テキスト〕

教科書は指定しません。

〔参考書〕

稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝（2010）『キャリアで語る経営組織』有斐閣アルマ
井上達彦・中川功一・川瀬真紀（2020）『経営戦略論』中央経済社
小山嚴也・出見世信之・谷口勇仁（2018）『問いからはじめる現代企業』有斐閣
※参考書を購入する必要はありません。その他の参考書に関しては、講義中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

特にありません。

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	物質の究極像						
教員名	丸吉　一暢						
科目№	120730110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

物理嫌いでも構いません。「自然界の基本的な成り立ち」について、好奇心をもっている人に、誰にでもわかるレベルで説明します。物質は原子からできているという話から始まり、原子は原子核と電子からできており、次に原子核は陽子と中性子からできており、さらにクォーク、ニュートリノとは何かと、話が進んでいきます。そして現段階での物質の究極像である標準理論にたどり着きます。人類は自然の基本構造をどこまで明らかにしたのか、感じ取ってもらうための授業です。

〔到達目標〕

DP2【教養の修得】を目標とする。
自然界の根本法則に対して、科学者がどのように取り組んでいるかを知る。そしてその最先端の状況についてイメージをもち、ときにテレビや新聞・雑誌に登場する科学ニュースに、関心をもって接触できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	素粒子物理学への導入	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第2回	近代科学はなぜ誕生したのか・・ニュートンの力学	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第3回	近代科学の発展・・原子論・熱とエネルギー	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第4回	光の歴史：光は波か？粒子か？	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第5回	光の歴史：光は波か？粒子か？その２	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第6回	新しい物理学（量子力学）	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第7回	粒子の生成・吸収：質量エネルギー	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第8回	素粒子物理学の誕生：湯川の中間子論	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第9回	弱い相互作用	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第１０回	核子からクォークへ	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第１１回	量子色力学	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第１２回	新粒子の発見	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第１３回	素粒子の標準模型	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60
第１４回	今後の展望/宇宙から見えること	教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30～60

〔授業の方法〕

講義形式の授業を行います。授業は多少余裕をもって終え、授業中に簡単な課題を課します。また、レポート（主として内容の要約）を数回程度提出してもらいます。

〔成績評価の方法〕

平常点（毎回の課題や授業への参加状況）60%、レポート点 40%で評価します。
レポートは提出が第一で、内容の評価も加味します。試験はありません。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
『物質の究極像をめざして』、和田純夫著、ベレ出版

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイト、Course Power で周知する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	人間と進化						
教員名	櫻木　晃彦						
科目№	120730210	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

この授業の内容は生物人類学、すなわち生物学的観点に立って人間を探求するものである。具体的には、生物としてのヒトの特徴を学ぶ。あらゆる自然科学の究極の目的は自分自身を知るということであろう。生物としての人間、すなわちヒトとはどのようなものかを学ぶことによって、「自らを知ろう」という知的作業を体験する。

〔到達目標〕

生物としてのヒトの正確なイメージをもつこと。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	１．教養とは何か	教養とは何かを考える。	60 分
第２回	２．共通言語の必要性	共通言語の必要性と生物学について考えておく。	60 分
第３回	３．全身の骨	人体の概形を決めているのは何かを考える。	60 分
第４回	４．衝撃吸収機構	衝撃吸収機構と骨格がヒトの特徴であることを理解しておく。	60 分
第５回	５．感覚はすべてのはじまり（１）	ヒトの感覚の特徴について考える。	60 分
第６回	６．感覚はすべてのはじまり（２）	ヒトの視覚の特徴について考える。	60 分
第７回	７．骨と骨の連結	骨の連結と関節について考える。	60 分
第８回	８．成長と進化	進化とヒトの成長について考える。	60 分
第９回	９．ヒトの個体発生（１）受精・誕生・成長	ヒトの受精から成長について考える。	60 分
第１０回	10．ヒトの個体発生（２）老化と死	ヒトの死について考える。	60 分
第１１回	11．進化とは何か（１）	進化と進歩の違いについて考える。	60 分
第１２回	12．進化とは何か（２）	課題レポートについて考えておく。	60 分
第１３回	13．古人骨と戦争	北京原人と明石原人について考えておく。	60 分
第１４回	14．ヒトとしての自分自身を考える	関連すると判断できるところを熟考する。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式で行なう。ほぼ毎回プリントを配布し、コンピュータグラフィックス等の画像を駆使して視覚に訴え、わかりやすく解説する。

〔成績評価の方法〕

評価は課題レポート(95%)と授業への参加状況(５%)による。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
人体に興味があることを必要とする。高校で「生物」を履修している必要はない。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
『ここまでわかった人類の起源と進化』、Ｒ．ルーウィン、てらぺいあ社、￥3200、ISBN:88699-013-4

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	脳科学と心<1>						
教員名	山本　愛実						
科目№	120730310	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

授業はすべてオンラインで実施する。授業計画や準備学習等、変更の詳細はオンライン授業内の指示で確認すること。
人間は、意識的かどうかにかかわらず、外界の事物や自分や他者の状態等の多種多様な情報を認識し、行動を選択し、外界や他者に働きかけながら生活をしている。本講義では、脳神経科学入門として脳神経科学の歴史から最近の研究成果にわたって概説する。特に、多岐にわたる分野の中から知覚、記憶、神経倫理学、神経経済学などについて取り上げる。併せて、脳神経科学的な研究方法（実験や調査）についても講義する。適宜、心理現象のデモンストレーションや脳神経科学実験の実体験に加えて、最新の脳神経科学の知見・話題をも織り交ぜながら講義を進めていく。講義を通して、「人間とは何か」を考察し、人間理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）を実現するために、以下を到達目標とする
本講義を履修することによって、次の知識と能力を修得する
1)　脳神経科学の各研究領域についての概要を理解することができる
2)　脳神経科学的研究、知見について批判的に考察することができる
3)　脳神経科学の知見や考え方を日常生活に活用することができる
講義で紹介する具体的な実験例や理論を学ぶことで、様々な心理現象を脳神経科学的観点から考察するとともに、マスメディア等に溢れる心理学・脳神経科学に関する情報を適切に評価できる力を養う

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	1.脳神経科学とは何かその意義を考える	教科書の 1 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第２回	2.知覚 環境変化の見落としについて、知覚のメカニズムを知る	教科書の 2 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第３回	3.記憶 偽記憶研究の現状と展望、偽記憶とうその脳メカニズムの違いを知る	教科書の 3 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第４回	4.自由意志 意志と行為の脳メカニズム、自由意志の存在に疑問を投げかける脳科学の研究について考える	教科書の 4 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第５回	5.意思決定 薬物依存と意思決定の歪み、薬物による健常な意思決定の歪みにより、薬物依存からの脱却の困難さを知る	教科書の 5 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第６回	6.道徳 道徳の脳科学、道徳・倫理を脳科学の視点で考える	教科書の 6 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第７回	7.社会性の神経経済学 脳神経科学の最新の研究分野である信頼に関する神経経済学について、社会にとって互いの信頼の重要性を示すとともにその脳基盤を知る	教科書の 7 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第８回	8.マインドリーディング ニューロイメージング法の解説、脳科学は他人の心を読み取れるのか	教科書の 8 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第９回	9.ブレインマシンインターフェイス ブレインマシンインターフェイスとは何か、その目的は？失った機能をどこまで機械で補えるのか	教科書の 9 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第１０回	10.精神疾患 精神疾患について知り、その社会の中での問題を考える、精神疾患は脳機能の疾患である	教科書の 10 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第１１回	11.スマートドラッグ 薬による能力の増強について現状を知る、スマートドラッグは許されるのか	教科書の 11 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第１２回	12.教育 三歳児神話について関連する脳科学的研究を学ぶ、脳科学は教育に役立つのか	教科書の 12 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第１３回	13.加齢 加齢に伴う認知機能の低下について考える、なぜ、お年寄りを狙う犯罪が多いのか	教科書の 13 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第１４回	14.広告利用 脳トレ広告の問題点を知る、似非科学に騙されないために	教科書の 14 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 試験に備え今まで授業内で取り上げた内容について復習する。	60

〔授業の方法〕

授業はすべてオンラインで実施する。
授業の形式は基本的には講義を中心とするが、脳神経科学に関連した心理現象のデモンストレーションを紹介し、脳神経科学実験を実際に体験してもらう。
毎回授業の最後に小テストを行う形式とし、小テストの時間を自分でオンラインで１５分確保すること。授業終了後に小テストをコースパワーを通じて受験する。このテストは一回のみ受験可能である。所要時間は１５分。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および期末レポートは実施しないため、平常点で成績評価する。
出席 1 回１点 x14 回
小テスト 1 回６点満点 x１２回分＝７２点満点
（第１回はオンライン授業の初回であり、小テストは行わない。第 2 回から第 13 回までの 12 回分）
最終回の第 14 回はまとめ小テスト１４点満点
出席１４点＋小テスト 12 回分７２点＋最終まとめ小テスト１４点＝１００点満点
60 点以上が単位認定の最低ラインとなる。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記到達目標で挙げた項目に着目し、その達成度により評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
現代科学についての知識はそれほど必要としない。

〔テキスト〕

脳神経科学リテラシー
勁草書房
信原幸弘、原塑、山本愛実　編

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

質問のあるかたは、随時メールで受け付ける。いつでも質問をしてきてください。
受けた質問の中から共有した方がいい内容については、コースパワーにアナウンスとして載せます。また、マイクロソフトのチームスを利用して共有もします。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	脳科学と心<2>						
教員名	山本　愛実						
科目№	120730320	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

授業はすべてオンラインで実施する。授業計画や準備学習等、変更の詳細はオンライン授業内の指示で確認すること。
人間は、意識的かどうかにかかわらず、外界の事物や自分や他者の状態等の多種多様な情報を認識し、行動を選択し、外界や他者に働きかけながら生活をしている。本講義では、脳神経科学入門として脳神経科学の歴史から最近の研究成果にわたって概説する。特に、多岐にわたる分野の中から知覚、記憶、神経倫理学、神経経済学などについて取り上げる。併せて、脳神経科学的な研究方法（実験や調査）についても講義する。適宜、心理現象のデモンストレーションや脳神経科学実験の実体験に加えて、最新の脳神経科学の知見・話題をも織り交ぜながら講義を進めていく。講義を通して、「人間とは何か」を考察し、人間理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）を実現するために、以下を到達目標とする
本講義を履修することによって、次の知識と能力を修得する
1)　脳神経科学の各研究領域についての概要を理解することができる
2)　脳神経科学的研究、知見について批判的に考察することができる
3)　脳神経科学の知見や考え方を日常生活に活用することができる
講義で紹介する具体的な実験例や理論を学ぶことで、様々な心理現象を脳神経科学的観点から考察するとともに、マスメディア等に溢れる心理学・脳神経科学に関する情報を適切に評価できる力を養う

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	1.脳神経科学とは何かその意義を考える	教科書の 1 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第２回	2.知覚 環境変化の見落としについて、知覚のメカニズムを知る	教科書の 2 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第３回	3.記憶 偽記憶研究の現状と展望、偽記憶とうその脳メカニズムの違いを知る	教科書の 3 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第４回	4.自由意志 意志と行為の脳メカニズム、自由意志の存在に疑問を投げかける脳科学の研究について考える	教科書の 4 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第５回	5.意思決定 薬物依存と意思決定の歪み、薬物による健常な意思決定の歪みにより、薬物依存からの脱却の困難さを知る	教科書の 5 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第６回	6.道徳 道徳の脳科学、道徳・倫理を脳科学の視点で考える	教科書の 6 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第７回	7.社会性の神経経済学 脳神経科学の最新の研究分野である信頼に関する神経経済学について、社会にとって互いの信頼の重要性を示すとともにその脳基盤を知る	教科書の 7 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第８回	8.マインドリーディング ニューロイメージング法の解説、脳科学は他人の心を読み取れるのか	教科書の 8 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第９回	9.ブレインマシンインターフェイス ブレインマシンインターフェイスとは何か、その目的は？失った機能をどこまで機械で補えるのか	教科書の 9 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第１０回	10.精神疾患 精神疾患について知り、その社会の中での問題を考える、精神疾患は脳機能の疾患である	教科書の 10 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第１１回	11.スマートドラッグ 薬による能力の増強について現状を知る、スマートドラッグは許されるのか	教科書の 11 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第１２回	12.教育 三歳児神話について関連する脳科学的研究を学ぶ、脳科学は教育に役立つのか	教科書の 12 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第１３回	13.加齢 加齢に伴う認知機能の低下について考える、なぜ、お年寄りを狙う犯罪が多いのか	教科書の 13 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第１４回	14.広告利用 脳トレ広告の問題点を知る、似非科学に騙されないために	教科書の 14 章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 試験に備え今まで授業内で取り上げた内容について復習する。	60

〔授業の方法〕

授業はすべてオンラインで実施する。
授業の形式は基本的には講義を中心とするが、脳神経科学に関連した心理現象のデモンストレーションを紹介し、脳神経科学実験を実際に体験してもらう。
毎回授業の最後に小テストを行う形式とし、小テストの時間を自分でオンラインで１５分確保すること。授業終了後に小テストをコースパワーを通じて受験する。このテストは一回のみ受験可能である。所要時間は１５分。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および期末レポートは実施しないため、平常点で成績評価する。
出席 1 回１点 x14 回
小テスト 1 回６点満点 x１２回分＝７２点満点
（第１回はオンライン授業の初回であり、小テストは行わない。第 2 回から第 13 回までの 12 回分）
最終回の第 14 回はまとめ小テスト１４点満点
出席１４点＋小テスト 12 回分７２点＋最終まとめ小テスト１４点＝１００点満点
60 点以上が単位認定の最低ラインとなる。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記到達目標で挙げた項目に着目し、その達成度により評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
現代科学についての知識はそれほど必要としない。

〔テキスト〕

脳神経科学リテラシー
勁草書房
信原幸弘、原塑、山本愛実　編

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

質問のあるかたは、随時メールで受け付ける。いつでも質問をしてきてください。
受けた質問の中から共有した方がいい内容については、コースパワーにアナウンスとして載せます。また、マイクロソフトのチームスを利用して共有もします。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	天文学入門						
教員名	古荘　玲子.渡部　潤一						
科目№	120730410	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

天文学は、私たち人類が自分たちを取り巻く世界を理解したいという知的好奇心から生まれた、最古の学問のひとつである。私たちの住む地球からはじまり、太陽系、銀河系そして遠方銀河までが、どのように観測され、研究されてきたのか、宇宙の構造を空間スケールを変えながら概略を学ぶ。また、私たちの住む地球や太陽系を含めて、時間とともにどのように進化してきたのかを概説する。

〔到達目標〕

1. 天文学が明らかにしてきた知見を、時間的・空間的なスケールと絡めて包括的に理解する
2. 地球や私たちの文明のあり方を、宇宙における存在として捉えなおす

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／宇宙観の変遷 ・本講義の進め方や評価基準について説明する。 ・天文学の始まりと研究の流れについて解説する。	【予習】シラバスや参考書を読み、予め講義内容を把握する。 【復習】講義の進め方や評価基準を確認し、配布プリントを復習する。	30 60
第２回	基礎知識１ ・時間と空間、暦の成立と変遷、天体のスケールについて解説し、学修する。	時間と空間の概念、暦の成立と変遷、天体のスケールについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第３回	基礎知識２ ・観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて解説し、学修する。	観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第４回	太陽系１ ・太陽系の概念の変遷と惑星とは何かについて解説し、学修する。	太陽系の概念の変遷、特に惑星の定義について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第５回	太陽系２ ・個々の惑星の性質、特徴、種別などについて解説し、学修する。	個々の惑星の性質、特徴、種別などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第６回	太陽系３ ・太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について解説し、学修する。	太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第７回	太陽 ・恒星としての太陽、太陽の物理について解説し、学修する。	太陽の物理について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第８回	恒星１ ・恒星とは何か、および恒星分類について解説し、学修する。	恒星とは何か、および恒星分類についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第９回	恒星２ ・恒星の進化と輪廻、物質循環に果たす役割について解説し、学修する。	恒星の進化と輪廻、物質循環に果たす役割についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第１０回	銀河系 ・天の川銀河の性質、構造、および進化について解説し、学修する。	天の川銀河の性質、構造、および進化についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第１１回	銀河 ・銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造について解説し、学修する。	銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第１２回	宇宙論 ・宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論について解説し、学修する。	宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第１３回	宇宙と生命 ・宇宙における生命の可能性や生命探査、さらに系外惑星について解説し、学修する。	宇宙における生命の可能性や生命探査、系外惑星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第１４回	到達度確認テスト ・これまでの学習内容について、理解度を確認するためのテストを実施する。	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する	120

〔授業の方法〕

この授業は、オンラインで実施する（zoom によるリアルタイムオンライン講義に加え、講義動画を提供）。講義動画の視聴期間は、原則として次の講義の前日までとする。講義のある週の火曜日までに、CoursePower を通じて講義の情報を告知し、各回のトピックに関するプリントを配布する。また、毎回講義の中で、講義内容から簡単な「出席クイズ」を出題する。「出席クイズ」の提出期限は、講義動画を視聴する受講生を考慮して、次回講義の前日とする。普段から、ノートやプリントを使って復習に力を入れること。最終講義として、Cour

〔成績評価の方法〕

最終講義で実施する到達度確認テストの成績を主とするが（70%）、各回講義での出席クイズ(30%)を加味する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。
① 天文学が明らかにしてきた基本的な知見を、論理的に正しく説明できる。
② ①について、さらに時間的・空間的なスケールと絡めて解説できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校程度の数学的な基礎知識があることを前提とする。

〔テキスト〕

なし（必要に応じてプリントを配布します）

〔参考書〕

「面白いほど宇宙がわかる１５の言の葉」　渡部潤一著、小学館１０１新書
「宇宙科学入門 - 第 2 版 - 」　尾崎洋二著、東京大学出版会
「シリーズ　現代の天文学」全１７巻、日本評論社

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

講義の最後に、質問時間を設定する（zoom のチャットを利用)。また、オンデマンド視聴者向けには CousePower を通して質問を受け付け、講義中に回答またはプリントで回答を配布する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	薬はなぜ効くか						
教員名	武田　収功						
科目№	120730510	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

＜概要＞「 薬はなぜ効くか」を考えたとき、その対象は常に生体である。　生体は主に有機化合物で構成されており、薬もまたその多くは有機化合物としての化学構造を持っている。それゆえ生体と薬との相互作用、すなわち分子どうしの化学反応によってその効果が発現される。「薬が効く」と言うことはまさにこの化学反応を理解するということである。　薬（医薬品）は病気の治療、予防、そして診断に用いられ、人類の健康の維持に無くてはならないものである。ここ数年、日本人によるノーベル化学賞、ノーベル医学・生理学賞が相次でいる。再生医療を実現するために重要な役割を果たす新しい多能性幹細胞や新規な抗生物質の発見、自己細胞の不要なプロテインや細胞小器官をリサイクルするオートファジー、またがん細胞を攻撃する免疫細胞にブレーキをかけるタンパク質「ＰＤ－１」の発見など多岐にわたる医療分野や薬が開発され、薬の作用も多様化している。また、2020 年のノーベル医学賞は「Ｂ型肝炎ウイルスの発見、治療、Ｂ型肝炎抗ウイルス薬の開発」で人類に大きく貢献した。またノーベル化学賞においては遺伝子操作「クリスパーキャス 9」の開発によりゲノム編集が容易になり、遺伝病ばかりでなく、新型コロナウイルスのような未知のウイルスの治療薬の開発の可能性も期待できる。しかしこの技術は諸刃の剣であり、デザイナーベビーの誕生など、倫理が大きく問われる技術でもある。２０２１年は新型コロナウイルスの変異株が次々と発見されているが、新型コロナウイルスに対応するワクチンも何種類か製造されている。中でも、mRNA ワクチンの効果は他のワクチンと比べ優れている。新型コロナウイルスのスパイクタンパク部分の mRNA（ゲノム RNA の一部改変してある）を投与して宿主に抗体をつくるという考え方そのものが、がんをはじめとする免疫療法の更なる発展にも寄与する可能性がますます期待されてきた。この発見は、２０２１年のノーベル賞こそ逃したが、新しい方法論として今後他の疾病の免疫療法に必ずや貢献するだろう。2022 年のノーベル化学賞は医薬品に欠かせない機能性分子の新規合成法などが評価された。新しい薬の発見や開発とともに、薬の効果は治療面に大いに発揮されるが、薬の持つ副作用も大きく無視できない。副作用の疑いが持たれた抗インフルエンザウイルス薬のタミフルに代わり 2018.3 月に発売されたゾフルーザは全く新しい作用機序を持つ薬であるが耐性などとともに、副作用が相次いで報告された。また、ＰＤ－１などと共に抗ガン剤も次々と開発されている。しかしガン細胞にも薬に対する耐性が発生していることも理解しておかねばならない。また、２０２１年のノーベル化学賞は身近なアミノ酸を触媒に、優れた効率を持つ不斉合成を成功させた。この成果は薬の開発に大きな成果をもたらすであろう。このように薬についての様々な事柄について、薬にかかわる分野が化学、生物学、物理学、医学、化学工学、経済学、また倫理学などの総合科学であることを認識しながら、その本質を多様な観点から考察し、理解する。
＜テーマ＞　「薬はなぜ効くか」の理解は、より優れた新薬の開発、耐性の克服、副作用の軽減、正しい薬の用い方などのために必要である。近年、発見の目覚ましい受容体と薬の相互作用などをはじめ、薬の種類、作用機序（薬はなぜ効くか）、薬剤耐性（薬はなぜ効かなくなるか）、薬による副作用、遺伝子治療など、最近発見された受容体と新薬の相互作用も含め、”薬”全般について講義する。その他、アレルギーなどの慢性疾患に効果が認められる漢方薬について概説し、更に覚せい剤、モルヒネ、大麻などを違法に使用する”薬物乱用”についてもその危険性などについて講義する。できるだけ化学構造式や反応式などを使わず、図案化したモデルを用い、わかりやすい、しかしサイエンスに基づいた内容とする。
科学は日々進歩しても新型コロナウイルスなどのような新種のウイルスは必ず存在し、パンデミックもいつ発生するかもわからない。ウイルスや生体の機能メカニズムの理解こそ、治療法の開発につながり、新しい医薬品も開発できる。
この講義では歴史に残る薬の発見のエピソードと、常に進歩する最新の薬について紹介する。
現在、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）が蔓延している。パンデミックは過ぎたとはいえ、新しウイルス株への変異が著しい。今年度第一回目はこのウイルスを中心に以下のよう新型コロナウイルスとはどのようなものか概論した後、ウイルスの構造、感染の機構、免疫・抗原・抗体とは何か、抗原・PCR（抗原）・抗体検査法のメカニズム。ワクチンとは何か、2022 年に発売された新しい治療薬ゾコーバなど、作用機序、消毒のメカニズムなどを新聞やマスコミなどの解説より一歩踏み込んだ内容を総論的に学修する。また、これらの詳細は毎回の項目で詳細に講術する。

〔到達目標〕

受講生が薬について正しい知識を取得し、薬の全体像を理解し説明できる。　また、それが自分自身や家族はもとより、社会全体に対してこれからの健康的なまた、保健衛生上の生活の一助となることを目標とする。
また、この講義で講述する基礎的内容が、まだまだ終息が難しい新型コロナウイルスや毎年流行が予想される季節性インフルエンザウイルスの理解にも繋がることを理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	講義全体の概説及び薬（医薬品）とは何かについて ・薬の定義などについて学修する。 ・新型コロナウイルスについて学修する。	【予習】　シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】　テクニカルタームの理解をする。	30 60
第２回	・長引く新型コロナウイルスのワクチンなどのメカニズムの解説 ・薬の発展の歴史（人類と様々な疾病との闘い） ・ヒポクラテス、錬金術からゲノム新薬へ。人類はどのように薬を開発し利用してきたかを学修する。	【予習】図書館、インターネットなどで、薬の発展の経緯を調べておく。 【復習】進化の過程を理解する。伝統薬などを知る。	30 60
第３回	薬の形と性質・薬の作用を受ける身体の仕組み ・臓器、神経、ホルモン、酵素、DNA・・・などの働きとその理解。	【予習】高校の生物、化学の教科書をあらかじめ読んでおく。 【復習】個々の用語が説明できる。	60 60
第４回	薬の種類（サルファ剤，抗生物質などの抗菌剤） ・病原細菌の種類と薬の作用機序を学修する。 ・前回までの確認小テスト。	予習】シラバス内容にある単語を調べておく。 【復習】効くメカニズムを理解し、説明できるようにする。	30 60
第５回	薬の種類（抗ガン剤，抗高血圧薬、抗高脂血症薬などの抗生活習慣病薬） ・抗がん剤の種類と効き方の違いについて学修する。	【予習】がんとは何か、イメージしておく。 【復習】３人に１人はがんになる現代、自分の生活習慣や遺伝などと考え合わせ、理解を深める。	60 60
第６回	薬の種類（解熱鎮痛薬、抗精神病薬など） ・風邪薬について ・情動作用と大脳辺縁系など、こころと脳をつなぐ薬について学修する。	【予習】新聞などでインフルエンザやうつ病について読んでおく。 【復習】学んだことを実生活で生かせるように具体的な薬名を覚える。	60 60
第７回	薬の種類（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬など） ・免疫とアレルギー。身近な疾患と市販薬なども含め薬の種類を学修する。	【予習】アレルギー性鼻炎や蕁麻疹など身近な疾病について調べておく。 【復習】対症法について理解を深める。	30 60
第８回	薬の種類（ビタミン剤、ホルモン剤など） ・栄養とビタミン ・少量でぴりりと効く ・特徴的な化学構造などモデルを使い学修する。 ・ここまでの確認小テスト。	予習】医薬品では、新聞やテレビコマーシャルなどで知れる知識とは異なることをあらかじめ理解しておく。 【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。	30 60

第９回	薬はなぜ効くか（作用機序） ・受容体 ・ファーマコフォア ・薬と受容体のＣＧによるドッキングシミュレーションを視覚で体験することで、生体と薬が化学反応していることを学ぶ。	【予習】この講義の本質的なところなので、図書館やインターネットでキーワードを確認しておく。 【復習】テクニカルタームの理解と作用機序を科学の言葉で説明できる。　なぜ効くのか、分子レベルの理解。	60 60
第１０回	薬はなぜ効かなくなるか（薬剤耐性） この回はなぜ効くかと同様に本質的な理解が必要 ・薬剤耐性と遺伝子について学修する。 ・抗ガン剤排出ポンプの作用	【予習】キーワードを調べておく。 【復習】テクニカルタームの理解。 なぜ効かなくなるのか、遺伝子レベルの理解。	30 60
第１１回	薬の副作用（ほとんどの薬は副作用を持つ。様々なケースとそれらの原因、予防など） ・薬はさじ加減、毒物としての作用も含め学修する。	予習】キーワードを調べておく。 【復習】テクニカルタームの理解。	30 60
第１２回	違法薬物（薬物乱用に用いられる違法薬物の種類と身体に及ぼす悪影響など） ・麻薬、覚せい剤、大麻、コカイン・・・などなど。 ・薬物乱用について学修する。	予習】キーワードについてあらかじめ調べておく。 【復習】違法薬物についての知識を理解する。	30 60
第１３回	薬用植物と漢方薬・健康食品などについて ・生薬 ・栄養機能食品、特定保健用食品など。 ・補完代替医療について学修する。	【予習】シラバスの内容を調べておくこと。 【復習】生薬・漢方薬は種類が多いので整理して理解する。	30 60
第１４回	これからの薬・医療（新しいアイデアから得られた薬や遺伝子療法などについて） ・分子生物学、薬物動態学、コンピュータによるドラッグデザインなどが新薬を創る。 ・創薬について学修する。	【予習】人類にとってどんな薬が必要か考える。 【復習】新しい薬の未来と医の倫理について考え理解する。	30 60

〔授業の方法〕

この授業は、オンラインで実施する。パワーポイントを用い、分子模型などを使用し薬と生体との相互作用が三次元であることを理解する。対話形式をとりながら可能な限り受講生との双方向性を高めるよう工夫する。毎回講義内容の資料を配布する。テクニカルタームの習得が講義の理解を深める。毎回小テストを行いテクニカルターム、講義内容について出題する（毎回講義後（14 回））

〔成績評価の方法〕

期末レポート、小テストの成績を加味して評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

日常的に新聞、テレビ、インターネット、雑誌などから薬・医療に関する情報を摂取するように努めると、講義内容が理解しやすい。　科学は常に進歩している。高校時代の化学、生物の教科書を理解することでかなりの基礎知識を得ることができる。理解すると意外に楽しいことがわかる。

〔テキスト〕

「特になし」

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。
または、ポータルサイトを通じてメールを受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	身の回りの科学						
教員名	加藤　光裕						
科目№	120730610	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

身近な自然現象や地球環境、生活に欠かせない種々の機器の動作など、様々なものの背後にある科学的原理や法則を理解することは、変化の速い高度技術社会と、環境との関わりを意識することが不可欠な時代に生きる現代人にとって、今や必須の素養です。また、科学的なものの見方・考え方を身につけることで、巷に溢れる根拠のない情報や風評に惑わされずに正しく判断したり適切な行動をとるためのベースを作ることが、情報過多の現代社会において必要とされています。
この授業では、身近な自然現象や身のまわりの機器などをいくつか取り上げて、その科学的原理や法則を具体的に理解するとともに、物事をブラックボックス化せず科学的根拠に基づいて合理的に理解していく考え方や心構えなどを涵養していくことを目指します。なお、各回の授業内容や順序は、変更する場合があります。

〔到達目標〕

DP2、DP3 を実現するため、以下を主な到達目標とする。
身のまわりの様々な自然現象や機器の仕組みなどを背後にある科学的原理や法則に基づいて理解する。
身のまわりの事象や物事を科学的に分析し合理的に理解する方法や心構えを身につける。
身のまわりのものに興味を持ち、なぜ？どうして？という発想を自然に持てるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・科学とは？ （科学と技術、科学法則、理論と実験、偽科学、統計）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第２回	・なぜ月は、いつも同じ面を地球に向けているのか？ （万有引力、遠心力、力の釣り合い、力のモーメント、剛体）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第３回	・台風の渦巻きはどうして反時計回り？ （気圧と風、コリオリ力、慣性系と加速度系）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第４回	・電磁調理器と IC カード （電場と磁場、電磁誘導、ジュール熱、IC カード、非接触充電）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第５回	・電子レンジはなぜ温められる？ （電磁波、波長と振動数、光、紫外線、X 線、温室効果ガス）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第６回	・スマホと通信 （電波、共振、変調、アナログとデジタル）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第７回	・かざすだけでなぜ温度が測れるのか？ （放射温度計、黒体輻射、宇宙背景放射、星の表面温度）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第８回	・お湯は勝手に冷めるけど、水は勝手にお湯にならないのはなぜ？ （熱力学の法則、熱機関、ミクロとマクロ、エントロピー）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第９回	・空はなぜ青い （夕焼けはなぜ赤い、光、虹、光ファイバー、偏光、グリーンフラッシュ）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第１０回	・地震波と音波 （地震、P 波・S 波、音、モスキート音、ノイズキャンセル、マイク、スピーカーの原理）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第１１回	・放射線と放射能 （原子と原子核、α 線、β 線、γ 線、ベクレルとシーベルト）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第１２回	・星空と宇宙 （星の瞬き、オルバースのパラドックス、宇宙の構造）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第１３回	・身近な相対性理論 （GPS、光の速さ、同時刻の相対性、時計の遅れ）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみること。	60 分程度以上
第１４回	・すべての始まり、すべての素 （素粒子、鏡の中の世界、物質と反物質）	予習・復習をしっかり行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調	60 分程度以上

		べてみること。	

〔授業の方法〕

スライドや板書による講義を中心に、必要に応じて演習的なものも取り入れる。予告なしの小テストなど行う可能性がある。話を聴いて終わりではなく、主体的・積極的に自ら考えたり調べたりすることが重要である。

〔成績評価の方法〕

基本的には学期末試験で 50%以上評価するが、小テストや課題の評価を適宜加味する可能性がある。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第 39 条)に準拠する。
授業で取り上げたテーマに関してその原理や法則が理解できたか。
科学的な考え方に則って物事を分析することができるか。
★理工学部生の場合は、上記に加えて数学表現を用いて定量的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業時間中にわからない点があればその場で質問することが、質問者本人にとっても、やりとりを聴いているまわりの学生にとっても、最も理解を深められるため、推奨される（教員にとっても学生の躓いた点に即応し臨機応変に説明に反映できる)。
時間があれば授業終了後にも質問を受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	科学技術の発展と歴史
教員名	渋谷　一夫

科目№	120730810	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

科学技術は長い歴史の中で多くの人びとの努力の積み重ねによって発展させられてきた。この授業では、18 世紀後半にはじまる産業革命以降のヨーロッパの科学技術に関するいくつかのエピソードを取り上げながら、科学と技術とが相互に影響を及ぼしあいながらそれぞれどのように発展してきたのかを明らかにする。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

〔到達目標〕

①それぞれの科学技術がどのような経過をたどって内的に発展してきたかを説明できる。
②それぞれの科学技術が当時の社会・経済・政治などとどのような関係にあったかを説明できる。
③それぞれの科学技術が後の社会・経済・思想などにどのような影響を与えたかを説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかたなどを文書で説明する。 科学技術と産業革命 ・科学技術から見た産業革命について概観する。	【予習】産業革命とは何だったかを確認する。	60
第２回	繊維産業における科学技術の発達 ・繊維産業が産業革命の起源になった要因について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第３回	動力技術の歴史（１）―蒸気機関の発明 ・蒸気機関を利用した時代の特徴を水車の利用との対比で学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第４回	動力技術の歴史（２）―蒸気機関の改良と発展 ・工場で広範に利用された蒸気機関の特徴を，近代的な蒸気機関の発明者であるワットの研究に沿って学修する	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第５回	動力技術の歴史（３）―輸送技術の発達 ・蒸気機関の輸送技術への応用の意味ついて学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第６回	製鉄技術の歴史 ・製鉄技術における新しい発明とその意義について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第７回	工作機械技術の歴史 ・工作機械技術の形成と発達過程を社会的事情とのかかわりで学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。また、課題レポートの作成に努める。	120
第８回	化学技術の歴史（１）―漂白技術の新展開 ・繊維産業における漂白工程の新しいやりかたについて学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第９回	化学技術の歴史（２）―環境問題の発生 ・漂白工程の近代化がもたらした環境悪化とそれに対する各種の取り組みについて学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第１０回	化学技術の歴史（３）―染料技術の新展開 ・新しい染料技術が生まれる科学的・技術的背景について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第１１回	化学技術の歴史（４）―合成染料発明の意義 ・合成染料技術の開発に関する科学技術的特徴について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第１２回	電気技術の歴史（１）―通信技術の新展開 ・通信技術の変化について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第１３回	電気技術の歴史（２）―照明技術の新展開 ・電気照明にとって必要な関連技術とともに，電気照明の優位性について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第１４回	電気技術の歴史（３）―電力生産と産業電化 ・電気技術が産業界に与えた影響とともに，その開発の意味を学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕

授業は講義形式でおこなうが，教科書を使うわけではないので，ポータル上にあげるレジュメ（講義の要旨）をプリントアウトして授業に望んでほしい。必要に応じて参考資料を配布する。ある程度まで進んだ段階で「確認テスト」ないし「課題」を課すので，特に復習に力をいれてほしい。

〔成績評価の方法〕

期末試験と数回課す予定の「課題」ないし「確認テスト」の提出とでつけます。比率ですが，前者が 70%，後者が 30%です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『科学技術史概論』山崎正勝ほか編著、ムイスリ出版、1985 年（購入の必要はありません）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

質問等は授業終了後に教室で受けつけます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	気象と地球環境						
教員名	財城　真寿美						
科目№	120810210	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

「低気圧がくると頭痛になる？」「天気予報はなぜ外れる？」「台風やゲリラ豪雨はどこからやってくる？」
皆さんが，日々の生活の中で天気について感じている素朴な疑問について，その仕組みや答えがわかるように，多くのイラストや図表を使って解説します．さらに，大気の様々な要素（気温や気圧）について，文系の学生や「物理」「地学」を学んだことのない学生でも取り組めるように，電卓を使った四則演算中心の物理の簡単な計算演習を通して，イメージから物理的理解へ学びを深めます．
また，ニュースなどでよく耳にするけど実はよくわかっていない「地球温暖化」や「エル・ニーニョ現象」など，地球規模でおこっている大気に関する現象や社会問題を解説し，個々の考えを議論します．
実際に気象業務に携わる専門家（気象予報士など）がゲスト講師として参加する回も予定しています．

〔到達目標〕

DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断)，DP3【課題の発見と解決】(情報の調査収集＋分析・解釈＋論理的思考）を実現するため，以下を到達目標とする．
大気の現象について，そのしくみをイメージして図表や物理式から読み解くことができる．
地球温暖化など，地球規模で課題となっている大気の現象について，社会の取り組みや個人の取り組みについて，個々の考えを述べることができる．

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	講義ガイダンス ・研究倫理について ・講義計画の確認	シラバスを読み，講義計画を確認してくること	60
第２回	地球の大気の構造	前回の講義内容の確認	60
第３回	どうして風が吹く？ （気圧と風：１）	前回の講義内容の確認	60
第４回	うずを巻く風 （気圧と風：２）	前回の講義内容の確認	60
第５回	気温はどうやって決まる？ 温度計のしくみ （放射と熱）	前回の講義内容の確認	60
第６回	「水」の様々な姿 （水蒸気と雲）	前回の講義内容の確認	60
第７回	循環する地球の大気	前回の講義内容の確認	60
第８回	天気予報がより身近に 読める天気図，描ける天気図 （低気圧と高気圧）	前回の講義内容の確認	60
第９回	天気図でみる日本の四季	前回の講義内容の確認	60
第１０回	気象予報の最前線	前回の講義内容の確認	60
第１１回	台風はどこからやってくる？ 台風災害の歴史	前回の講義内容の確認	60
第１２回	エル・ニーニョ現象，ラ・ニーニャ現象 （大気と海洋の相互作用）	前回の講義内容の確認	60
第１３回	就活に役立つ？地球温暖化１ （地球温暖化のしくみと現状）	前回の講義内容の確認	60
第１４回	就活に役立つ？地球温暖化２ （地球温暖化の国際的な取り組み）	全ての授業回を振り返って，復習・質問すべき事項を確認する	60

〔授業の方法〕

配布プリントと PC プロジェクターを使用して講義を進めます．
毎回授業後半に授業内容を確認するためのクイズ・小レポートを実施します．

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果（80%）と，課題や発言などの講義への取り組み（20%）で評価します．
期末試験では，電卓（通信機能のないもの）が使用可能です．また授業で扱った物理式などの参考資料を配布します．

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し，その達成度により評価する.
大気の現象について，そのしくみをイメージして図表や物理式から読み解くことができるか.
地球温暖化など，地球規模で課題となっている大気の現象について理解し，自分の言葉で説明できるか.
気象に関する地球的課題について，社会の取り組みや個人の取り組みについて，個々の考えを述べることができるか.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

本年度は指定しません.

〔参考書〕

「新 百万人の天気教室」白木正規，成山堂書店，ISBN：4425513525，購入の必要なし
「学んでみると気候学はおもしろい」日下博幸，ベレ出版，ISBN: 4860643623，購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します.

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	自然環境と文明						
教員名	松山　洋						
科目№	120810310	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

地球の自然環境は複雑なシステムがバランスをとりながら，うまく循環してきました．しかし人間が文明的な活動を始めた時から，人間は環境に様々な影響を与え，近年はそのバランスが崩れ，様々な環境問題が生じています．この講義では，過去の自然環境と文明に起こった変化がどのように関連していたのかを考え，さらに現代文明とこれからの地球環境のあり方を考えていきます．

〔到達目標〕

ＤＰ２（教養の修得、および広い視野での思考・判断）を実現するため、以下を到達目標とする。
過去の気候変動などが引き起こした文明や技術革新について理解を深め，自分の言葉で説明できる．
人間が環境変化に与えてきた影響について理解し，自分の言葉で説明できる．

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	1）ガイダンス ・ この授業で学修することを説明する． ・ 担当教員のプロモーションビデオを見て，どのような視点から授業が展開されるかを理解する．	【予習】この授業のシラバスを読む． 【復習】サイエンスチャンネル 未来を創る科学者達（72）水から見える地球の姿を見る． http://sciencechannel.jst.go.jp/I026904/detail/I056904072.html	【予習・復習】60 分
第２回	2）現代文明がもたらした最近の環境変化（その 1） ・「20 世紀最大の環境破壊」と言われた中央アジアのアラル海で起こってきた環境破壊について学修する．	【予習】『地球水環境と国際紛争の光と影−カスピ海・アラル海・死海と 21 世紀の中央アジア/ユーラシア』水文・水資源学会編集出版委員会編，信山社サイテック，2,752 円，ISBN-13: 978-4882615477 を読む．	【予習】90 分
第３回	3）現代文明がもたらした最近の環境変化（その 2） ・乾燥地域で人々が暮らすための自然環境について学修する． ・中央アジアのバルハシ湖では，隣接するアラル海と違って，なぜ大規模な環境破壊につながらなかったのかを学修する．	【予習】『図説・世界の地域問題』漆原和子・藤塚吉浩・松山 洋・大西宏治編，ナカニシヤ出版，2,625 円，ISBN-13: 978-4779502040 を読む．	【予習】90 分
第４回	4）現代文明がもたらした最近の環境変化（その 3） ・アマゾン川流域の熱帯林破壊について学修する． ・アマゾン川流域の熱帯林が流域内外の水循環に及ぼす影響について学修する．	【予習】『アマゾン−生態と開発−』 西沢利栄・小池 洋一，岩波新書，609 円，ISBN-13: 978-4004302292 を読む．	【予習】90 分
第５回	5）4 大文明の話 ・「なぜ，5,000 年前に 4 大文明はあそこに成立したのか？」を学修する． ・過去の気候について学ぶ前に，現代の気候はどのように形成されているのかを学修する．	【予習】『やさしい気候学−第 4 版−』仁科淳司，古今書院，2,600 円，ISBN-13: 978-4772285117 の 第 2〜4 章を読む．	【予習】60 分
第６回	6）過去の気候 その 1 ・気候システム，およびその源となる太陽活動について学修する． ・観測機器と古文書を用いた過去の気候の復元方法について学修する．	【予習】『講座 文明と環境〈第 1 巻〉地球と文明の周期』小泉 格・安田喜憲編，朝倉書店，3,800 円，ISBN-13: 978-4254106510．および『やさしい気候学−第 4 版−』仁科淳司，古今書院，2,600 円，ISBN-13: 978-4772285117 の 第 7 章を読む．	【予習】120 分
第７回	7）過去の気候 その 2 ・花粉，氷床コア，年輪，地形，プランクトンを用いた過去の気候の復元方法について学修する．	【予習】『やさしい気候学−第 4 版−』仁科淳司，古今書院，2,600 円，ISBN-13: 978-4772285117 の 第 7 章をもう一度読む．	【予習】60 分
第８回	8）農耕と文明 その 1 ・農耕，および麦作の起源について学修する． ・貧富の格差を生み出さない農耕のあり方（ブッシュマン）があることについても学修する．	【予習】『講座 文明と環境（第 3 巻）農耕と文明』梅原 猛・安田喜憲編，朝倉書店，3,800 円，ISBN-13:978-4254105537 を読む．	【予習】90 分
第９回	9）農耕と文明 その 2 ・稲作の起源、および縄文時代から弥生時代への環境変化について学修する．	【予習】『講座 文明と環境（第 3 巻）農耕と文明』梅原 猛・安田喜憲編，朝倉書店，3,800 円，ISBN-13:978-4254105537 および『魏志倭人伝，卑弥呼，日本書紀をつなぐ糸』野上道男，古今書院，2,625 円，ISBN-13: 978-4772231459 を読む．	【予習】120 分
第１０回	10)農耕と文明 その 3 ・マヤ文明を支えたトウモロコシ栽培，およびインカ文明を支えたジャガイモ栽培について学修する．	【予習】『マヤ文明−密林に栄えた石器文化』青山和夫，岩波新書，840 円 ISBN-13: 978-4004313649 および『ジャガイモのきた道−文明・飢饉・戦争』山本紀夫，岩波新書，777 円 ISBN-13: 978-4004311348 を読む．	【予習】120 分
第１１回	11)火山噴火と文明 ・火山噴火のメカニズムについて学修する． ・火山噴火が自然環境と文明に与えた影響について概観し，天明の飢饉を例にその実態について学修する．	【予習】『火山噴火と環境・文明』町田 洋・森脇広編，思文閣出版，2,460 円，ISBN-13: 978-4784208449 を読む．	【予習】90 分
第１２回	12）森林と文明 ・メソポタミア文明とミノア文明が森林を利用して繁栄し，森林が枯渇するとともに滅んでいったことについて学修する．	【予習】『講座 文明と環境〈第 9 巻〉森と文明』菅原 聰・安田喜憲編，朝倉書店，3,800 円，ISBN-13: 978-4254106596 および『気候が文明を変える』安田喜憲，岩波書店，1,000 円，ISBN-10: 4000065076 を読む．	【予習】120 分
第１３回	13）歴史時代の気候と文明 ・古墳寒冷期、中世の温暖期と小氷期に起こったできごとと自然環境との関係について学修する．	【予習】『尾瀬ヶ原の自然史』阪口 豊，中公新書，632 円，ISBN-13: 978-4121009289 および『講座 文明と環境〈第 6 巻〉歴史と気候』吉野正敏・安田喜憲編，朝倉書店，3,800 円，ISBN-13: 978-4254106565 を読む．	【予習】120 分
第１４回	14）将来の環境予測 ・地球温暖化にともなって，どのような環境変化が予測されているかについて学修する． ・地球温暖化の話をする前に，「地球の気温はどう決まるか？」について説明する．	【予習】『IPCC AR6/WG1 報告書 政策決定者向け要約（SPM）暫定訳』を読む． （ https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/index.html からダウンロード可能です）	【予習】 90 分

〔授業の方法〕

配布資料は，授業のある週の月曜日には CoursePower に置きます（ただし，配布資料は一部がブランクになっています）．必要ならば，各自ダウンロードして紙に出力してから授業に臨んで下さい．授業では紙の資料を配布しません（小テストやコメントシートを除く）．
授業は Power Point を用いて進めます．授業で見せるスライドでは，配布資料中のブランクを外してあります．
予告なく，授業中に何回か小テストを行なったり，レポートを課したりします．これが成績評価の 50 % になります．
上

〔成績評価の方法〕

授業中に何回か行なう小テスト・レポート （50%） と学期末試験 （50%）で成績をつけます．レポートを全て提出し，学期末試験を受けた方だけを成績評価の対象とします．小テスト・レポートは遅れてもよいので提出しましょう（ただし，遅れて提出した場合，得点は最高でも合格最低点になります）．
学期末試験は 50 点満点で採点し， 小テスト・レポート （50 点） と合わせて 60 点以上を合格とします．
S: 90 点以上
A: 80〜89 点
B: 70〜79 点
C: 60〜69 点
F: 〜59 点

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します．/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し，その達成度によって評価します．
・小テスト・レポート，学期末試験について，授業で学んだことを述べることができる．
・さらに自分の考えを述べることができる．

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：「環境と科学（地球と環境)」「自然地理学」「地球環境問題」

〔テキスト〕

購入する必要はありません．

〔参考書〕

準備学修の箇所に具体的に記しましたが，それ以外の参考書を以下に挙げます．
『気候変化と人間〜1 万年の歴史〜』鈴木秀夫，原書房，6,090 円，ISBN-13: 978-4562090532.
『気候の変化が言葉をかえた』鈴木秀夫，日本放送協会，780 円，ISBN-13: 978-4140016077
『ジャガイモとインカ帝国−文明を生んだ植物』山本紀夫，4,410 円 ISBN-13: 978-4130633208
『高地文明－「もう一つの四大文明」の発見』山本紀夫，1,155 円 I

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

質問や相談は，授業終了後の教室で受け付けます．または，電子メールを活用して下さい （メールアドレスは，授業の配布資料に掲載します）．

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本列島の歴史と災害						
教員名	宮下　敦						
科目№	120810410	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

日本人にとって日本列島は文字通り生活の基盤となる大地である．日本列島の歴史については明治時代以来の長い研究伝統があるが，これまで統一的な説明はできなかった．近年の地球年代学の進歩により，これまで形成年代が不明だった地質体の位置づけが分かり，約 6 億年にわたる日本列島形成史が明らかになりつつある．こうした現状を踏まえて，本授業科目では，SDGs の観点も踏まえて，最新の研究を踏まえた日本列島の特徴をビジュアルに理解し，その恩恵と表裏一体で発生する災害について考えることを目標とする．

〔到達目標〕

地球科学の基礎的な知識を持つ
日本列島の基本的な地球科学的性質が説明できる．
日本列島形成史が説明できる．
日本列島の恵みと災害について説明ができる．

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	日本列島について	シラバスを確認し，必要な学修内容を理解する．	60 分
第２回	地球の基礎	大学入学までに地球について学んだことをふりかえる．	60 分
第３回	地球科学の基礎	大学入学前に地震や火山について学修したことを復習する．	60 分
第４回	地球史	大学入学までに地球の歴史について学修したことを復習する．	60 分
第５回	日本列島の基本	日本列島の地理・地形などについて復習する	60 分
第６回	日本列島の地球科学	日本列島のまわりで起こるプレートテクトニクスの特徴とそれによって形成された地下の様子について予習する．	60 分
第７回	日本列島の地震と災害	日本列島のまわりの地震とそれによって起こる災害と対策について予習する．	60 分
第８回	日本列島の火山と災害	日本列島にある火山とそれによって起こる災害と対策について予習する．	60 分
第９回	日本の気象災害	日本列島の気象災害の特徴と対策について予習する．	60 分
第１０回	日本列島のはじまり	地球史や日本列島の地球科学について復習する．	60 分
第１１回	日本列島をつくる付加体と花こう岩	日本列島の地球科学や災害について復習する．	60 分
第１２回	日本海の形成	日本列島の基本，災害および地球科学について復習する．	60 分
第１３回	日本列島と鉱山	日本史・世界史などでの「黄金の国」と言われた日本の歴史について復習しておく．	60 分
第１４回	まとめと期末レポート提出	これまでの講義をまとめ，課題について取り組む．	60 分

〔授業の方法〕

基礎知識についての講義と，適宜，簡単な演習で構成する．
講義内容は，概要を示したハンドアウトを配布し，画像や映像を多用する．
各回の最後に，学修内容の確認のための小テストを実施する．

〔成績評価の方法〕

演習課題提出物(約 30%)，毎回の小テスト(約 30%)，および期末レポート(約 40%)により総合的に評価する．

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
中学校・高等学校での理科および社会科(特に地理分野)の学習内容を前提とする.

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

購入の必要はなし.
講義の中で適宜紹介する.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

オフィスアワーは，ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

ICT 利用

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	外国の自然と社会Ａ						
教員名	加賀美　雅弘						
科目№	120810610	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

「食からみたヨーロッパの自然と社会」
本講義ではヨーロッパの自然と社会の特性を，ヨーロッパ特有の食に着目して考察します。そのために，ヨーロッパの食の変化を，①自然環境に規定されたローカルな食文化，②近代化に伴う社会格差の拡大と食の多様化，③工業化による食の大衆化，の 3 点に着目した説明を行い，地域の変化と関連づけた理解を深めます。なお，必要に応じて，日本との違いにも言及します。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得），DP5（多様な人々との協働）を実現し，現代社会を地理的にとらえるために，以下の 3 点を到達目標とします。
① 自然環境とともに社会の変化が多様な要因によって規定されることを学び，社会を多角的にとらえる視野を養う。
② 今日のヨーロッパの社会が．ヨーロッパと世界との結びつきのなかで形成されてきたことを理解する。
③ 日本の社会と対比することにより，世界各地の社会を相対的に見る視点を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	第０講　オリエンテーション ・授業の全体像，進め方などを説明する。 ・ヨーロッパの概略を説明する。	【予習】ヨーロッパの地図を見て，国の位置を理解しておく。 【復習】ヨーロッパの国名など地図を使った理解を深める。	60
第２回	第１講　食の地域差と文化・社会 ・世界の自然環境と人の暮らしの関係を，食の地域差に着目して説明する。	【予習・復習】世界の自然環境と農業・食の関係に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	80
第３回	第２講　ヨーロッパの自然環境と食（１） ・自然環境と農業の関係を，コムギと油脂に着目した食文化に着目して説明する。	【予習・復習】ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	80
第４回	第３講　ヨーロッパの自然環境と食（２） ・北西ヨーロッパの自然環境と農業の関係を，豚肉と牛乳に着目して説明する。	【予習・復習】ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	80
第５回	第４講　社会的弱者のための食（１） ・貧困層の社会的地位を，トウモロコシに着目して解説する。 ・社会的弱者の特性を病気（ペラグラ）に着目して検討する。	【予習・復習】ヨーロッパの貧困層に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	80
第６回	第５講　社会的弱者のための食（２） ・貧困層の社会的地位を，ジャガイモについて解説する。 ・アイルランド飢饉から社会的弱者の特性を考察する。	【予習・復習】ジャガイモの歴史についての参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第７回	第６講　現代ヨーロッパにおける社会的弱者 ・ロマ（いわゆるジプシー）の社会的状況について解説する。 ・差別・排除の構造について考察する。	【予習・復習】ロマに関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第８回	第７講　富裕社会と食（１） ・富裕層の社会の特徴を，砂糖の歴史に着目して説明する。 ・砂糖の栽培と消費から世界の格差について考察する。	【予習・復習】砂糖の歴史に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第９回	第８講　富裕社会と食（２） ・富裕層の社会の特徴を，コーヒーの歴史に着目して説明する。 ・ヨーロッパの市民社会形成とコーヒーとの関係を論じる。	【予習・復習】コーヒーの歴史に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第１０回	第９講　富裕社会と食（３） 近代化で変わった食 ・富裕層の社会の特徴を，ミネラルウォーターの歴史に着目して説明する。 ・ステイタスシンボルとしての飲料水について解説する。	【予習・復習】近代化と富裕層に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第１１回	第 10 講　グローバル社会と食（１） ・富裕層の社会の特徴を，チョコレートの歴史に着目して解説する。 ・工業化によるチョコレートの大衆化を説明する。	【予習・復習】チョコレートの歴史に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第１２回	第 11 講　グローバル社会と食（２） ・自然環境に規定された農産加工品の特徴を，ビールに着目して説明する。 ・工業化によるビールのグローバル化を解説する。	【予習・復習】ビールの歴史と食の工業化に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第１３回	第 12 講　グローバル社会と食（３） ・流入する外国人の社会を，エスニック料理に着目して解説する。 ・エスニックタウンの特徴について説明する。	【予習・復習】ヨーロッパで増加する外国人に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第１４回	まとめ	【予習・復習】授業内容を整理し，ヨーロッパ社会に関する理解を進める。	100

〔授業の方法〕

授業は，内容を整理したパワーポイントを使用して行い，講義内容の理解をはかります。また，毎時間に課題を課し，リアクションペーパーの執筆を求めます。これによって学習内容の理解度を確認します。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および期末レポートは実施しないため，「平常点（毎回の授業で課す課題の提出内容）：100%」で成績評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
以下の点について，その達成度により評価します。
①ヨーロッパにおける自然環境と人の暮らしの関係を理解している。
②食との関わりから，ヨーロッパの社会の変化を理解している。
③食との関わりから，世界におけるヨーロッパ社会の特徴を理解している。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ヨーロッパの国名と地名について，地図帳を利用して把握しておいてください。

〔テキスト〕

『食で読み解くヨーロッパ―地理研究の現場から―』　加賀美雅弘著，朝倉書店，3000 円+税，ISBN978-4-254-16360-5

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	外国の自然と社会B						
教員名	宋　苑瑞						
科目№	120810710	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

この授業科目では、モンスーンアジアの諸国土と社会について地誌学的な見地から概説する。東・東南アジア諸国における外資導入に基づく輸出指向工業化政策の進展によって、アジアは世界経済において大きな役割を担うようになっている。その中で、アジアの諸地域は、急激な地域変容と社会変動を経験している。本科目では、グローバルな秩序の下に再編しつつあるアジア諸国を対象に、その空間像を理解させるとともに、具体的な事例を挙げつつ、アジアにおいて生起している地域変容および地域問題の理解へと結びつけたい。

〔到達目標〕

DP２【教養の修得】（広い視野での思考・判断）、および DP５【多様な人々との協働】（コミュニケーション＋協調性＋チームワーク）を実現するため、以下の到達目標とします。
アジア地域の各国の文化の違いや自然環境の違いを学び、今後の発展可能性について理解できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	特になし	60
第２回	地理的思考	レポート①	90
第３回	外国から見た日本	キーワードのまとめ	60
第４回	韓国　（１） 韓国の社会と文化	キーワードのまとめ	60
第５回	韓国　（２） 韓国と北朝鮮	キーワードのまとめ	60
第６回	中国　（１） 中国の社会と文化	キーワードのまとめ	60
第７回	中国　（２） 中国の経済	キーワードのまとめ	60
第８回	香港・マカオ・台湾 文化と自然環境	キーワードのまとめ	60
第９回	タイ タイの文化と都市問題	キーワードのまとめ	60
第１０回	ベトナム ベトナムの社会と経済	キーワードのまとめ	60
第１１回	フィリピン フィリピンの産業と環境	キーワードのまとめ	60
第１２回	マレーシア マレー半島の社会と宗教	キーワードのまとめ	60
第１３回	シンガポール シンガポールの社会と環境	キーワードのまとめ	60
第１４回	インドネシア インドネシアの文化と環境	キーワードのまとめ	60

〔授業の方法〕

配布資料は Course Power にアップロードします。
授業と連動しツイッターで授業内容や情報を発信します。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および期末レポートは実施しないため、平常点で成績評価する。
平常点 20%
レポート 80%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
授業の到達目標であるアジア地域の各国の文化の違いや自然環境の違いや今後の発展可能性について理解できたかについて確認します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『図説 世界の地域問題 100』漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編，ナカニシヤ出版，2970 円，ISBN: 978-4779516139
https://www.amazon.co.jp/dp/4779516137/ref=cm_sw_em_r_mt_dp_MPZ95QXKJDC1Y6CFCBGC
『世界地誌シリーズ　東南アジア・オセアニア』菊地俊夫・小田宏信編，朝倉書店，3740 円，ISBN: 978-4254169270
https://www.amazon.co.jp/dp/42

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Course Power などで受け付けます。

〔特記事項〕
・アクティブ・ラーニング
・情報リテラシー教育科目
・ＩＣＴ活用
https://twitter.com/seikeigeo2023

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域づくり論						
教員名	小室　譲						
科目№	120810810	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

人口減少や産業の空洞化が進行して久しい現代の日本において、観光産業は外貨を獲得し、地域の交流人口を増やす有望な産業として位置づけられています。その一方で、昨今の国内観光地の実態は COVID-19 の流行やオーバーツーリズム、環境保全と地域振興の両立など、持続可能でレジリエントな観光地づくりに向けて多くの課題を抱えます。こうした中、本授業では日本の観光地政策の沿革を頭に入れたうえで、地方圏観光地（主に国際リゾート地域）におけるケーススタディを通じて、実際の観光地が持続可能な地域経済社会の実現に向けてどのような地域づくりを実践しているのかを学習します。あわせて、受講者のみなさんには事例地域を決めていただき、各地域における観光地づくりの実践例を調査して報告していただく予定です。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）および DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下を到達目標とします。
(1) 日本の観光に関連した地域政策の沿革や昨今の状況について、概要を理解できる。
(2) 各地域に固有の課題と固有の資源に着目して持続可能な地域づくりを構想する視点を獲得できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス（持続可能な観光地と地域づくり論）	シラバスを確認する	60
第２回	日本の観光地政策のあゆみ（１）	前回の復習	60
第３回	日本の観光地政策のあゆみ（２）	前回の復習	60
第４回	山岳観光地における地域づくりの実践（国際山岳リゾートのケーススタディ）	前回の復習	60
第５回	次回レクチャーに関する事前知識の習得と質問票の作成	前回の復習	60
第６回	日本の山岳観光地の今（宿泊経営者によるレクチャーを予定）	前回の復習	60
第７回	日本の離島観光地におけるレジリエンスと地域づくりの視点	前回の復習	60
第８回	日本の離島観光地における観光開発と環境問題	前回の復習	60
第９回	日本の離島観光地における雇用問題と地方移住の実態	前回の復習	60
第１０回	前回までの中間まとめと発表準備	前回の復習/事例紹介の準備	90
第１１回	次回発表に関する中間報告	前回の復習/事例紹介の準備	90
第１２回	日本の観光地づくりに関する事例の報告(1)	前回の復習/事例紹介の準備	90
第１３回	日本の観光地づくりに関する事例の報告(2)	前回の復習/事例紹介の準備	90
第１４回	まとめ（レジリエントな観光地づくりに向けて）	自身/他者の発表に対するふりかえり	60

〔授業の方法〕

講義および演習の形式を併用します。小課題を課す場合もあります。

〔成績評価の方法〕

平常点評価 100%（授業内の発言や小課題、グループワークの参加、発表演習）

〔成績評価の基準〕

上記の評価法で、成績評価の基準は、成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目：「日本の国土と社会」を履修済み、もしくは同時履修することが望ましい。

〔テキスト〕

必要に応じて、授業内で紹介します。

〔参考書〕

必要に応じて、授業内で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代のアジアＡ＜1＞
教員名	小武海　櫻子

科目№	120820210	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

19 世紀から 20 世紀にわたって、日本・中国・朝鮮・琉球・ベトナムといった東アジア諸国は既存の伝統統治システムから近代国際秩序への転換を迫られ、欧米諸国の影響のもと近代国家を目指した。東アジアの「近代化」の歴史は、現代社会の諸問題とどのように接続されているだろうか。本講義では、その基層的な歴史背景を理解するため、下記のテキストを用いて、中国の王朝体制の崩壊から国家統一までを概観しつつ、日本と中国を中心とする帝国主義による国家像の再編や東南アジアの国家統合といった東アジアの近代ナショナリズムの形成について学ぶ。

〔到達目標〕

DP２（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①　近現代東アジアの伝統から近代へ転換する歴史を概観し、基礎的な知識を身につける。
②　近代日本と中国の関わりを 20 世紀東アジアの国際情勢の変化から理解する。
③　東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・授業ガイダンス： 授業の進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 近現代のアジアを学ぶ意義について	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60
第２回	・中国の歴史地理的な把握（１）： 中国や東アジアの世界の伝統的な特質を自然地理・文化的視点から概観する。	予習：テキスト①1，2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第３回	・中国の歴史地理的な把握（２）： 長江と黄河という二大河川を中心とする陸の世界について学ぶ。	予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第４回	・中国南北の環境とモノの流通: 南北で異なる中国の世界をモノの流通から学ぶ。	予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第５回	・朝貢と外交: 歴史的な中国の朝貢体制と東アジアの海域世界について学ぶ。ぶ。	予習：テキスト①第 23 章・56 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第６回	・東アジアの国際情勢と革命運動： 英領マラヤの成立と中国の辛亥革命を支える華人と秘密結社の繋がりを学ぶ。	予習：テキスト①39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第７回	・中国社会の公共秩序の特質： 中国の農村や都市の歴史的な特質について学ぶ。	予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第８回	・近代の出会い： 太平天国の乱を通じた中国伝統社会と近代との相克を学ぶ。	予習：テキスト①第 32 章、33 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第９回	・中国社会と女性： 現代中国と伝統中国における女性のあり方を歴史的に概観する。	予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１０回	・近代中国の救国と国家建設： 清末の国内改革から民国初期に至る国家建設の流れを学ぶ。	予習：テキスト①第 34、38、39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１１回	・日中戦争と日本の侵略全面化: 1930 年代の日本の華北侵出と中国や諸外国の政治動向を学ぶ。	予習：テキスト①第 44、59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１２回	・ことばと近代: 近代東アジアの国家建設と国語の成立について学ぶ	予習：テキスト①59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１３回	・近代日本と台湾統治： 20 世紀前半の台湾と日本の歴史について学ぶ	予習：テキスト①第 59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１４回	・授業の内容確認とまとめ	予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60

〔授業の方法〕

・授業は講義形式で行う。
・毎回授業内容をまとめた上で自分の意見を書いてもらう。時に授業への意見を元に双方向議論を行う場合もある。
・授業の進度によって内容が変更する場合もある。

〔成績評価の方法〕

2 回の課題レポートの提出（60%）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40%）による総合評価とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。
②19 世紀から 20 世紀にかけての東アジアの国際情勢を把握し、近現代中国の国家建設と現代的意味を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
授業内容をより深く理解するため、20 世紀の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。

〔テキスト〕

購入の必要なし

〔参考書〕

①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年）
②　並木頼寿著『東アジアに「近代」を問う』（研文出版、2010 年）
③　吉澤誠一郎『清朝と近代世界　19 世紀（シリーズ中国近現代史①）』（岩波書店、2010 年）
④　川島真『近代国家への模索　1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年）
⑤　石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代のアジアＡ＜2＞
教員名	小武海　櫻子

科目№	120820220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

19 世紀から 20 世紀にわたって、日本・中国・朝鮮・琉球・ベトナムといった東アジア諸国は既存の伝統統治システムから近代国際秩序への転換を迫られ、欧米諸国の影響のもと近代国家を目指した。東アジアの「近代化」の歴史は、現代社会の諸問題とどのように接続されているだろうか。本講義では、その基層的な歴史背景を理解するため、下記のテキストを用いて、中国の王朝体制の崩壊から国家統一までを概観しつつ、日本と中国を中心とする帝国主義による国家像の再編や東南アジアの国家統合といった東アジアの近代ナショナリズムの形成について学ぶ。

〔到達目標〕

DP２（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①　近現代東アジアの伝統から近代へ転換する歴史を概観し、基礎的な知識を身につける。
②　近代日本と中国の関わりを 20 世紀東アジアの国際情勢の変化から理解する。
③　東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・授業ガイダンス： 授業の進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 近現代のアジアを学ぶ意義について	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60
第２回	・中国の歴史地理的な把握（１）： 中国や東アジアの世界の伝統的な特質を自然地理・文化的視点から概観する。	予習：テキスト①1，2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第３回	・中国の歴史地理的な把握（２）： 長江と黄河という二大河川を中心とする陸の世界について学ぶ。	予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第４回	・中国南北の環境とモノの流通: 南北で異なる中国の世界をモノの流通から学ぶ。	予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第５回	・朝貢と外交: 歴史的な中国の朝貢体制と東アジアの海域世界について学ぶ。ぶ。	予習：テキスト①第 23 章・56 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第６回	・東アジアの国際情勢と革命運動： 英領マラヤの成立と中国の辛亥革命を支える華人と秘密結社の繋がりを学ぶ。	予習：テキスト①39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第７回	・中国社会の公共秩序の特質： 中国の農村や都市の歴史的な特質について学ぶ。	予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第８回	・近代の出会い： 太平天国の乱を通じた中国伝統社会と近代との相克を学ぶ。	予習：テキスト①第 32 章、33 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第９回	・中国社会と女性： 現代中国と伝統中国における女性のあり方を歴史的に概観する。	予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１０回	・近代中国の救国と国家建設： 清末の国内改革から民国初期に至る国家建設の流れを学ぶ。	予習：テキスト①第 34、38、39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１１回	・日中戦争と日本の侵略全面化: 1930 年代の日本の華北侵出と中国や諸外国の政治動向を学ぶ。	予習：テキスト①第 44、59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１２回	・ことばと近代: 近代東アジアの国家建設と国語の成立について学ぶ	予習：テキスト①59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１３回	・近代日本と台湾統治： 20 世紀前半の台湾と日本の歴史について学ぶ	予習：テキスト①第 59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１４回	・授業の内容確認とまとめ	予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60

〔授業の方法〕

・授業は講義形式で行う。
・毎回授業内容をまとめた上で自分の意見を書いてもらう。時に授業への意見を元に双方向議論を行う場合もある。
・授業の進度によって内容が変更する場合もある。

〔成績評価の方法〕

2 回の課題レポートの提出（60%）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40%）による総合評価とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。
②19 世紀から 20 世紀にかけての東アジアの国際情勢を把握し、近現代中国の国家建設と現代的意味を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
授業内容をより深く理解するため、20 世紀の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。

〔テキスト〕

購入の必要なし

〔参考書〕

①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年）
②　並木頼寿著『東アジアに「近代」を問う』（研文出版、2010 年）
③　吉澤誠一郎『清朝と近代世界　19 世紀（シリーズ中国近現代史①）』（岩波書店、2010 年）
④　川島真『近代国家への模索　1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年）
⑤　石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代のアジアＢ＜1＞
教員名	小武海　櫻子

科目№	120820310	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、日本と関係の深い国の一つである中国の政治・社会・文化的特質を近現代的な歴史文脈から理解する。前期に引き続き下記のテキストを用いて、20 世紀初頭から 21 世紀現在に至る中国の接続と変容を概観しながら、近現代東アジア地域の歴史的な国際関係を学ぶ。

〔到達目標〕

DP２（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①近現代東アジアの歴史を中国を中心に把握し、基礎的な知識を身につける。
②近代日本と中国の関わりを 20 世紀東アジアの国際情勢の変化から理解する。
③東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・授業ガイダンス： 前期の復習	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60
第２回	・近現代中国の「民主」と革命： 中国の国家建設と「民主」理解について学ぶ。	予習：テキスト①第 39、42 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第３回	・20 世紀初頭の革命と議会政治： 孫文ら革命派の理念と民国初期の歴史を学ぶ。	予習：テキスト①第 49 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第４回	・ヨーロッパの社会主義： 19 世紀西欧の社会主義形成の歴史的背景を学ぶ	予習：テキスト①第 43 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第５回	・近代の社会主義と東アジア： 社会主義の歴史的形成と東アジアでの発展の歴史を学ぶ。	予習：テキスト①第 43 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第６回	・日中戦争までの道のり（１）： 1930 年代ナショナリズムの勃興と初期中国共産党の発展について学ぶ。	予習：テキスト①第 43、44 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第７回	・日中戦争までの道のり（２） 1940 年代の中国社会と歴史的な政治動向を学ぶ。	予習：テキスト①第 44、45 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第８回	・日中戦争と太平洋戦争： 1940 年代の中国を中心とする戦時下の社会を学ぶ。	予習：テキスト①44、45 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第９回	・終戦後の新中国成立： 終戦後の中国国内外の政治の流れを学ぶ。	予習：テキスト①第 46 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１０回	・社会主義への挑戦： 毛沢東の目指した実践と 1960 年代までの中国を取り巻く国際環境について学ぶ。	予習：テキスト①第 47、48 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１１回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（１）： 終戦後東アジアにおける国家再編と国籍の問題について学ぶ。	予習：テキスト①第 50 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１２回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（２）： 中華民国を中心とした華人社会と東アジア諸地域との関係を学ぶ。	予習：テキスト①第 50 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１３回	・東アジアの政治運動と国家： 東アジアに広まる民衆による政治運動とその背景を学ぶ。	予習：テキスト①第 51 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１４回	・授業の内容確認とまとめ	予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60

〔授業の方法〕

・授業は講義形式で行う。
・毎回授業内容をまとめた上で自分の意見を書いてもらう。時に授業への意見を元に双方向議論を行う場合もある。
・授業の進度によって内容が変更する場合もある。

〔成績評価の方法〕

2 回の課題レポートの提出（60%）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40%）による総合評価とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。
②20 世紀東アジアの国際情勢を把握し、近現代中国の国家建設と現代的意味を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
授業内容をより深く理解するため、20 世紀の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。

〔テキスト〕

購入の必要なし

〔参考書〕

①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年）
②高原明生等『開発主義の時代へ　1972-2014（シリーズ中国近現代史⑤）』（岩波書店、2014 年）
③川島真『近代国家への模索　1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年）
④石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代のアジアＢ＜2＞
教員名	小武海　櫻子

科目№	120820320	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、日本と関係の深い国の一つである中国の政治・社会・文化的特質を近現代的な歴史文脈から理解する。前期に引き続き下記のテキストを用いて、20 世紀初頭から 21 世紀現在に至る中国の接続と変容を概観しながら、近現代東アジア地域の歴史的な国際関係を学ぶ。

〔到達目標〕

DP２（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①近現代東アジアの歴史を中国を中心に把握し、基礎的な知識を身につける。
②近代日本と中国の関わりを 20 世紀東アジアの国際情勢の変化から理解する。
③東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・授業ガイダンス： 前期の復習	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	60
第２回	・近現代中国の「民主」と革命： 中国の国家建設と「民主」理解について学ぶ。	予習：テキスト①第 39、42 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第３回	・20 世紀初頭の革命と議会政治： 孫文ら革命派の理念と民国初期の歴史を学ぶ。	予習：テキスト①第 49 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第４回	・ヨーロッパの社会主義： 19 世紀西欧の社会主義形成の歴史的背景を学ぶ	予習：テキスト①第 43 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第５回	・近代の社会主義と東アジア： 社会主義の歴史的形成と東アジアでの発展の歴史を学ぶ。	予習：テキスト①第 43 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第６回	・日中戦争までの道のり（１）： 1930 年代ナショナリズムの勃興と初期中国共産党の発展について学ぶ。	予習：テキスト①第 43、44 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第７回	・日中戦争までの道のり（２） 1940 年代の中国社会と歴史的な政治動向を学ぶ。	予習：テキスト①第 44、45 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第８回	・日中戦争と太平洋戦争： 1940 年代の中国を中心とする戦時下の社会を学ぶ。	予習：テキスト①44、45 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第９回	・終戦後の新中国成立： 終戦後の中国国内外の政治の流れを学ぶ。	予習：テキスト①第 46 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１０回	・社会主義への挑戦： 毛沢東の目指した実践と 1960 年代までの中国を取り巻く国際環境について学ぶ。	予習：テキスト①第 47、48 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１１回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（１）： 終戦後東アジアにおける国家再編と国籍の問題について学ぶ。	予習：テキスト①第 50 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１２回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（２）： 中華民国を中心とした華人社会と東アジア諸地域との関係を学ぶ。	予習：テキスト①第 50 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１３回	・東アジアの政治運動と国家： 東アジアに広まる民衆による政治運動とその背景を学ぶ。	予習：テキスト①第 51 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60
第１４回	・授業の内容確認とまとめ	予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。	60

〔授業の方法〕

・授業は講義形式で行う。
・毎回授業内容をまとめた上で自分の意見を書いてもらう。時に授業への意見を元に双方向議論を行う場合もある。
・授業の進度によって内容が変更する場合もある。

〔成績評価の方法〕

２回の課題レポートの提出（60%）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40%）による総合評価とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。
②20 世紀東アジアの国際情勢を把握し、近現代中国の国家建設と現代的意味を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
授業内容をより深く理解するため、20 世紀の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。

〔テキスト〕

購入の必要なし

〔参考書〕

①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年）
②高原明生等『開発主義の時代へ　1972-2014（シリーズ中国近現代史⑤）』（岩波書店、2014 年）
③川島真『近代国家への模索　1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年）
④石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代の欧米Ａ＜1＞
教員名	佐伯　哲朗

科目№	120820410	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。前期の授業では、18 世紀末のアメリカとフランスの革命から 19 世紀後半の帝国主義時代までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどる。このなかで、現代世界の諸問題について歴史的背景を含めて理解することを目指す。

〔到達目標〕

欧米近代史についての基礎的な知識を習得する。ある出来事について、歴史的な展開と世界史的な関連の両面を知ることによって、歴史的なものの見方を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の概要、歴史とは何か	配布プリントを読む。第１回については授業後の復習となる。	60
第２回	イギリス領北米１３植民地	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』(ミネルヴァ書房)、3-34 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第３回	アメリカ合衆国の独立	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』(ミネルヴァ書房)、35-45 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第４回	フランス史の基礎知識、１７８９年の革命	遅塚忠躬『フランス革命』(岩波書店)、40-86 頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第５回	フランス革命の歴史過程、山岳派の台頭と没落	遅塚忠躬『フランス革命』(岩波書店)、87-128 頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第６回	フランス革命の意義	遅塚忠躬『フランス革命』(岩波書店)、128-190 頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第７回	１８４８年革命、ドイツ統一	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦『大学で学ぶ西洋史［近現代］』(ミネルヴァ書房)、112-120 頁、145-147 頁、谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史　22 巻　近代ヨーロッパの情熱と苦悩』(中央公論新社)、76-160 頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第８回	ジェントルマンの支配体制	谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史　22 巻　近代ヨーロッパの情熱と苦悩』(中央公論新社)、368-377 頁、384-390 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第９回	産業資本主義の発展	谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史　22 巻　近代ヨーロッパの情熱と苦悩』(中央公論新社)、360-383 頁、川北稔編『イギリス史』(山川出版社)、245-255 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第１０回	ドイツ第二帝政の政治支配	大内宏一『ビスマルク』(山川出版社)、1-58 頁、木村靖二編『ドイツ史』(山川出版社)、204-232 頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第１１回	ビスマルクの国内政策	大内宏一『ビスマルク』(山川出版社)、58-87 頁、木村靖二編『ドイツ史』(山川出版社)、232-242 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第１２回	ヴィルヘルム時代の政策と軍国主義	木村靖二編『ドイツ史』(山川出版社)、243-278 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第１３回	フランス第三共和制の危機	谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』(ミネルヴァ書房)、153-163 頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第１４回	ヨーロッパ諸国の植民地支配	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編『大学で学ぶ西洋史［近現代］』(ミネルヴァ書房)、191-199 頁、木畑洋一『二〇世紀の歴史』(岩波書店)、13-47 頁、を熟読する。配布プリントを読む。	90

〔授業の方法〕

プリントを配布するか、板書するか、どちらかの方法によって授業を進める。この点については、第１回目の授業の最初に受講者の希望を聞く。授業の最初と最後に、若干の時間をとって質問や要望を受け付ける。授業後１週間以内に課題のレポートを送信してもらう。課題レポートは、授業内容のまとめ、授業内容をめぐって考えたことなどを記入してもらう。

〔成績評価の方法〕

各節のまとまった範囲で、授業内容のまとめ、授業内容についての感想を課題レポートとして提出する。各回の授業終了後１週間以内に、課題レポートを提出してもらう。また授業での発言などの参加状況（出席ではない）も評価の対象とする。その２つの内容によって成績を評価する。評価の割合としては、課題レポート８０％、平常点２０％とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点を踏まえて評価する。課題レポートの記述内容から、授業内容を理解したかどうかを判断する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

大航海時代以降の欧米の歴史について、高校世界史程度の基礎知識を備えていることを前提としている。

〔テキスト〕

使用しない。

〔参考書〕

有賀貞・大下尚一・志邨晃佑・平野孝編『アメリカ史』（１、２巻）山川出版社、１９９３～９４年。村岡健次・木畑洋一編『イギリス史』（３巻）山川出版社、１９９１年。柴田三千雄・樺山紘一・福井憲彦編『フランス史』（２、３巻）山川出版社、１９９５～９６年。成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『ドイツ史』（２、３巻）山川出版社、１９９６～９７年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。また、リアクションペーパーに質問を書いた場合には、次回の授業で回答する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代の欧米Ａ＜2＞						
教員名	中島　幹人						
科目№	120820420	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、17 世紀以降の主権国家の成立から 18 世紀末のアメリカとフランスの革命、そして近代社会の基礎を形作ることとなったイギリス産業革命までの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。

〔到達目標〕

本講義では、DP2-1（教養の習得）を実現するために、以下の目標を設定する。
①現代市民社会を生み出した歴史的事件の推移の基本的な知識を獲得する
②その知識を元に自ら現代社会に問いかける姿勢を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方・評価方法についての説明、および導入	あらかじめ、シラバスの内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと	60 分
第２回	近世ヨーロッパの成立(1)：諸国家間体系の成立	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第３回	近世ヨーロッパの成立(2)：「絶対主義」国家の内実	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第４回	アメリカの独立革命(1)：「新大陸」への入植	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第５回	アメリカの独立革命(2)：イギリス北米植民地の形成と発展	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第６回	アメリカの独立革命(3)：独立運動の展開①（イギリス第一帝国の再編と反対運動）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第７回	アメリカの独立革命(4)：独立革命の展開②（共和国の樹立に向けて）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第８回	フランス革命(1)：18 世紀における旧体制の変質（経済的発展とブルジョワジーの伸展）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第９回	フランス革命(2)：革命的状況の醸成（「世論」の興隆）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第１０回	フランス革命(3)：革命の展開①（名士会から 1789 年まで）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第１１回	フランス革命(4)：革命の展開②（1791 年憲法体制から統領政府まで）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第１２回	フランス革命(5)：「文化革命」としてのフランス革命	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第１３回	産業資本主義の発展(1)：イギリスにおける産業革命の基礎と展開	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第１４回	産業資本主義の発展(2)：産業革命による社会の変化	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分

〔授業の方法〕

「授業の計画」において揚げた各テーマごとにレジュメを配布・参照して講義を進める。授業に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。その上で、授業最後に選択式のプチテストを行う。

〔成績評価の方法〕

成績評価については、期末試験を 70%、平常点（授業への参加状況やプチテストの成績など）を 30%とする（出席が三分の二に満たない場合は平常点の評価対象外とする）。
期末試験の評価基準に関しては、設問の意図を理解し授業で学んだことを論理的にを説明できるかという点を重視する。詳細はガイダンス時（第 1 回授業）にて提示する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しない。授業テーマに即したレジュメを配布し、それを参照しながら授業を進める。

〔参考書〕

杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』 ミネルヴァ書房、2015 年
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』ミネルヴァ書房、2011 年
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史−国民国家形成の彼方に−』ミネルヴァ書房、2006 年
若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史−18 世紀から現代まで−』ミネルヴァ書房、2005 年
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史−宗教改革から現代まで−（改訂版）』ミネルヴァ書房、2003 年
大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史　近現代編（増補版）』ミネ

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後に質問や相談を受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代の欧米Ｂ＜1＞
教員名	佐伯　哲朗

科目№	120820510	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。後期の授業では、20 世紀初頭の時期から 20 世紀中葉の第２次世界大戦の時代までの国際関係、ドイツを中心にして欧州諸国の歴史をたどる。この中で、現代世界の諸問題を歴史的背景を含めて理解できるようにする。

〔到達目標〕

欧米の近現代史についての基礎的な知識を習得する。
ある出来事について歴史的な展開と世界史的な関連の両面について知ることによって、歴史的なものの見方を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	第１次大戦の原因とバルカン問題	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、43-46 頁、柴宜弘編『バルカン史』(山川出版社)、196ー217 頁、225-241 を熟読する。配布プリントを読む。	90
第２回	世界戦争への道、ドイツの国内事情	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、46-54 頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史　26 巻　世界大戦と現代文化の開幕』(中央公論社)、30-39 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第３回	開戦時の国内体制	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、54-75 頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』(ミネルヴァ書房)、167-169 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第４回	戦争への動員	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』(ミネルヴァ書房)、170-175 頁、木畑洋一『二〇世紀の歴史』(岩波書店)、67-89 頁、および配布プリントを熟読する。	90
第５回	大戦期ドイツの日常生活	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、86-89 頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』(ミネルヴァ書房)、175-177 頁、藤原辰史『カブラの冬』(人文書院) を熟読する。	90
第６回	戦争の終結	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』(ミネルヴァ書房)、177-187、193-195 頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』(岩波書店)、90-95 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第７回	戦争の帰結	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、170-205 頁、木村靖二『二つの世界大戦』(山川出版社)、28-41 頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第８回	ロシア革命	和田春樹編『ロシア史』(山川出版社)、278-310 頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第９回	ヴェルサイユ体制	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、205-217 頁、牧野雅彦『ヴェルサイユ条約』(中央公論新社)、3-258 頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』(岩波書店)、95-97 頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第１０回	1920 年代アメリカの明暗、世界恐慌	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』(ミネルヴァ書房)、171-193 頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史　26 巻　世界大戦と現代文化の開幕』(中央公論社)、89-211、289-308 頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第１１回	ナチズムの思想と運動	石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』(講談社)、20-112 頁、山本秀行『ナチズムの時代』(山川出版社)、1-22 頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第１２回	ナチズム、一党独裁体制の成立	石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』(講談社)、114-181 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第１３回	「民族共同体」の建設	山本秀行『ナチズムの時代』(山川出版社)、36-42 頁、石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』(講談社)、254-309 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第１４回	第２次世界大戦	成瀬治ほか編『ドイツ史　３巻』(山川出版社) 273-319 頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

〔授業の方法〕

上記の内容について講義する。プリントを配布するか、黒板に板書するか、いずれかの方式をとるが、最初の授業の時に受講者に希望を聞く。授業の最初と最後に若干の時間をとって質問や要望を受け付ける。授業終了後１週間以内に課題のレポートを送信してもらう。

〔成績評価の方法〕

各節のまとまった範囲で、授業内容のまとめ、授業内容についての感想を課題レポートとして提出してもらう。各回の授業終了後１週間以内に課題レポートを提出する。この課題レポートの成績を成績評価のうちの８０％、授業での発言などの参加状況も評価の対象とするが、この評価を２０％とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点を踏まえて評価する。課題レポートの記述内容から授業内容を理解したかどうかを判断する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
前期に「近現代の欧米Ａ」を履修していることが望ましい。

〔テキスト〕

使用しない。

〔参考書〕

近現代の欧米Ａ（前期の授業）の参考書の項目を参照のこと。そのほかには、木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波書店、2014 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付ける。リアクション・ペーパーで提出された質問については、次回の授業の最初に回答する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代の欧米Ｂ＜2＞
教員名	中島　幹人

科目№	120820520	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、フランス革命以降の 19 世紀ヨーロッパの歴史（前半のウィーン体制、後半における国民国家の形成）、独立戦争以降のアメリカの社会的変化、および 19 世紀末の帝国主義時代とそれに起因する世界大戦までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。

〔到達目標〕

本講義では、DP2-1（教養の習得）を実現するために、①現代に直接連なる 19 世紀から 20 世紀の歴史を確認することで、現代社会における諸問題を考察するための知識を獲得し、②その知識から自ら現代社会を相対化しうる視点を身につけることを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方、および成績評価についての説明	あらかじめ、シラバスで授業内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと	60 分
第２回	19 世紀前半のヨーロッパ社会(1)：ウィーン体制の成立	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第３回	19 世紀前半のヨーロッパ社会(2)：ウィーン体制の動揺と崩壊	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第４回	19 世紀前半のアメリカ社会(1)：「市場革命」の時代	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第５回	19 世紀前半のアメリカ社会(2)：南部奴隷制度と南北戦争	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第６回	19 世紀後半のヨーロッパ社会(1)：国民国家の建設（①イタリア）	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第７回	19 世紀後半のヨーロッパ社会(2)：国民国家の建設（②ドイツ）	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第８回	19 世紀後半のヨーロッパ社会(3)：「国民」創造の努力	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第９回	19 世紀後半のアメリカ社会(1)：北部工業社会の進展と南部再建・西部開拓	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第１０回	19 世紀後半のアメリカ社会(2)：「金ぴか時代」	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第１１回	帝国主義と第一次世界大戦(1)：帝国主義①（ヨーロッパの拡大と国際経済）	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第１２回	帝国主義と第一次世界大戦(1)：帝国主義②（拡大の論理：「他者」認識と国民）	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第１３回	帝国主義と第一次世界大戦(3)：大戦の経過とその帰結	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと	60 分
第１４回	授業の総括と期末試験（授業時間内におけるレポート作成）	授業において使用したレジュメを確認・復習しておくこと	60 分

〔授業の方法〕

「授業の計画」において揚げた各テーマごとにレジュメを予め配布し、それらを参照しながら講義を進める。また、授業に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。そして、授業の最後に選択式のプチテストを行う。

〔成績評価の方法〕

成績評価については期末試験を 70%、平常点（授業への参加状況やプチテストの成績など）を 30%とする。ただし、出席が三分の二に満たない場合は平常点の評価対象外とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しない。授業においてテーマに沿ったレジュメを配布する。

〔参考書〕

以下に挙げるのは参考書であり、購入の必要はない。
杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015 年
大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史　近現代編（増補版）』ミネルヴァ書房、1998 年
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』ミネルヴァ書房、2011 年
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史−宗教改革から現代まで−（改訂版）』ミネルヴァ書房、2003 年
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史−国民国家形成の彼方に−』ミネルヴァ書房、2006 年
若尾祐司・井上茂子編

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に質問や相談を受け付ける。提出された質問には、次回授業において回答する。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中東地域史						
教員名	永島　育						
科目№	120820610	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、中東を中心にひろがるイスラーム世界について、軍事史の視点を軸にしつつ、通史的な知識を得ることを目指す。現在、世界有数の紛争地帯を抱えるイスラーム世界であるが、そのために「イスラームは好戦的な宗教である」という偏見が存在している。こうしたイメージに晒されるイスラーム世界と共生するためには、イスラーム世界と軍事とのかかわりの実態を歴史的に把握し、偏見を払拭することが求められている。そこで、軍事、戦争がイスラーム世界の政治・社会・文化的展開に与えた変化について見ていくことで、今日のイスラーム世界が抱える紛争という課題の考察に機会を与えるような講義を行う。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）を実現するため、以下のことを目標とします。
・イスラーム成立から現代まで、イスラーム世界がたどった歴史をおおまかに把握する。
・各時代・地域における軍事や戦争の特色、イスラーム世界の歴史に与えた影響を理解する。
・歴史に根差した長期的視野を持つことで「好戦的なイスラーム」像を考え直す。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イスラームは「テロリストたちの宗教」か？	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第２回	イスラーム世界の地理	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第３回	イスラームのはじまり	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第４回	イスラームのひろがり	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第５回	マムルークの騎兵たち	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第６回	イスラームから見た十字軍	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第７回	イスラームから見たモンゴル帝国	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第８回	火薬帝国	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第９回	軍事革命	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第１０回	国民の歩兵と砲兵たち	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第１１回	難民の時代	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第１２回	総力戦の時代	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第１３回	テロリズム	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分
第１４回	試験と講評	準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。	60 分

〔授業の方法〕

・配布するレジュメ、並びにパワーポイントをもとに講義を行います。

〔成績評価の方法〕

・授業期間中の受講態度（３０％）
・試験（７０％）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・イスラーム世界の歴史について把握したか。
・軍事や戦争がイスラーム世界の歴史に与えた影響を理解したか。
・イスラームに対する中立的な見方を獲得したか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
講義中に参考文献を示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代の国際政治						
教員名	昇　亜美子						
科目№	120820710	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本講義は、現代の国際政治を理解するための視角と基本的知識を養うことを目的とする。
前半は、「どうして戦争は起こるのだろうか」という問いについて、理論と歴史の両面から考えていく。特に、今日大きな問題となっているロシアのウクライナ侵攻や米中対立を重点的に取り上げながら議論を進める。国連があるのになぜ世界は平和にならないのだろうかといったことについても考える。
後半は、「グローバリゼーションの深化は国際関係をどのように変容させたのだろうか」という問いについて議論する。特に、2015 年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGｓ）」について取り上げ、各目標について考えていく。

〔到達目標〕

現代の国際政治について、「何故そのような事象が起きるのか」を分析する社会科学的な視角を養うこと。また、国際関係理論と歴史を学ぶことを通じて、今日の国際政治に関心を持ち、日々のニュースに敏感になり、国際社会とのかかわりの重要性を意識できるようになること。
日本がどのような外交を展開すべきかについて主体的に考えることが出来るようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション―国際政治とはなにか 近代国際政治のコンセプトや国内政治との違いなどを学ぶ。	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第２回	戦争の原因―国際システムレベル：リアリズムの概念	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第３回	戦争の原因―国際システムレベル：パワー概念、勢力均衡と同盟	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第４回	戦争の原因―二国間関係：経済的相互依存、交渉モデル	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第５回	戦争の原因―国家・社会レベル：民主的平和、国内紛争の転嫁	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第６回	戦争の原因―個人レベル：心理的モデル	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第７回	第一次世界大戦とヴェルサイユ体制	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第８回	集団安全保障の挫折と第二次世界大戦	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第９回	冷戦 戦後から 1990 年代まで継続した冷戦構造について概観する。	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第１０回	持続可能な開発目標（SDGｓ） 17 の目標を概観しながら、貧困の撲滅に対するアプローチの変遷や国連、日本政府の取り組みについて学ぶ。	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第１１回	環境問題、食料安全保障、エネルギー安全保障	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第１２回	国境を越える人々 複雑になりつつある移民、難民の問題について取り上げる。	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第１３回	ジェンダーをめぐる問題 テロや紛争による不安定な国家情勢は、女性や女児に特に大きな影響を及ぼすことが多いといった問題について学ぶ。	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60
第１４回	米中対立と国際秩序 米国の孤立主義的傾向、中国の台頭により起きている米中間の覇権争いが、国際秩序に与える影響について学ぶ。中国の人権問題に対する日本を含む先進国の対応についても考える。	国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。	60

〔授業の方法〕

講義方式で行なう。リアクションレポートを実施することがある。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）　10%
レポート　90%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
講義時に伝える。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
メールで受け付ける。詳細は講義時に伝える。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	グローバル経済論						
教員名	永野　護						
科目№	120820810	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本講義は、世界のマクロ経済学を企業、家計、政府の経済活動の事例を踏まえながら議論、解説する。各国の国際収支統計およびマクロ経済統計を理解し、具体的な世界各国の経済動向を学ぶことで、経済学の理論と現実について理解することを講義の目標とする。世界銀行データベースから API (Application Programming Interface)経由でデータを取得し、講義で説明した経済学理論を R で実装する。授業計画や準備学習等、変更の詳細は授業内の指示で確認すること。

〔到達目標〕

ＤＰ２（教養の修得)、DP３（課題の発見と解決)、DP5【多様な人々との協働】(コミュニケーション＋協調性＋チームワーク）を実現するため、以下を到達目標とする。経済学部教育では、マクロ経済学・ミクロ経済学・国際経済学の学習と理解が必須とされる。本講座は、こうした経済学理論に加え、現実の企業社会の経営戦略、国際戦略を理解することで、経済学理論の妥当性、経済学理論が未だ研究として踏み込んでいない領域を理解することを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	第１回　ガイダンス／国民所得計算と国際収支 マクロ経済統計と国際収支統計について解説、議論する。	【予習】基礎的なミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第２回	第２回　国民所得計算と国際収支 マクロ経済統計と国際収支統計について解説、議論する。	【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第３回	第３回　為替レートと外国為替市場 外国為替レート決定理論について解説、議論する。	【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第４回	第４回　貨幣、金利、為替レート 外国為替レート決定理論について議論、解説する。	【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第５回	第５回　物価水準と長期的な為替レート 長期の外国為替レート決定理論について議論、解説する。	【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第６回	第６回　短期的な算出と為替レート 短期の外国為替レート決定理論について議論、解説する。	【予習】基礎的なミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第７回	第７回　固定為替レートと外国為替介入 固定相場制度と政府の為替介入について解説、議論する。	【予習】基礎的なミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第８回	第８回　中間まとめ１ 第１～７回のまとめを行う。	【予習】基礎的なミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第９回	第９回　中間まとめ２ 第１～７回のまとめを行う。	【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第１０回	第１０回　国際金融システム：歴史のおさらい 1870 年以降の国際金融システムについて解説する。	【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第１１回	第１１回　金融のグローバル化：機会と危機 日本ならびに海外の金融システムについて解説、議論する	【予習】基礎的なミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第１２回	第１２回　最適通貨圏とユーロ Brexit をはじめとする欧州経済について解説する。	【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第１３回	第１３回　発展途上国：成長、危機、改革 アジアを中心とする新興国経済について解説する。	【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。	60
第１４回	第１４回　総まとめ	【予習】履修した国際マクロ経済学の内容を確認しておくこと。	60

〔授業の方法〕

本講義では、前回の講義の理解度確認のため、毎回、最後の 15 分、R を用いるクイズ（小テスト）を実施し、これを平常点（出席点）とする。また講義は下記の教科書を毎回、１章ずつ進める。QUIZ の回答を以って出席とし、対面教室では出席は採らない。QUIZ の回答期限は講義実施後、一週間。第１回オリエンテーションにおいて履修者の希望が多ければ、MS Stream による収録動画の配信も検討する。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および期末レポートは実施しない。
毎回 MS Forms を通じて実施される QUIZ への回答を以て出席とする。(PC は必携のこと。)
◆成績評価方法
(A) 平常点　40%　1QUIZ　4 点×10 回
(B)レポート（３回程度）　60%　1 レポート（１頁）20 点×3 回
R による各課題の実証分析（各１頁）を MS Teams を通じて提出すること。
R の使用方法は第１～３回講義にて詳しく説明する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
本講義に並行して入門レベルのマクロ経済学を学修すること。プログラミング言語 R を用いる課題レポートの提出を求めるため、Windows を OS とする PC の利用が可能であること。Mac を OS とする履修者の参加も可能であるが、コードのエラー等は自分で解決すること。

〔テキスト〕

丸善出版、P・クルーグマン、M・オブストフェルド、M・メリッツ『国際経済学（下）金融編』

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

コンサルティング企業 17 年の勤務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化交流論						
教員名	菅野　幸子						
科目№	120820910	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本科目では、混迷、複雑化する国際情勢において、平和で豊かな世界の実現に向けて活動する日本及び諸外国の国際文化交流機関の活動事例や内外の国際文化交流活動の事例を通じて、21 世紀における国際文化交流の在り方を探る。講義では、日本及び英国を代表する国際文化交流機関での実務経験に基づき、具体的かつ多様な国際文化交流活動の事例を提示しつつ、国際文化の歴史的展開、理念、意義と役割、将来の在り方考察する。また、本テーマに関連し拡張する文化の概念、文化外交、文化多様性についても考察する。

〔到達目標〕

DP2【教養の修得】, DP3【課題の発見と解決】, DP4【表現力、発信力】を実現するため、以下の４点を到達目標とする。
1. 国際文化交流に関する基礎的な知識を得るすることができる。
2. 国際文化交流に関する最新の動向や理論を習得することができる。
3. 文化の特質について基礎的な概念を習得することができる。
4. 国際人として行動する上で必要となる世界の文化多様性に関する基礎知識を得ることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス、序論（国際文化交流の理念） 本講義の概要及び講義方法についてのガイダンスを実施。また、国際文化交流の序論として、その理念を考察する。	シラバスを通読し、国際文化交流全般に関する各自の問題意識を整理しておく。特に、「国際交流」、「国際協力」、「文化交流」、「文化多様性」などの概念及びその関係性について考えておくこと。	60
第２回	国際文化交流の歴史１（20 世紀以前） シルクロードなど東西交易の時代から 20 世紀に至るまでの国際文化交流の歴史を概観するとともに、国際文化交流の発展の起点となった歴史的な出来事を考察する。	日本が海外との交流により、どのような文化的影響を受けてきたか、また、どのような影響を与えてきたかを考えておくこと。	60
第３回	国際文化交流の歴史２（20 世紀以降～現代） 20 世紀初頭から現代にいたるまでの国際文化交流の歴史を概観するとともに、ジャポニズムや近代オリンピックなど近代から現代に至る国際文化交流の歴史的起点を考察する。	日本が海外との交流により、どのような文化的影響を受けてきたか、また、どのような影響を与えつつあるかを考えておくこと。	60
第４回	ソフト・パワーとパブリック・ディプロマシー 現在の文化外交及び国際文化交流に関する政策の背景にある理論として、ソフト・パワー論及びパブリック・ディプロマシー論を考察する。	参考文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習しておくこと。	60
第５回	世界の国際文化交流機関の歴史と役割 世界各国の国際文化交流機関の発展の歴史を概観するとともに、国際文化交流機関の意義と役割について考察する。	各国の国際文化交流機関のウェブサイトを参照し、自習しておくこと。	60
第６回	日本における国際文化交流の歴史 第２次世界大戦以降、現代に至るまで国家レベル、地方自治体レベル、民間団体（企業、財団、NPO など)による日本における国際文化交流の歴史を概観する。	国際文化交流の担い手別による、目的・手法などの違いを考えておくこと。	60
第７回	国際交流基金の創設の歴史的背景と意義 日本における国際文化交流の中核機関としての国際交流基金の創設と歴史、その意義について考察する。	国際交流基金のウェブサイトを参照し、活動内容等を把握しておくこと。	60
第８回	国際交流基金の役割と活動事例 国際交流基金の活動の３つの柱である海外における日本語教育支援、文化芸術交流支援、日本研究支援及び知的交流支援に関する具体的事例を通じて、日本における国際文化交流機関の意義と役割について考察する。	国際交流基金のウェブサイトを参照し、活動内容等を把握しておくこと。	60
第９回	日本における多彩な国際文化交流活動の展開１（市民交流） 全国各地で取り組まれている多彩な国際文化交流活動の具体的事例について、映像を活用して考察する。	全国各地で、市民主体の多様な国際交流が実践されているが、自分に身近な市民主体の国際文化交流の経験や事例を考えておくこと。	60
第１０回	日本における多彩な国際文化交流活動の展開 2（国際フェスティバルなど） 国際文化交流活動の一環として、全国各地で多彩な国際芸術フェスティバルが開催されているが、その意義と効果について具体的な事例を通じて考察する。	全国各地で、多様な国際フェスティバルが開催されているが、自分に身近な国際フェスティバルの事例を調べておくこと。	60
第１１回	文化の定義とその概念の広がり（英国の事例から） 英国では、文化の概念が広がっており、地域再生、医療・福祉、ダイバーシティに関連する社会的課題の解決に大きな役割を果たしていると考えられている。その動向と社会的背景を考察する。	文化の概念について整理しておくこと。	60
第１２回	文化多様性と多文化共生 グローバル化が進行している現代社会において、国内において、多様な文化背景を持った人々が一つのコミュニティでともに生活する多文化共生という概念、海外においては文化多様性という概念が重要となっている。その歴史的背景と概念について考察する。	参考文献、新聞やテレビ、ネットなどを通じて、関連するテーマについて情報を収集し、各自考えを整理しておくこと。	60
第１３回	国際文化交流における文化資本と社会資本 現在、経済的資本だけでなく、金銭以外の知識や教育、芸術などの文化資本、人的ネットワークを重視する社会資本といった概念が生まれてきていることから、国際文化交流の概念との関連を考察する。	参考文献、新聞やテレビ、ネットなどを通じて、関連するテーマについて情報を収集し、各自考えを整理しておくこと。	60

第１４回	国際文化交流の未来 第 1 回から第 13 回までの講義の中で提示した国内外における多彩な国際文化交流の事例を振り返るとともに、これからの国際文化交流の在り方について各自の意見を整理する。	これまでの講義を振り返り、これからの国際文化交流の在り方と課題について各自の考えを整理しておくこと。	60

〔授業の方法〕

1. 授業は講義形式で行うが、多様な事例紹介のため映像を使用する。状況に応じて、質疑応答あるいは討論を歓迎する。国際文化交流は実践的な意味合いが強いので、自由に考えを発表する意欲を歓迎する。
2. 授業毎に、質問、意見、コメントを書いたレスポンス・ペーパーの提出を奨励し、次回フィードバックを行う。
3. 授業の進捗状況により、内容を一部変更することもありうる。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（50%）、平常点（授業への参加状況やレスポンス・ペーパーの提出状況）（45%）、授業中の質問、発表等、積極的関与があれば適宜加点(5%）する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
1. 国際文化交流に関する基礎的な知識を習得している。
2. 国際文化交流に関する最新の動向や理論を習得している。
3. 文化の特質について基礎的な概念を習得している。
4. 国際人として行動する上で必要となる文化多様性に関する基礎知識

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

世界史及び日本史の基礎的知識、世界の文化、国際情勢に関する広範で偏らない知識を要する。

〔テキスト〕

購入の必要はない。各講義の前に、各テーマに関するテキストを配布する。また、他に必要な文献資料等はその都度配布する。参考書籍に関しては、授業の進度にあわせてその都度紹介する。

〔参考書〕

1. 『文化と外交 － パブリック・ディプロマシーの時代』渡辺靖著、中央公論新社、ISBN978-4-12-102133-5
2. 『<文化>を捉え直す：カルチュラル・セキュリティの発想』渡辺靖著、岩波書店、ISBN 978-4-00-431573-5
3. 『国際文化交流を実践する』国際交流基金編、白水社、ISBN 978-4-560-09797-7
4. 『国境を越えるためのハンドブック』小川忠編、白水社、ISBN 978-4-560-09451-8

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

原則、授業終了後に教室で受け付ける。また、随時、電子メールでも受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	異文化理解トピックス（イスラーム世界）						
教員名	堀内　正樹						
科目№	120821060	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

イスラームは「宗教」であると理解されがちだが、すでに千数百年間、アフリカからユーラシアにわたって、多民族・多文化が共生する広大な社会空間の秩序維持ルールとして機能してきた。本授業では、「社会システム」としてのイスラームのあり方を理解してもらう。そのためにまずは西欧中心主義的な従来の世界史像を大胆に放棄し、本来の世界史の流れとその特徴を理解する。そのうえで、歴史の主潮流を形作ってきたイスラーム世界の特徴と西欧近代世界の特徴を対比的に捉える。その認識を足場にして、非境界的・脱国家的な本来の人間社会のあり方を、イスラームをモデルに探ってゆく。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
1. イスラームを過大評価も過小評価もしないバランスのとれた理解に到達する。
2. 欧米の報道等によって形作られるイスラームへの偏見を自覚できるようになる。
3. 非境界的なイスラーム世界のあり方を理解し、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 導入:信仰としてのイスラームと法としてのイスラーム ・西欧発の「宗教」という概念の特殊性を認識し、それを相対化する。 ・イスラームの基本的世界観を把握する。	[予習]自分がもっているイスラームについての情報を整理しておく。	60
第２回	イスラームの基礎知識(1) ・五柱について学修する。 ・イスラームの基本的な知識を理解する。	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第３回	イスラームの基礎知識（2） ・六信について学修する。	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第４回	イスラームの基礎知識（3） ・コーランとハディースの成り立ちと性格について理解する。 ・学問としてのイスラームの概要を理解する。	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第５回	中東のキリスト教とユダヤ教 ・イスラーム世界が多宗教からなっていることを学修する。	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第６回	歴史認識の組み替え ・西欧近代中心主義的な歴史観の偏りと限界を理解する。 ・「世界史」という概念の成立とその目的を学修する。 ・イスラーム世界の世界史上の位置を理解する。	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第７回	・総合討論（中間）	[予習・復習]初回からの授業を振り返り、疑問点等を整理しておく。	120
第８回	非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(1) ・「バザール型社会システム」の成立条件としくみを学修する。	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第９回	非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(2) ・市場（＝社会）秩序維持に果たすイスラーム法の機能を学修する。	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第１０回	非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(3) ・社会的ネットワークの要としてのサウジアラビアとモロッコの位置を理解する。	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第１１回	西欧発の境界型社会システム ・19 世紀に出現した西欧発の特殊な認識のしくみを学修する。 ・そのしくみが特殊な社会システムを作り上げたプロセスを理解する。	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第１２回	非境界的コミュニケーション・システム ・イスラーム世界本来の非境界的なコミュニケーションのあり方を実例を通じて学修する。	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第１３回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテスト	[予習]到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	120
第１４回	到達度確認テストに関する質疑応答 現代の課題 ・２０世紀後半以降にイスラーム世界に生じた政治・社会体制のジレンマを学修する。 ・開発経済の挫折等によって生じた経済システムのジレンマを学修する。 ・イスラーム法と欧米法の矛盾・調整過程を学修する。	[予習・復習]この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、疑問点などを整理しておく	120

〔授業の方法〕

本授業は講義科目である。必要な PDF ファイルなどを CoursePower の「授業資料」にアップするので、毎回事前にダウンロードして、目を通しておくこと。受講生数が多い場合、本授業は一方向的な講義になるかもしれないので、掲示板などのフィードバック手段を活用して、積極的に質問・反論・感想・要望・コメントなどを寄せてほしい。受講生とのインタラクションを通じて、講義内容を柔軟に変更してゆくことも考えている。

なお到達度確認テストでは、授業全体の学修内容についての理解度を確認する。受講生数によってはレポートに切り

〔成績評価の方法〕

平常点で成績評価をおこなう。発言や質問・コメントなど授業への参加状況（５０%）、到達度確認テスト（５０%）などによる総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・イスラームの基礎知識を明確に説明できる。
・「世界史」という考え方を理解し、説明できる。
・境界型社会システムと非境界型社会システムの違いを明確に把握し、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

（1）三木亘『悪としての世界史』（文春学藝ライブラリー）2016 年、文藝春秋。
（2）家島彦一『イスラム世界の成立と国際商業−国際商業ネットワークの変動を中心に』1991 年、岩波書店。
（3）ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体−ナショナリズムの起源と流行』（白石隆・白石さや訳）1987 年、リブロポート。
（4）エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』（今沢紀子訳）1986 年、平凡社。
（5）水野信男・西尾哲夫・堀内正樹（編）『アラブの音文化―グローバル・コミュニケーションへのいざない』2

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	裁判と社会						
教員名	藤田　大智						
科目№	120830110	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

日本の裁判制度や裁判外の紛争解決方法の特徴、役割の議論を通じて、裁判の社会における機能と課題に関する基礎知識を修得し、裁判をめぐる社会の課題を考察する力を養います。
裁判所制度、法律家の役割、裁判（民事・家事・行政・刑事・憲法裁判）の仕組みとそれぞれの特徴、また裁判員裁判を始めとする司法制度改革、裁判外紛争処理制度など、裁判をめぐる社会構造と課題について具体的事例を用いて講義します。

〔到達目標〕

日本社会における裁判制度等の仕組み、運用方法や機能、そこに携わる法曹をはじめとするアクターの役割について基礎的理解を構築する。
法秩序の維持・形成における裁判をはじめとする各制度の意義や機能を理解し、基礎知識を活かして、社会における裁判制度等の課題を考察する能力を養う。
裁判制度に関する基礎知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる(DP2)。
裁判制度に関する社会の課題を発見、分析し、これに対する解決方法をはじめとする考察内容を表現できる（DP4）

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス（講義の進め方、受講方法、テキストの利用方法、予習・復習の仕方、評価方法についての説明） 裁判制度の概要	予習 シラバスを読み、講義の進め方をイメージする。 疑問点があればメモを作成するなどして整理し、講義中に確認・質問できるようにする。 講義中、シラバスを手元で確認できるようにしておいてください。	予習 60 分
第２回	裁判所制度（最高裁判所、高等裁判所、地方裁判所、家庭裁判所、簡易裁判所の機能・役割）	テキスト①第 2 章（pp. 61-98）	予習 90 分
第３回	法律家の役割（法曹三者、準法律家、研究者、法曹養成）	テキスト①第 3 章（pp. 99-154）	予習 100 分
第４回	民事裁判（1）民事訴訟手続きの概要（紛争発生、訴えの提起、民事保全）	テキスト①第 4 章の 1 「民事裁判」（pp. 155-170）	予習 60 分
第５回	民事裁判（2）民事訴訟手続きの概要（口頭弁論、証拠調べ、判決、上訴）	テキスト①第 4 章の 1 「民事裁判」（pp. 170-190）	予習 90 分
第６回	民事裁判（3）民事執行 小テストに向けた講義の復習	関連資料を別途配付します。	予習 90 分
第７回	第 1 回小テスト（第 1-6 回講義内容の定着確認） 刑事裁判（1）刑事訴訟手続きの概要（犯罪発生、捜査手続、公訴提起、検察審査会制度）	テキスト①第 4 章の 4「刑事裁判」（pp. 215-243）	予習 60 分+小テストに向けた復習
第８回	刑事裁判（2）刑事訴訟手続きの概要（公判、判決、裁判員制度、刑の執行、再審）	テキスト①第 4 章の 4「刑事裁判」（pp. 244-253）と第 5 章の 2「国民の司法参加」（pp. 278-294）のうち特に裁判員制度の項目	予習 90 分
第９回	刑事裁判（3）少年事件、強制性交等罪や司法取引などの近年の刑事法改正と社会の課題	関連資料を別途配付します。	予習 90 分
第１０回	憲法裁判（違憲審査制、違憲判決と社会への影響）	テキスト①第 4 章の 5 「憲法裁判」（pp. 253-265）+関連資料を別途配付します。	予習 90 分
第１１回	第 2 回小テスト（第 7-10 回講義内容定着確認） 家事裁判と行政裁判	テキスト①第 4 章の 2「家事裁判」と 3「行政裁判」（pp. 191-215）	予習 60 分+小テストに向けた復習
第１２回	裁判外紛争解決手続・救済制度（裁判所実施の ADR、裁判所以外の機関実施の ADR、法務省人権擁護局の取り組み）	関連資料を別途配付します。	予習 90 分
第１３回	司法制度改革の概要	テキスト①第 5 章の 4「司法制度の改革」（pp. 303-318）	予習 60 分
第１４回	国際化・グローバル化社会における日本の裁判制度の課題	テキスト①第 5 章の 3「国際化と裁判」（pp. 294-302）+関連資料を別途配付します。	予習 90 分

〔授業の方法〕

(1)講義では、関連資料を配付し、同資料も利用しながら講義を進めます。
予習：計画記載のテキスト指定箇所や配布する資料を通読し、自身にとって新たな知識や疑問点を整理して講義に参加してください。
復習：講義において強調する箇所（テクニカルターム、概念、制度の意義など）について、復習してください。
講義では、特に小テスト、期末テストにおいて出題可能性の高い事項を強調して説明します。
(2)基礎知識の定着をはかるため、20-30 分程度の小テストを 2 回実施します（第 7 回講義、第 11 回講義）。

〔成績評価の方法〕

平常点 20%（出席及びリアクションペーパーの評価による）
小テスト 30%（第 1 回小テスト 15%、第 2 回小テスト 15%）
期末テスト 50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特にありません。
広く、法律科目に関連しますので、日本国憲法を含む国内法をはじめとした法律科目を履修していると、講義内容の理解がより高まると思います。

〔テキスト〕

テキスト①は、購入してください。
テキスト①：市川正人、酒巻匡、山本和彦『現代の裁判 第 8 版』（有斐閣、2022 年）、1980 円、ISBN 4641221960
法令の条文に言及して講義しますので、六法（ポケット六法、デイリー六法、判例六法など）を持参するか、パソコンやタブレットをはじめとする端末により条文を確認できる状態で受講することをお勧めします（例えば、インターネット上の「e-Gov 法令検索」の利用が一例として挙げられます）。

〔参考書〕

特にありません。発展的学習に必要な文献について、講義中に紹介することがありますが、購入が必要なものはありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。授業終了後に教室で受け付けます。メールでも随時、質問などを受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域福祉論						
教員名	姫野　宏輔						
科目№	120830310	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

日常生活の中で生きづらさを感じたとき、「自分で何とかする（自助）」か「政府や地方自治体などに助けてもらう（公助）」の二択で対応しようとする人は多いと思います。しかし、自助による福祉は明確に限界があり、公助による福祉は私たちのニーズ（必要）と乖離していることが少なくありません。
そこで本科目では、福祉学において主流化しつつある、私たちの生活に密着している地域社会を基盤として共助を進める、「地域福祉」の概念について基礎的な知識を学ぶとともに、皆さん一人ひとりの考える地域福祉のあり方を具体的に言語化することを練習していきます。
授業前半部は地域福祉の理論についての座学、後半部は実際に地域福祉に取り組んでいる実例の紹介を経て、最終的に受講生の皆さんには「自分が現在住んでいる地域における地域福祉のあり方」を独自に構想してもらい、レポートとして提出してもらう予定です。

〔到達目標〕

DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
（1）現代社会において地域福祉が主流化している現象の思想的な背景と経緯について、基本的な知識を身に着けて理解することができる。
（2）自分の身近な例から地域福祉の実践手法を考え、他者に説明して理解を求めることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション――「福祉」と「地域」	授業中の配布資料を読み返し理解を深める。	30
第２回	地域福祉の思想的背景	授業中の配布資料を読み返し、共同体主義について理解を深める。	60
第３回	地域福祉の歴史	授業中の配布資料を読み返し、世界と日本の地域福祉の歴史について理解を深める。	60
第４回	地域福祉の法制度	授業中の配布資料を読み返し、地域包括ケアについて理解を深める。	60
第５回	地域福祉の対象	授業中の配布資料を読み返し、地域福祉の視点から取り組むことが有効な社会問題について理解を深める。	60
第６回	地域福祉の推進主体	授業中の配布資料を読み返し、社会福祉協議会などのフォーマルな団体について理解を深める。	60
第７回	地域福祉の方法	授業中の配布資料を読み返し、コミュニティオーガニゼーションについて理解を深める。	60
第８回	具体例から学ぶ（1）――高齢者福祉	授業中の配布資料を読み返し、具体的な地域福祉の例について理解を深める。	60
第９回	具体例から学ぶ（2）――社会的孤立	授業中の配布資料を読み返し、具体的な地域福祉の例について理解を深める。	60
第１０回	具体例から学ぶ（3）――マイノリティ	授業中の配布資料を読み返し、具体的な地域福祉の例について理解を深める。	60
第１１回	具体例から学ぶ（4）――過疎・高齢化	授業中の配布資料を読み返し、具体的な地域福祉の例について理解を深める。	60
第１２回	地域福祉の未来（1）――サードセクターと組織マネジメント	授業中の配布資料を読み返し、NPO やボランティアと地域福祉とのかかわりについて理解を深める。	60
第１３回	地域福祉の未来（2）――住民主体のまちづくり	授業中の配布資料を読み返し、地域住民参加型の活動の重要性について理解を深める。	60
第１４回	授業の総括 ・授業の内容にもとづいて課題レポートを作成する。	これまでの授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕

本授業は講義形式で実施します。ガイダンスを除く講義回では毎回の授業終了時に、CoursePower からその授業に関するコメントを提出してもらいます。授業中に扱ったテーマを自分の身近な例に引き寄せて、自分なりに要点を説明できているかという点を重視します。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業時に課されるコメント提出を平常点として 50%、最終回の第 14 回での課題レポートの評価の合計を課題得点 50%の配分で、総合的に評価する。これらの課題はすべて CoursePower から提出する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
地域福祉の理論とその実践手法について、自分自身の言葉で要点を説明することができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
『ストーリーで学ぶ地域福祉』、加山弾・熊田博喜・中島修・山本美香、2020、有斐閣ストゥディア（ISBN-10：4641150753）　※購入の必要なし

〔参考書〕
特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
この授業は対面授業で実施しますので、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	人権とジェンダー						
教員名	本山　央子						
科目№	120830410	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

人間は、本質的に異なる身体・性質・役割をもった男／女のどちらかに明確に区別されるという想定は、わたしたちの生のあり方をどのように規定してきたのでしょうか。この講義では、ジェンダー、セクシュアリティ、フェミニズムに関する基本的な概念と歴史、制度について概説します。また、家族、労働と経済、暴力、政治など幅広い研究領域によるジェンダー分析の成果を紹介することを通して、「自然」「ふつう」、権力、社会正義について批判的に問い直すためのレンズとしてのジェンダーの意味を明らかにしていきます。受講生のみなさんが日常生活の中で出会うさまざまなジェンダーに関わる問題についてもできるだけ取り上げ議論する機会にしたいと思います。
本講義は、各テーマに関する文献講読と課題の提出、授業とディスカッションへの参加、コメントシートの提出、期末試験から成ります。

〔到達目標〕

・ジェンダー、セクシュアリティ、フェミニズムに関わる主要な概念、イシュー、歴史、制度について基礎的な理解を身に着けることができる。
・人権、差別、抑圧、権力に関わるさまざまな今日的問題について、社会の一員として主体的に考え行動することができる。
・今日の具体的課題について調べたり議論に参加することを通して、他者と意見交換しながら自身の考えを深めることができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	1.　イントロダクション 授業内容の概要、授業の進め方、準備・評価について	次回課題文献に目を通しておくこと。	60 分
第２回	2.　フェミニズム運動は何を問うてきたのか フェミニズム運動の歴史、ジェンダー概念の意味について	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第３回	3.　家族という政治的装置 近代家族の成立とフェミニスト批判について	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第４回	4.　家族と労働 日本型雇用のジェンダー側面と変化について	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第５回	5.　労働と経済 労働と経済に関するフェミニスト分析について	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第６回	6.　暴力とジェンダー 暴力とジェンダーをめぐる諸問題	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第７回	7.　デート DV ゲスト講師によるワークショップを予定	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第８回	8.　ジェンダー平等のための法と制度 主要な国際国内法制度の展開と反動について	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第９回	9.　男性という問題 男らしさをめぐる諸議論について	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第１０回	10.　LGBT って？ 性的マイノリティの運動が提起してきた諸問題の導入	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第１１回	11.　性別の同一性と越境 性別の同一性とは何か、トランスジェンダーが提起する諸問題	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第１２回	12.　「ジェンダー」再考 ジェンダー／セックス概念の再整理	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第１３回	13.　ダイバーシティとインターセクショナリティ ジェンダーと他要素との交差性	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分
第１４回	まとめ これまでの議論のふりかえり	講義内容に関する質問や疑問があればコメントシートで提出すること。 次回課題文献に必ず目を通し、わからない点確認したい点を確認しておく。	60 分

〔授業の方法〕

・主にオンラインの講義形式で行います。各回の講義内容は進展度合いによって変更になる可能性があります。
・ゲスト講師による１～２回の講義を予定しています。
・受講生同士のディスカッションの時間も1～２回程度設ける予定です。

〔成績評価の方法〕

・達成度試験（60%）
・事前課題およびコメントシートの提出状況・内容（40%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

なし（毎回資料を配布します）

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

連絡先はポータルサイトで周知する。
授業終了後のアンケートフォームおよび講義中のチャットで受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	こころの健康と臨床<1>						
教員名	林　潤一郎						
科目№	120830510	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

近年、こころの健康問題は社会的に大きな話題となっている。ストレスをかかえやすい現代社会においては、こころの健康とその問題についての正しい知識と対策を知っておくことは、今後の学生生活や社会生活における自分自身を支える上で、また周囲の人と接する際に、有用なものとなるであろう。

本講義では、臨床心理学や精神医学で扱われる代表的なこころの健康問題を取り上げ、多様な理解の枠組みとその予防策・対応策を紹介する。特に、臨床心理学において発展を遂げている認知行動理論および認知行動療法を中心に、心の健康問題（主に精神障害）の予防や軽減および心の健康維持増進に有益だと思われる様々な研究成果や臨床的な知見を、担当教員のカウンセラーとしての実務経験も踏まえて紹介する予定である。

なお、授業の進捗および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。

〔到達目標〕

DP2（教養の習得)、DP3（課題の発見と解決)、DP5（多様な人々との協働）を実現するために、以下を達成目標とする。
（1）（自他の）こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと)。
（2）こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。
（3）こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパートリーを学ぶこと。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・こころの健康問題の概観を知る。	【復習】授業で紹介した内容を理解する。また、主要トピックやキーワードを振り返り、説明できるようにする。	【復習】60
第２回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（１） ・こころの健康ー不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第３回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（２） ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る（続き)。 ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第４回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（３） ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ（続き)。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第５回	気分障害（１） ・気分障害を理解する。 ・「日常的に経験する（抑うつ気分)」と「うつ病」の異同を知る。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第６回	気分障害（２） ・気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第７回	気分障害（３） ・気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ（続き)。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第８回	睡眠障害 ・睡眠の基本性質を知る。 ・睡眠障害を理解する。 ・睡眠障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第９回	不安障害（１） ・パニック障害を理解する。 ・パニック障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第１０回	不安障害（２） ・社会不安障害（社交不安障害）を理解する。 ・社会不安障害（社交不安障害）で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第１１回	不安障害（３） ・強迫性障害を理解する。 ・強迫性障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第１２回	パーソナリティ障害 ・パーソナリティ障害を理解する。 ・パーソナリティ障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第１３回	摂食障害 ・摂食障害を理解する。 ・摂食障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第１４回	統合失調症 ・統合失調症を理解する。 ・統合失調症で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50

〔授業の方法〕

授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。期末テストを実施する。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。また、出欠確認のために学生証を利用するので、必ず持参して授業に臨むこと。

なお、レスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。

・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整

〔成績評価の方法〕

授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末テスト（60%）、により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

（1）（自他の）こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。

（2）こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。

（3）こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパートリーを学ぶこと。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心

〔テキスト〕

特になし。なお、各回のレジュメは Course Power にアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

〔参考書〕

特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	こころの健康と臨床<2>						
教員名	北原　祐理						
科目№	120830610	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

昨今、こころの健康問題は多様化し、その対応や予防が社会的課題となっている。こころの健康問題（精神疾患を含む）に関する基礎的な知識と対応を知ることは、今後の学生生活や社会生活において、自分自身を支え、周囲の人と関わるうえで有用なものとなろう。本講義では、臨床心理学や精神医学が扱うこころの健康問題を取り上げ、その状態や背景について生物-心理-社会的な側面から理解できるようになることをめざす。また、担当教員の教育領域・医学領域での実務経験を踏まえ、認知行動療法を中心とした問題へのアプローチや、生活のマネジメントに活きる知見を織り交ぜて講義する。本講義の終わりには、自らの、そして、他者のこころの状態に関心をもち、行動する姿勢を身につけることが期待される。

※授業の進捗及び学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下を到達目標とする。
（1）こころの健康問題に関する正しい知識を得ること（で、誤解や偏見を減らすこと）
（2）こころの健康問題を取り上げながら、その状態や対処のレパートリーを説明できること
（3）自分や他者の「こころの健康」のあり方と、それに向けて実行できる行動について考えること

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション - 本コースの趣旨を理解する。 - 現代の代表的なこころの健康問題を概観する。	【予習】シラバスに目を通しておく。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について理解する。	【復習】60
第２回	こころの問題を理解するための基本的枠組み（1） - こころの健康ー不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 - こころの問題を理解するための代表的枠組みを学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第３回	こころの問題を理解するための基本的枠組み（2） - こころの問題を理解するための代表的枠組みを学ぶ（続き）。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第４回	こころの問題を理解するための基本的枠組み（3） - 認知行動療法の考え方と方法論を体験を通して学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第５回	抑うつ障害の理解と対処 - うつ病の特徴を理解する。 - 抑うつ状態とうつ病の違いを知り、予防法・対処法を学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第６回	双極性障害の理解と対処 - 躁状態の特徴を理解する。 - 双極性障害への対応を学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第７回	不安障害の理解と対処（1） - 社交不安症の特徴を理解する。 - 不安に対するアプローチを学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第８回	不安障害の理解と対処（2） - パニック症の特徴を理解する。 - 不安に対するアプローチを実践する。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第９回	強迫性障害の理解と対処 - 強迫性障害の特徴を理解する。 - 強迫症状に対するアプローチの実践例を知る。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第１０回	心的外傷後ストレス障害（PTSD）の理解と対処 - PTSD の特徴を理解する。 - 日本における災害後 PTSD の例を知る。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第１１回	ストレスと心身症 - 心身が関連し合って生じる問題について理解する。 - 食行動や睡眠とこころの健康問題の関連を知る。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第１２回	ストレスマネジメント -「ストレス」の特徴を理解する。 - ストレスマネジメントのための具体的な方法を学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第１３回	発達に関する障害の理解と対処 - 発達障害の概念と種類を知る。 -「障害とは何か」について考える。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第１４回	こころの健康とライフサイクル - 各発達段階における課題と見られやすいこころの健康問題を知る。 - 本コースのまとめ：自分と他者のこころの健康について考える。	【予習】授業内容全体を復習し、質問があれば、用意しておく。 【復習】本講義で学んだことを振り返り、こころの健康についての考えを深める。	【予習】30 【復習】30

〔授業の方法〕

※この授業は、オンラインで実施します。
※受講人数によっては、以下の方法を多少変更する場合があります。
授業は小規模なワーク・ディスカッションを含む講義を中心に進める。受講者は毎授業後にコメントシートを提出し、これが平常点に含まれる。必要に応じて、授業の冒頭でコメントシートへのフィードバックを行う。加えて、小テストと期末レポートを課す。復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。
各課題の目的は以下の通りである：
● コメントシート：各授業を通して、感じたこと、考えたこと、疑問などを言語

〔成績評価の方法〕

● 参加状況・コメントシートの提出による平常点（40%）
● 小テスト（20%）
● 期末レポート（40%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、到達度によって評価する。
（1）こころの健康問題に関する正しい知識を得て、伝達できること
（2）こころの健康問題とその予防法や対応方法を関連づけて説明できること
（3）自分や他者のこころの健康を保つための姿勢や行動を考えること

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心

〔テキスト〕

※ 講義のスライドや資料の配布は Course Power を通して行う。
※ 購入の必要なし
・『臨床心理学（New Liberal Arts Selection)』（丹野義彦他，2015）有斐閣

〔参考書〕

・『大学生のストレスマネジメント―自助の力と援助の力』（齋藤憲司他，2020）有斐閣
その他、講義の中で適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

2023 年度はオンライン開講のため、メールまたは Zoom 上で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	高齢者福祉論						
教員名	姫野　宏輔						
科目№	120830710	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

本科目は、現代社会における「老い」と「福祉」について、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、それはなぜなのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。
そのためこの授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて 2 回を 1 セットにして、(前半) 重要なキーワードを学ぶ→ (後半) 実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。
今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、「老い」のもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。

〔到達目標〕

DP2 (教養の習得)、DP4 (表現力、発信力)、DP5 (多様な人々との協働) を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
(1) 老いがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身に着けて理解することができる。
(2) 自分の身の回りで起こっている老いと社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分で考えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修 (予習・復習等)	準備学修の目安 (分)
第1回	イントロダクション――「老い」とは何か	復習・授業中の配布資料を読み返し理解を深める。	30
第2回	老いとディスアビリティ (1)	復習・授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティ概念について理解を深める。	60
第3回	老いとディスアビリティ (2)	自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。	60
第4回	老いと家族・血縁 (1)	復習・授業中の配布資料を読み返し、家族・親族によって支えられてきた高齢者福祉の歴史について理解を深める。	60
第5回	老いと家族・血縁 (2)	自分の家族・親族が老いのもたらす社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。	60
第6回	老いと人間関係 (1)	復習・授業中の配布資料を読み返し、老いと社会的孤立の相関関係について理解を深める。	60
第7回	老いと人間関係 (2)	自分ならば、老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。	60
第8回	老いと経済・年金 (1)	復習・授業中の配布資料を読み返し、老いと経済活動の関係性について理解を深める。	60
第9回	老いと経済・年金 (2)	老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、自分ならばどのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。	60
第10回	老いと世代間格差 (1)	復習・授業中の配布資料を読み返し、少子化と労働力人口の減少について理解を深める。	60
第11回	老いと世代間格差 (2)	若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。	60
第12回	老いと自己決定 (1)	復習・授業中の配布資料を読み返し、成年後見制度を例に自己決定の問題の要点を理解する。	60
第13回	老いと自己決定 (2)	「自己決定」を支援する福祉制度のありかたについて、自分なりに考えてみる。	60
第14回	授業の総括	少子高齢化が進展する社会において、望ましい社会デザインを自分なりに考えてみる。	30

〔授業の方法〕

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は 2 回を 1 セットにして、(前半) 重要なキーワードを学ぶ→ (後半) 実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1 セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントを提出してもらいます。絶対的に「正しい」解決策はありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。

〔成績評価の方法〕

2 回の授業ごとに課される毎回のコメント（CoursePower から提出）を平常点として 50%、第 14 回授業時に課す課題レポート（これも CoursePower から提出）を到達度の確認として 50%の配分で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔参考書〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

本講義は対面授業で実施するので、授業終了後に教室で受け付けます。また、講師への問い合わせ先は第 1 回授業の資料に記載します。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	福祉社会に生きる						
教員名	姫野　宏輔						
科目№	120830810	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

本科目は、現代社会におけるさまざまな社会福祉政策について、武川正吾『福祉社会――包摂の社会政策』（有斐閣）をテキストに用いて学んでいきます。
少子高齢化の進展は、社会のメンバーの中に、ケアや支援を必要とする人の増加をもたらしますが、社会福祉政策の対象は高齢者に限りません。どのような人たちに支援が必要なのか、なぜ必要なのか、「そもそも」論に立ち戻って考えることをこの授業では重視します。そこで各回の授業計画に掲載しているような「問い」を設定し、これらの問いに対して、社会学（特に福祉社会学）的な観点から考える視点・思考方法を紹介します。
受講者には福祉社会を「自分とは縁遠いもの」として考えるのではなく、網の目のように設計された現在の福祉社会の中に自分を位置づけ、今後どのような社会像を描けばよいか、自分自身で考えてもらうことを重視します。

〔到達目標〕

DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
（1）現代の福祉社会の設計とその思想的な背景について、基本的な知識を身に着けて理解することができる。
（2）現代の福祉社会の抱える問題について理解し、自分の言葉でそれを説明し、将来の方向性について考えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション――「福祉」とは何か	授業中の配布資料を読み返し理解を深める。	30
第２回	排除と包摂（１）――社会の中のマイノリティは誰か	授業中の配布資料を読み返し、排除と包摂の概念について理解を深める。	60
第３回	排除と包摂（２）――ディスアビリティを作り出しているのは何か	授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティの概念について理解を深める。	60
第４回	「ニーズ（必要）」と「ディマンド（需要）」――支援を必要とする人は誰か	授業中の配布資料を読み返し、福祉制度における必要と需要を把握することについて理解を深める。	60
第５回	資源の再分配――どうやって「公平な社会」を作るのか	授業中の配布資料を読み返し、福祉社会における資源の再分配と公共哲学の理論について理解を深める。	60
第６回	専門主義と官僚制――福祉制度の設計は専門家に任せるべきなのか	授業中の配布資料を読み返し、福祉制度の設計とその思想的な背景について理解を深める。	60
第７回	到達度の確認 ・第 2 回～第 5 回の授業の内容にもとづいて中間レポートを作成する。	第 2 回～第 5 回の授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。	60
第８回	福祉国家の分類――どのような福祉社会がありうるか	授業中の配布資料を読み返し、福祉国家の類型とその代表的な例について理解を深める。	60
第９回	福祉国家の国家間比較（１）――アメリカの福祉社会のデザインとは	授業中の配布資料を読み返し、アメリカ合衆国のウェルフェア・キャピタリズムについて理解を深める。	60
第１０回	福祉国家の国家間比較（２）――ドイツの福祉社会のデザインとは	授業中の配布資料を読み返し、ドイツの社会保険政策と相互扶助について理解を深める。	60
第１１回	福祉国家の国家間比較（３）――スウェーデンの福祉社会のデザインとは	授業中の配布資料を読み返し、スウェーデンの社会政策と現代の問題点について理解を深める。	60
第１２回	多様化する福祉の担い手（１）――グローバル化は社会をどう変えるか	授業中の配布資料を読み返し、グローバル化が社会にもたらす変化について理解を深める。	60
第１３回	多様化する福祉の担い手（２）――ジェンダー主流化は社会をどう変えるか	授業中の配布資料を読み返し、ジェンダー主流化が社会にもたらす変化について理解を深める。	60
第１４回	授業の総括 ・授業の内容にもとづいて最終課題レポートを作成する。	これまでの授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕

本授業は講義形式で実施します。ガイダンスを除く講義回（第 2 回～第 6 回、第 8 回～第 13 回）では毎回の授業終了時に、CoursePower を用いてその授業に関するコメントを提出してもらいます。また、第 7 回・第 14 回では、それまでの授業の内容についての理解度を確認する中間レポート・課題レポートをこれも CoursePower から提出してもらいます。授業内容を丸暗記するのではなく、授業中に扱ったテーマを自分の身近な例に引き寄せて、自分なりに要点を説明できているかという点を重視します。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業時に課されるコメント提出を平常点として 50%、授業第 7 回の中間レポートと授業第 14 回の課題レポートの評価の合計を課題得点 50%の配分で、総合的に評価する。これらの課題はすべて CoursePower から提出する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
福祉社会の設計とその思想的な背景について、自分自身の言葉で要点を説明することができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

『福祉社会――包摂の社会政策（新版）』武川正吾、2011、有斐閣アルマ（ISBN-10: 464112406X）　※購入の必要なし

〔参考書〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

本講義は対面授業で実施するので、授業終了後に教室で受け付けます。また、講師への問い合わせ先は第 1 回授業の資料に記載します。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	共生社会トピックス（日本女性史）						
教員名	矢越　葉子						
科目№	120831110	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 後期

〔テーマ・概要〕

【テーマ】様々な史料から読み解く女性のあり方
【概要】歴史学を学ぶためには様々な形態の史料を扱う必要がありますが、読み解く方法もそれぞれです。本科目では日本の古代を中心とした前近代の史料とその扱い方を通じて、女性のあり方を考えていきます。

〔到達目標〕

次の２点を到達目標とします。
①日本史を学ぶ上で不可欠な史料に関する基礎的な知識を得て、その性格や扱い方を正しく理解できる。
②各時代の女性のあり方は、社会の構造に根ざしたものであることを理解できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス―歴史学と史料	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】高校日本史教科書を用いて、奈良・平安時代の部分を復習する。	60
第２回	編纂史料にみる古代の女性　1. 六国史	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第３回	編纂史料にみる古代の女性　2. 律令	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第４回	文学作品にみる古代の女性　1. 万葉集	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第５回	一次史料にみる古代の女性　1. 戸籍	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第６回	一次史料にみる古代の女性　2. 木簡・墨書土器	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第７回	一次史料にみる古代の女性　3. 経典	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第８回	一次史料にみる古代の女性　4. 文書	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第９回	一次史料にみる古代の女性　5. 古記録	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１０回	文学作品にみる古代の女性　2. 王朝文学	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１１回	中世以降の変化　1. 家	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１２回	中世以降の変化　2. 宗教	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１３回	中世以降の変化　3. 史料の多様化	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１４回	到達度確認テスト	【予習】これまでの授業内容を振り返り、到達度確認テストに備える。 【復習】授業全体の復習をする。	60

〔授業の方法〕

配布プリントをもとに、講義内容を詳述します。到達度確認テストを行うほか、授業ごとにリアクションペーパーの提出を求めます。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト 60%、リアクションペーパー40%で評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本史

〔テキスト〕

随時配布します。

〔参考書〕

大口勇次郎・成田龍一・服藤早苗編『新　体系日本史 9　ジェンダー史』山川出版社、2014 年
国立歴史民俗博物館編『企画展示　性差の日本史』2020 年
　上記 2 点に加え、必要に応じて授業中に指示します。必ずしも購入する必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

23/2/10 16 時 32 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	共生社会トピックス（アートと社会）						
教員名	槇原　彩						
科目№	120831120	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2023 前期

〔テーマ・概要〕

「アートプロジェクト」という言葉を耳にしたことはありますか？
「アートプロジェクト」とは、おもに 1990 年代以降、日本各地で展開されている共創的芸術活動のことです。「アートプロジェクト」は現代美術にダンス、音楽、演劇など、さまざまな芸術ジャンルで織りなされています。大きな特徴としては、アーティストたちが、美術館や公共ホールなどの施設から飛び出して、野外やまちなか、廃校、廃屋、古民家などで展覧会や演奏会をおこなっていること、さまざまな属性の人びとが関わるコラボレーションと、それを誘発するコミュニケーションが生じていること、作品を展示や上演するだけでなく、多彩な社会的事象と関わりながら展開されていることです。特に近年では、拠点づくりやコミュニティの課題を解決するための社会実験的な活動、芸術以外の社会的包摂や教育、医療などの分野まで、その影響が波及しています。
本授業では、実際におこなわれている多様な「アートプロジェクト」の実践を紹介し、「芸術と社会の関係性」について思いを巡らせながら、考察を重ねていきます。

〔到達目標〕

アートプロジェクトの実践事例を学び、以下の視座を獲得することを目指します。
①「芸術」との関わり方は、「制作する」「鑑賞する」だけではないことを知る。
②「芸術」と「社会」の間にある関係性をふりかえり、「芸術」は芸術家やアーティスト、愛好家など限られた人々だけのものなのではなく、自分自身もその主体であるという意識を持つ。
③「芸術」を通して社会の課題を解決するという観点について、自分自身の視座を見出す。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP2、DP3 および DP4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60
第２回	アートプロジェクトとは？（１） 【内容】 アートプロジェクト概説	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	アートプロジェクトとは？（２） 【内容】 アートプロジェクトの現在	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	美術とアートプロジェクト 【内容】 地域の歴史をリサーチして作品を制作するとは？	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	音楽とアートプロジェクト 【内容】 音楽の専門知識や専門技術を必要とせず、誰もが参加できる音楽とは？	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	映画とアートプロジェクト 【内容】 映画を制作することでうまれるコミュニケーションとは？	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第７回	演劇とアートプロジェクト 【内容】 演劇のもつ異化効果とは？	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第８回	社会の課題と向き合うアートプロジェクト（1） 【内容】 地域活性化、観光客誘致と経済波及効果	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	社会の課題と向き合うアートプロジェクト（２） 【内容】 無縁社会、地域資源の再発見	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	社会の課題と向き合うアートプロジェクト（３） 【内容】 教育との連携	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	社会の課題と向き合うアートプロジェクト（４） 【内容】 社会的包摂	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１２回	社会の課題と向き合うアートプロジェクト（５） 【内容】 多文化共生	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１３回	社会の課題と向き合うアートプロジェクト（６） 【内容】 震災、レジリエンス	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60

第１４回	アートプロジェクトの評価 【内容】 アートプロジェクトの価値とは	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60

〔授業の方法〕

授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。また、課題レポートの執筆を通して調査研究の実践を経験し、期末レポートの執筆によって、知識の定着と自身の興味関心の拠り所を言語化する技術を習得する。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や宿題レポートの提出状況）：50%
個人の発表・パフォーマンス：10%
課題レポート：20%
期末レポート：20%
※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」 を要参照のこと。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①「芸術」と「社会」の関係性について、自分自身で課題を見出すことができるか。
②自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』熊倉純子監修、水曜社、本体 3,200 円＋税、9784880653334
※購入の必要なし
『アートプロジェクトのピアレビュー 対話と支え合いの評価手法』熊倉純子・槇原彩編、水曜社、本体 1,600 円＋税、9784880654812
※購入の必要なし
「日本型アートプロジェクトの歴史と現在 1990 年→2012 年」補遺
URL：https://tarl.jp/archive/art_projects_history_japan_1990_2012_hoi

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング